

昭和 63 年 度
事 業 報 告 書

自 昭和63年 4 月 1 日
至 平成元年 3 月31日

社団法人 日 本 病 院 会

目 次

昭和63年度事業報告

第1	会務報告	1
第2	会 議	11
第3	広 報	41
第4	委 員 会	48
第5	医療従事者無料職業紹介事業	74
第6	定例研究会	76
第7	全国研究会	84
第8	職場リーダー研修会	97
第9	第28回病院視察研究会	99
第10	診療録管理通信教育	101
第11	メディカルクラーク通信教育	104
第12	事務長養成課程通信教育	106
第13	セミナー	108
第14	病院幹部医会	118
第15	海外視察研究会	119
第16	調 査 室	121
第17	医療費対策	123
第18	第38回日本病院学会	127
第19	第29回日本人間ドック学会	130
第20	第14回日本診療録管理学会	133
第21	'88国際モダンホスピタルショウ	139
第22	'88ヘルス展	141
第23	日本病院会政治連盟会務報告	143
第24	要 望 書	148
	役員名簿	188
	各種委員会委員名簿	196
	会員状況	206

第1 会務報告

昭和63年

4月1日 診療報酬改定

医科について3.8%の引上げ、薬価基準が医科で10.2%（医科費ベースに換算3.1%）の引下げ、実質改定0.7%の引上げ

北海道・千葉県・滋賀県・愛媛県・佐賀県が地域保健医療計画を公示

4月8日 自民党『税制改革に関する懇談会』開催

売上税廃案の事由説明 有澤副会長出席

京都府地域保健医療計画公示

4月9日 第84回診療録管理研究会開催

74施設 110名参加

63年度研究会スタート

診療録管理通信教育第28期生認定式 認定者43名 延べ総数 1,168名

4月14日 観桜会に平野常任理事、遠藤香苗理事、道下理事が出席

4月28日 理事補選のため会員へ選挙告示

4月29日 春の叙勲・褒章受章者発表 後藤保郎理事が藍綬褒章受章

4月30日 全理事会開催

厚生問題研究会（代表小沢辰男議員）の参与に諸橋会長の就任要請を承認

奈良県地域保健医療計画公示

5月14日 和歌山県支部総会

5月28日 代議員会・総会開催

昭和62年度事業報告・同収支決算を承認

定款の一部改正を承認 会長任期につき制限条文を撤廃

（8月4日付で厚生大臣が認可）

理事補選を実施

6月1日から翌年3月31日迄の任期で、嘉戸達也浦河赤十字病院長、上田侃札幌循環器クリニック長、北原次一郎社保群馬中央総合病院長、中川三与三九段坂病院長、樋口公明国療神奈川病院長、寺田一郎国保水原郷病院長、亀山宏平新潟県厚生連中央総合病院長、榊田博大津ルーテル病院長、伊藤剛二伊藤胃腸科病院長の9名を選出

監事に戸川潔茨城県立中央病院長の後任として村上義次都立豊島病院長を選出

5月30日 自民党税制調査会が税制改革大綱の中間答申のためのヒアリング実施

有澤副会長が意見陳述

- 6月1日 記者会見実施
四週6休制導入に伴う人件費増に見合う診療報酬改定要望について説明
鳥取県が保健医療計画を公示
- 6月2日 四病団が看護婦確保について要望書提出 養成施設の充実と看護基準の見直し
- 6月15日 事務管理研究会が研究会開催
4月実施の診療報酬改定の影響率調査についてアンケートにもとづき発表
甲表2%、乙表1%ダウンの内容
- 6月16日 四病団が看護婦増員の緊急対策で日看協と懇談
本会から河野副会長が出席
- 6月17日 群馬県保健医療計画公示
- 6月20日 大阪府保健医療計画公示
栃木県地域医療計画公示
- 6月22日 第38回日本病院学会が、諸橋芳夫学会長のもと、メインテーマ“激動をのりこえて進もう”を掲げ千葉県文化会館で開催
23日 学会長講演「医療の変遷と病院の対応」、一般演題196題、5,000人が参集
- 6月23日 '88国際モダンホスピタルショウを池袋サンシャインシティ文化会館で延べ45,000人の参加をみ開催 出展業者 161社
～25日 併設研究会に1,500人が参加
- 7月1日 厚生省、大臣官房内に『老人保健福祉部』を設置
和歌山県地域保健医療計画策定
- 7月5日 厚生省『医療廃棄物処理対策検討会』が初会合
本会から宮崎柏常任理事が参画
- 7月8日 静岡県地域保健医療計画公示
- 7月23日 事務長養成課程通信教育第9期生の認定式実施
認定者10名 延べ総数82名
- 8月3日 茨城県地域保健医療計画公示
- 8月5日 自民党「64年度予算に対する要望聴取」に諸橋会長出席
四週6休制に見合う診療報酬改定 社会保険診療報酬に係る事業税の非課税措置の存続ほかを要望
- 8月7日 JASM（日本社会保険医学会）研修会に会長招聘講演
- 8月11日 厚生省『長寿社会対策推進会議』を設置
- 8月12日 四病団 厚生省に対し「今回の診療報酬改定に対する意見と今後の要望」を提出
- 8月16日 厚生省坂本保険局長ほか保険局幹部と懇談

看護特三類許可に関連して平均在院日数のあり方、実態について意見交換 定期的懇談で
合意

8月18日 総婦長セミナーを東京・番町グリーンパレスで開催
19日 134施設 173名参加

8月20日 病院長・幹部職員セミナーを横浜で開催
21日 280人が参加

8月25日 第29回日本人間ドック学会が岡山赤十字病院長・依田忠雄学会長のもと、岡山プラザホテルで開催
26日 参加者1,000人 本会会員の2割の456病院を短期人間ドック実施機関として指定していること、および全国人間ドック実態調査について臨床予防医学委員会（二本杉皎常任理事）が発表

8月27日 全国医療経営者大会に会長招聘講演

8月29日 厚生省『医薬品流通近代化協議会』再開 昨年9月の報告書のフォローアップが目的
本会から伊藤研理事参画

9月8日 黒龍江省招待ツアー団が訪中
～18日 有澤副会長を団長として10名が参加

9月9日 救急医療功労者として登内真常任理事、時任純孝代議員が厚生大臣表彰受章
石原信吾元参与 逝去 69歳

9月15日 台湾病院協会総会に牧野永城理事（国際委員会委員長）出席
～18日

9月24日 河野稔副会長の辞任を常任理事会で承認
メディカルクラーク通信教育第12期生認定式実施 認定者27名 延べ総数604名

10月1日 医事研究会がレセプト審査による査定減実態調査を実施

10月6日 社会保険診療報酬支払基金関係功績者大臣表彰
比嘉實代議員受章

10月7日 諸橋会長・小野政治連盟委員長ほか 顧問議員団と朝食会
医療費改定を要望

10月20日 第14回日本診療録管理学会が東京慈恵会医科大学教授・桜井健司学会長のもと、国立教育
21日 会館を会場に開催 800人参加
診療録管理通信教育第29期生認定式実施 認定者50名 延べ総数1,218名

10月25日 福岡県病院協会「病院管理研修会」に会長招聘講演

10月30日 大韓病院協会第8次医療保険研修団来日
～11月4日 都立大塚病院ほかを視察

- 11月3日 秋の叙勲・褒章受賞者発表
井坂重長理事が勲四等旭日小授賞受賞、池谷巨委員長（元常任理事）が藍綬褒章受章
- 11月8日 社会貢献者表彰
国会推せん寺田守理事、内田卿子参与、大谷猛九十九里ホーム専務理事が受章
- 11月10日 庶務人事・労務合同研究会が病院事務マニュアルシリーズ6「病院職員教育研修マニュアル」発行
- 11月11日 自民党医療基本問題調査会が医療保険一元化について意見聴取実施
北村行彦常任理事（社会保険・老人保健委員会委員長）が意見表明
- 11月21日 厚生省保険局幹部と2回目の懇談、現行の問題点を踏まえ、将来の診療報酬体系のあり方について言及
- 11月28日 フィリピン病院学会に岡山常任理事が出席
～30日
- 11月29日 '88ヘルス展を都立産業貿易センターで開催
～12月1日
延べ7,000人が参加 75社が出展
- 12月1日 次期（昭和64年4月から昭和67年3月迄）役員選出のため選挙告示
新たに選挙管理委員会設置（池谷巨委員長）
- 12月7日 顧問議員団に対して、①病院間での診療情報提供料の適用 ②緊急手術の時間外等加算
③看護料の適正評価 ④重症者看護特別加算の存続等 25項目の診療報酬改定を要望
他に四週6休制実施のための医療費改定、税制改正における慎重審議を要望
厚生省に対し、診療録管理士（診療情報管理司書）資格の法定化を要望
- 12月8日 記者会見実施
「病院給食外部委託マニュアル」「栄養管理自己評価表」を給食委員会（委員長：中山耕作常任理事 副委員長：財津晃代議員会議長）が作成
前者は、病院給食を外部委託する際のチェックポイントと契約のモデルを示す
後者は、病院給食における栄養管理業務が一定水準にあるかを外部委託の場合も含めての自己採点表
キセノンガス問題に言及 ルール違反であり、処分や返金は妥当であるが、ミドリ十字や厚生省側にも注意や指導などの配慮に欠けていた面があり、地域医療の混乱を招かないよう配慮を望むと見解表明
四病団名で自民党社会部長に対し消費税額に見合う医療費の引上げほかを要望
- 12月15日 諸橋会長ほか 中医協委員・吉田清彦日医常任理事と意見交換
- 12月19日 厚生省医療課に中医協の外部検討会として『医療保険関連領域研究会』が発足 第1回会合開催
三宅浩之委員長参画

- 12月24日 常任理事会で厚生省『新血液事業推進検討委員会』委員として登内真常理事を推せん
- 12月27日 厚生省『医療関連ビジネス検討委員会』が報告書提出
 本会から河北博文参与参画
 第二次竹下内閣発足 小泉純一郎議員が厚生大臣就任
 福岡県地域保健医療計画公示
- 12月30日 税制改革六法案公布
- 昭和64年
 1月6日 厚生省『医薬品流通近代化協議会』が医薬品に係る3%の消費税の転嫁の円滑実施に関し
 合意
- 1月7日 天皇陛下 崩御
- 平成元年
 1月8日 渡邊進顧問 逝去
- 1月12日 ホスピタルショウ賀詞交歓会開宴
- 1月17日 岐阜県地域医療計画公示
- 1月18日 診療報酬改定について厚生省と大蔵省が合意
 消費税の円滑転嫁を目的に診療報酬を4月から0.84%引上げ
 (診療報酬0.12% 薬価基準2.7%医療費ベースで0.72% 計0.84%の引上げ)
- 1月25日 沖縄県地域医療計画公示
- 1月26日 代議員選出締切 新代議員として115名を選出
- 1月30日 厚生省 ミドリ十字放射性医薬品不正請求事件の行政処分について発表
- 1月31日 四病団、厚生省に対し老健施設について病床転換の際の療養室基準の緩和等を要望
- 2月 三重県地域保健医療計画公示
- 2月9日 米国西海岸ツアー団出発
 ~22日 団長・藤沢正清理事 一行32名
- 2月15日 ミドリ十字事件再発防止打合せ開催
 日本製薬団体連合会、日本アイソトープ協会ほかと意見交換
- 2月17日 厚生省『医療ソーシャルワーカー業務指針検討会』が精神科も含めた医療ソーシャルワーカー全体の業務の範囲・方法等を定めた業務指針を作成
 本会から桑島齊三国保旭中央病院副院長が参画
- 2月21日 消費税の実務者講習会実施
 ~23日 21日 京 都
 22日 名古屋
 23日 熊 本 延べ1,500名参加
- 2月25日 香川県地域保健医療計画公示
 東京都地域保健医療計画公示

- 3月1日 厚生省『患者サービスの在り方に関する懇談会』開催
 “来院から退院までのプロセスにおける患者サービスのあり方” についてのモニター報告を検討、本会から中山常任理事参画
- 3月4日 長崎県支部結成 本会8番目の支部
 岩永光治理事が支部長
- 3月15日 吉岡フェローシップに22題応募、検討会開催
 教育委員会開催
- | | | | | | |
|----------|-------|-----|---------|--------|-----------|
| 本年度研究会実績 | 定例研究会 | 33回 | 1,621施設 | 2,449名 | |
| | 全国研究会 | 19回 | 1,181施設 | 1,986名 | |
| | セミナー | 5回 | 270施設 | 337名 | 計4,772名参加 |
- 3月20日 診療報酬改定（消費税）説明会開催
 20日 東京
 22日 神戸 延べ900名参加
- 3月25日 代議員会・総会開催
 平成元年度事業計画案・同収支予算案を承認
 理事会で諸橋会長の3選を採択
 副会長に若月俊一理事（重任）・財津晃理事・中山耕作理事・河北博文理事（新任）を選出
 本年度末会員数2,291病院、入会88病院、退会29病院、前年度より59病院の増加
 機関誌「日本病院会ニュース」連載 “激動の時代を乗り越えるわが病院の経営戦略” 上田侃理事の「人間を好きになろう」等をもって終了
- 3月31日 富山県地域保健医療計画公示
 全国の地域医療計画出揃う
 4月10日厚生省『医療審議会』で状況を踏まえ検討
 諸橋会長、本会から推せんの大道常任理事参画

庶務・人事

叙勲・褒章

4月29日 勲二等旭日重光章

石川 浩一 (関東労災病院長・71・東京)

勲三等瑞宝章

大森 文子 (元日本看護協会会長・75・神奈川)

後藤田淳實 (元徳島県立中央病院長・74・徳島)

中野 保二 (元石川県立中央病院長・74・石川)

勲四等旭日小授章

藤森 邦俊 (元岡谷市立岡谷病院長・71・長野)

渡邊 三郎 (元国家公務員共済組合稲田登戸病院長・72・東京)

勲四等瑞宝章

金子 清 (元新潟県立瀬波病院長・71・新潟)

勲五等双光旭日章

千田 通 (元社会保険相模野病院長・70・宮城)

勲五等瑞宝章

今井 稚代 (元総合太田病院看護部長・60・栃木)

大内 周信 (聖路加国際病院放射線科技師長・63・東京)

佐藤 ミヨ (寿泉堂総合病院総看護婦長・66・徳島)

小路 了一 (元愛知県立城山病院第七看護係長・65・愛知)

田港 芳子 (元沖縄県立名護病院看護部長・61・沖縄)

勲五等瑞宝章

中野千代治 (元国家公務員共済組合稲田登戸病院放射線技師長・71・神奈川)

林 和光 (元大津市民病院放射線科技師長・66・滋賀)

藤生 茂 (元厩橋病院看護長・62・群馬)

星澤 政枝 (現駿河台日大病院看護部長・64・東京)

堀 政夫 (現西能病院臨床検査技師・66・富山)

山下 智恵 (元済生会新潟総合病院総看護婦長・70・新潟)

勲六等单光旭日章

井上 幹雄 (元松江市立病院中央放射線科長・62・島根)

勲六等宝冠章

伊藤 幸子 (元愛知県立尾張病院主任外来看護婦長・60・愛知)

垣内 チヨ (元能登総合病院総婦長・58・石川)

- 加藤タケコ (元青山病院看護科長・69・山形)
 角谷 球壽 (元山梨県立中央病院総看護婦長・59・石川)
 鎌田 芳恵 (天王寺病院看護婦長・58・岡山)
 神取 綾子 (元県立愛知病院看護部長・59・愛知)
 小林登美枝 (現済生会吹田病院看護婦長・59・大阪)

勲六等宝冠章

- 小林 道子 (元神戸市立中央市民病院看護部長・59・兵庫)
 柴田 政子 (現済生会御所病院総婦長・59・奈良)
 高田 恵子 (元済生会神奈川県病院看護部長・60・神奈川)
 田部ミツ子 (現湯河原厚生年金病院総看護婦長・55・山口)
 豊田 ミツ (元新潟県立六日町病院看護部長・59・新潟)
 野村 シモ (元北海道済生会小樽北生病院総看護婦長・79・北海道)
 橋本よし子 (元高岡市民病院看護科次長・66・富山)
 花原 哲子 (元鳥取赤十字病院副看護部長・61・鳥取)
 林 ケイ (元新潟県立小出病院看護部長・58・新潟)
 曳沼 ヒテ (元山形県立中央病院総看護婦長・67・山形)
 横山 虎枝 (元清水病院総看護婦長・63・鳥取)

勲六等瑞宝章

- 瀬藤マスエ (現田村病院病棟主任看護婦・70・和歌山)

藍綬褒章

- 後藤 保郎 (現兵庫県立尼崎病院長・64・兵庫)
 高沢文四郎 (現碧水会夕ヶ崎病院長・62・茨城)
 江草 安彦 (現旭川児童院院長・61・岡山)

11月3日 勲三等旭日中綬章

- 井手 一郎 (現聖マリア病院長・77・福岡)

勲三等瑞宝章

- 篠塚 輝治 (元東京都立豊島病院長・70・東京)
 長谷川 功 (元山形県立中央病院長・73・山形)

勲四等旭日小綬章

- 井坂 重長 (現小川赤十字病院長・70・埼玉)

勲四等瑞宝章

- 西村 静一 (元社会保険下関厚生病院長・71・山口)

勲五等瑞宝章

田邊チドリ (現社会保険埼玉中央病院総看護婦長・56・栃木)

山口 貞子 (現加納岩総合病院精神科主任婦長・58・山梨)

勲六等宝冠章

飯 峯 (現高松赤十字病院看護婦長・60・静岡)

伊藤おなみ (現宮本病院主任看護婦・63・和歌山)

松本 幸枝 (現天王寺病院看護婦長・57・鳥取)

山田チエ子 (現さわ病院総婦長代理・59・大阪)

藍綬褒章

吉田 清彦 (日本医師会常任理事・62・神奈川)

池谷 亘 (元蕨市立病院長・67・東京)

人 事

1. 顧 問

(退 任)

平成元年1月8日 渡邊 進(死亡)

2. 副 会 長

(退 任)

昭和63年9月24日 河野 稔(辞任)

3. 理 事

(就 任)

昭和63年6月1日 嘉戸 達也(浦河赤十字病院長)
上田 侃(札幌循環器クリニック長)
北原次一郎(社会群馬中央総合病院長)
中川三与三(九段坂病院長)
樋口 公明(国療神奈川病院長)
寺田 一郎(国保水原郷病院長)
亀山 宏平(新潟県厚生連中央総合病院長)
榊田 博(西大津病院長)
伊藤 剛二(伊藤胃腸科病院長)

(退 任)

昭和63年5月31日 竹内 正也(いわき市立常磐病院長・院長退職)

4. 監 事

(就 任)

昭和63年6月1日 村上 義次(東京都立豊島病院長)

(退 任)

昭和63年5月31日 戸川 潔(茨城県立中央病院長・院長退職)

5. 代議員

(就 任)

昭和63年4月1日 的場 直矢(仙台市立病院長)

伊東 和人(国立千葉病院長)

昭和63年4月20日 斎藤 紀(福島生協病院長)

(退 任)

昭和63年3月31日 齊藤 弘(国立千葉病院長・院長退職)

昭和63年4月20日 田阪 正利(福島生協病院長・院長退職)

昭和63年5月31日 嘉戸 達也(浦河赤十字病院長・理事就任)

中川三与三(九段坂病院長・理事就任)

寺田 一郎(国保水原郷病院長・理事就任)

亀山 宏平(新潟県厚生連中央総合病院長・理事就任)

6. 事務局

(入 社)

昭和63年4月1日 加藤 貞男

7月1日 白杵 豊

(退 職)

昭和63年5月20日 山本 道夫(5月13日死亡)

第 2 会 議

総 会

第 1 回総会

5月28日(土) ダイヤモンドホテル 出席 106 名

1. 昭和62年度事業報告書承認に関する件

原案どおり承認

2. 昭和62年度収支決算承認に関する件

原案どおり承認

(一般会計)

(単位：円)

A. 収入の部

1. 会 費 収 入	237, 925, 270
2. 事 業 収 入	114, 794, 100
3. 賛助会員会費並びに寄附金	23, 106, 340
4. 雑 収 入	25, 007, 634
5. 繰 入 金 収 入	3, 401, 925
当期収入合計	404, 235, 269
前期繰越収支差額	68, 538, 658
収 入 合 計	472, 773, 927

B. 支出の部

1. 事 業 費	223, 765, 601
2. 負 担 金	1, 018, 730
3. 会 議 費	20, 962, 919
4. 事 務 所 費	104, 861, 663
5. 繰 入 金 支 出	24, 500, 000
当期支出合計	375, 108, 913
当期収支差額	29, 126, 356
次期繰越収支差額	97, 665, 014

(特別会計)

A. 基本財産

収入の部

1. 受 取 利 息	3, 444, 246
2. 一般会計より繰入金収入	20, 000, 000

当期収入合計	23,444,246
前期繰越収支差額	72,886,985
収入合計	96,331,231
支出の部	
当期支出合計	0
当期収支差額	23,444,246
次期繰越収支差額	96,331,231
B. 退職金積立金	
収入の部	
1. 受取利息	1,827,251
2. 一般会計より繰入金収入	3,500,000
当期収入合計	5,327,251
前期繰越収支差額	37,311,268
収入合計	42,638,519
支出の部	
1. 支払手数料	29,408
2. 一般会計へ繰入金支出	3,401,925
当期支出合計	3,431,333
当期収支差額	1,895,918
次期繰越収支差額	39,207,186
C. IHF 国際交流基金	
収入の部	
1. 受取利息	378,277
2. 一般会計より繰入金収入	1,000,000
当期収入合計	1,378,277
前期繰越収支差額	10,282,686
収入合計	11,660,963
支出の部	
1. 国際交流関係費	200,000
当期支出合計	200,000
当期収支差額	1,178,277
次期繰越収支差額	11,460,963

3. 定款の一部改正について

定款第13条第1項の但し書き“会長は2期を限度とする”の削除、第13条第4項“役員が任期中退任した場合の後任者の選出は定款第12条による”の文言を挿入する件につき協議、投票があり、それぞれ原案どおり承認。

第2回総会

3月25日(出) ダイヤモンドホテル 出席 101名

1. 平成元年度事業計画(案)に関する件

原案どおり承認

2. 平成元年度予算(案)に関する件

原案どおり承認

(一般会計)

当期収入合計	395,120,200
前期繰越収支差額	91,810,000
収入合計	486,930,200
当期支出合計	447,221,200
当期収支差額	△ 52,101,000
次期繰越収支差額	39,709,000

(特別会計)

基本財産特別会計

当期収入合計	3,781,000
前期繰越収支差額	110,358,000
収入合計	114,139,000
当期支出合計	1,000
当期収支差額	3,780,000
次期繰越収支差額	114,138,000

退職手当積立金特別会計

当期収入合計	1,495,000
前期繰越収支差額	43,444,000
収入合計	44,939,000
当期支出合計	2,000
当期収支差額	1,493,000
次期繰越収支差額	44,937,000

I H F国際交流基金特別会計

当期収入合計	10,428,000
前期繰越収支差額	12,905,000
収入合計	23,333,000
当期支出合計	200,000
当期収支差額	10,228,000
次期繰越収支差額	23,133,000

代議員会

第1回代議員会

5月28日(土) ダイヤモンドホテル 出席 35名

1. 昭和62年度事業報告書承認に関する件

原案どおり承認

2. 昭和62年度収支決算書承認に関する件

原案どおり承認(第1回総会参照)

3. 監事・理事補選に関する件

補選理事9名(公的6名、私的3名)

監事1名(公的)の選出を承認

(理事・公的) (任期6月1日~64年3月31日)

嘉戸 達也 (北海道・浦河赤十字病院)

北原次一郎 (群馬・社保群馬中央総合病院)

中川三与三 (東京・九段坂病院)

樋口 公明 (神奈川・国立療養所神奈川病院)

寺田 一郎 (新潟・国保水原郷病院)

亀山 宏平 (新潟・新潟厚生連中央総合病院)

(理事・私的)

榊田 博 (滋賀・大津ルーテル病院)

上田 侃 (北海道・札幌循環器クリニック)

伊藤 剛 (広島・伊藤胃腸科病院)

(監事)

村上 義次 (東京・東京都立豊島病院)

4. 定款の一部改正(案)承認に関する件

定款第13条第1項の但し書き“会長は2期を限度とする”の削除、第13条第4項“役員

が任期中、退任した場合の後任者の選出は定款第12条による”の文言を挿入する一部改正(案)につき協議、投票があり、賛成多数で承認され総会に付議することとなった。

5. 参与の交代承認に関する件

交代を承認

(株)日本病院薬剤師会会長 (新任)高橋 則行
“ (前任)田村 善蔵

第2回代議員会

3月25日(土) ダイヤモンドホテル 出席 40名

1. 平成元年度事業計画(案)に関する件

原案どおり承認

2. 平成元年度予算(案)に関する件

原案どおり承認(第2回総会参照)

第3回代議員会(次期代議員会による)

3月25日(土) ダイヤモンドホテル 出席 45名

1. 代議員会議長選出の件

向野 栄(福井県・福井赤十字病院長)氏を選出

2. 代議員会副議長選出の件

内海栄一郎(神奈川県・総合新川橋病院長)氏を選出

3. 監事選出の件

村上 義次(東京都・東京都立豊島病院長)、青山 松次(神奈川県・鳥海病院長)両氏を再選

4. 理事選出の件

理事立候補者66名(定員)の選出を承認

理 事 会

第1回理事会(常任理事会と合同開催)

4月30日(土) ダイヤモンドホテル 出席 54名

1. 5月28日開催の代議員会・総会に提出する議案について

下記事項を提出することで承認

(1) 昭和62年度事業報告について

(2) 昭和62年度収支決算について

- (3) 諸規定の一部改正について
2. 会員の入退会について
正会員入会16件、正会員退会2件、賛助会員入会3件、賛助会員退会2件を承認
(4月30日現在 正会員2,246会員、賛助会員397会員)
3. 短期人間ドック・自動化健診実施施設の指定について
下記施設を承認
(短期人間ドック施設)
千葉県 岡田病院 (205床、指定2床)
(自動化健診施設)
千葉県 千葉ロイヤルクリニック
4. 事務局長の定年延長について
2年の延長を図り65才を定年とした
5. 各種団体からの依頼について
下記依頼を承認
- (1) '89アジアメディカルショーの後援名義使用について
依頼先：九州医科器械組合連合会、福岡県医科器械組合連合会、日本工業新聞社
- (2) 患者サービス用病医院ビデオの発行・監修について
依頼先：NHK 放送研修センター
- (3) 日本医師会病院機能評価検討委員会委員の委嘱について
丹野清喜常任理事を委嘱することで承認
依頼先：日本医師会
- (4) 昭和63年度癌特別健診の実施に伴う推進依頼について
依頼先：健康保健連合会東京連合会
- (5) (社)日本病院薬剤師会会長の改選に伴う参与の交代について
交代を承認
新会長 高橋 則行
前会長 田村 善蔵
6. 社会保険診療報酬対策について
改定の問題点、病院の実情をまとめ、次回改定の際には人件費、4週6休の補填費、看護婦養成費等を加味した改定を図るよう厚生省に要望することで了承
7. 老人保健施設について
運用などにつき討議を図ることで承認
8. 病院税制について

税制に関する四病団の活動状況報告、社会保険診療報酬に対する事業税の非課税存続を推進することで了承

9. 病院経営について

現状報告を了承

10. 病院長・幹部職員セミナーの開催について

8月20日(土)～21日(日) 横浜市で開催することで了承

11. 5月28日(土)の諸会議について

下記要領で開催することを了承

常任理事会 午後1時～3時

代議員会・総会 午後3時10分～4時20分

特別講演会 午後4時30分～5時30分

(講演者) 厚生省病院管理研究所研究員 小山秀夫氏

12. 病院管理学会への寄付について

寄付の依頼を了承

13. 各種制度委員会の開催結果について

報告を了承

14. 理事、監事の補充について

理事、監事の欠員補充、理事増員の選挙告示を実施した旨の報告を了承

15. 医療関連ビジネス検討委員会の開催結果について

報告を了承

16. 患者サービスの在り方に関する懇談会の開催結果について

報告を了承

17. 関係団体に対する自民党税制調査会の意見聴取について

報告を了承

18. 中国病院視察の応募状況について

現状報告を了承

19. 第38回日本病院学会の進捗状況について

進捗状況を了承

20. 事務局職員の勤続10年表彰について

会議冒頭の紹介、表彰で了承

総務部 菅原 黎子(昭和53年4月入社)

21. 厚生問題研究会参与の委嘱と参与会の開催報告について

諸橋会長の参与委嘱報告等を了承

22. 四病院団体連絡協議会の開催結果について

開催報告を了承

23. 「病院情報センター」の昭和62年度収支決算報告について

報告を了承

24. 日本病院会政治連盟について

第15回参議院通常選挙に際し、大浜方栄参議院議員、清水嘉与子両氏を推せんすることを了承

第2回理事会（常任理事会と合同開催）

6月21日(木) 千葉市・ホテルニューツカモト 出席 59名

1. 会員の入退会について

正会員入会 6件、正会員退会 1件、賛助会員退会 1件を承認
(6月21日現在 正会員 2,256会員、賛助会員 399会員)

2. 短期人間ドック実施施設の指定について

下記施設を承認

1. 東京都 上板橋病院 (197床、指定2床)
2. 長野県 諏訪中央病院 (200床、指定2床)
3. 京都府 堀川病院 (210床、指定4床)
4. 大阪府 大和病院 (175床、指定2床)
5. 兵庫県 姫路第一病院 (128床、指定5床)

3. 小野肇先生の中国写真展後援依頼について

後援を承認

4. 日本医師会委員会の委員推薦依頼について

下記委員会の推せんを承認

1. 社会保険研究委員会 北村行彦常任理事
2. 病院委員会 丹野清喜常任理事
3. 医業経営検討委員会 有澤源蔵副会長

5. 常任理事の選任について

次回理事会までの継続検討とすることで了承

6. 社会保険診療報酬対策について

今回の診療報酬改定に対しての各役員の意見提出報告、今後の対策、活動状況報告で了承

7. 老人保健施設について

運用に際しての問題点を生じた場合、逐次厚生省に折衝することで了承

8. 病院税制について
医療法人の相続税問題、診療報酬への事業税非課税存続等に対し本会、四病団で協力を推進することで了承
9. 病院経営について
現状報告を了承
10. 標榜科目“口腔外科”の新設について
慎重審議の必要から保留事項とすることで了承
11. 各種制度委員会、研究研修会の開催結果について
報告を了承
12. 訪中団の結成について
有澤副会長を団長とし13名で結成した旨の報告を了承
13. 学会の進捗状況について
下記学会の進捗状況を了承
 - (1) 第38回日本病院学会（諸橋芳夫学会長）
 - (2) 第29回日本人間ドック学会（依田忠雄学会長）
14. 四病院団体連絡協議会の開催結果について
報告を了承
15. アジア病院連盟（AHF）からの参加者紹介について
会議冒頭の紹介で了承
 - フィリピン病院協会
Dr. Bustamante（副会長）
Dr. Fores（理事）
 - 大韓病院協会
Dr. Kim Young Myoung（常任理事）
 - 台湾病院協会
Dr. Chin Mau Wang（常任理事）
16. ファイラマン、レプス両博士の来日について
来日挨拶を了承
 - Dr. Gary L. Filerman
（全米大学病院管理者教育プログラム協議会会長）
 - Dr. Stephen F. Lobes
（オハイオ大学病院管理者教育大学院プログラム学部長）

第3回理事会（常任理事会と合同開催）

11月26日(土) ダイヤモンドホテル 出席 53名

1. 会員の入退会について
正会員入会7件、正会員退会2件、賛助会員入会1件を承認
(11月26日現在 正会員2,274会員、賛助会員403会員)
2. 旅費規程の一部改正について
来年度から宿泊料を現行の役員・委員長8,500円を10,000円、職員・その他6,000円を8,000円に改定することで承認
3. 昭和63年度第2四半期会計報告及び監査報告について
一般会計、特別会計の収支報告、監査報告を承認
4. 短期人間ドック実施施設の指定について
下記施設を承認
 1. 青森県 黒石市国民健康保険黒石病院 (274床、指定5床)
 2. 群馬県 島田記念病院 (256床、指定3床)
 3. 大阪府 大道病院 (250床、指定2床)
 4. 福島県 和白白院 (250床、指定2床)
5. 厚生省からの依頼について
昭和63年の医師、歯科医師及び薬剤師の届出及び調査協力依頼を承認
6. 各種団体からの依頼について
第2回医療ニューメディア・シンポジウムの後援名義を承認
7. 欧米の医療と日本の医療
 1. アメリカの医療と日本の医療
 2. イギリスの医療と日本の医療論文“欧米の医療と日本の医療”を衆参社労委員、厚生省幹部等に届け、本会の意見表明とすることで了承
8. 社会保険診療報酬対策について
社会保険診療報酬等の是正要望事項(26項目)をまとめ、厚生省と討議した旨報告、今後も適正なる改定を図るため活動する事です承
9. 昭和65年度を目途とする改正について
 1. 医療法、老人保健法、国民健康保険法
 2. 長寿社会対策について現状報告、会として慎重に対処することで了承
10. 老人保健施設について

会として運用に伴う諸問題をまとめ提言を図ると了承

11. 病院税制について

消費税導入に伴う病院としての諸問題を討議、日病、四病団として医業税制の改善を図るため関係省庁へ要望を図ること了承

12. 病院経営について

現状報告、ミドリ十字事件の再発防止を図るべき、会としてまとめ対処すること了承

13. 昭和64年度事業計画(案)について

原案を承認

14. 昭和64年度役員改選について

2月期理事会で承認されている選挙管理委員会の設置に伴う、①定款施行細則、②選挙事務取扱い、③選挙告示、④選挙規程の字句の訂正、追加につき逐一説明、選挙管理委員会の構成人員として地域等を勘案し、公的側から戸川潔（元監事）、池谷亘（元常任理事）の両先生を、私的側から山本敬（神奈川・衣笠病院）、篠浦旭（東京・河北総合病院）の両先生を、中立の立場で高橋彦太郎（日病事務局長）氏の選出を承認

15. 診療情報管理司書（診療録管理士）の資格法定化に関する要望書について

要望書提出を承認

16. 給食委員会の答申について

答申を了承

17. 各種制度委員会、研究研修会、セミナーの開催結果について

報告を了承

18. 第38回日本病院学会収支決算報告について

報告を了承

19. 第39回日本病院学会の進捗状況について

報告を了承

20. 日本病院会顧問議員団との朝食会開催結果について

報告を了承 10月7日(金)

21. 自民党医療基本問題調査会について

報告を了承

22. 医療関連ビジネス検討委員会の開催結果について

報告を了承

23. 医療 MSW 業務指針検討会の開催結果について

報告を了承

24. 血液事業対策について

厚生省薬務局生物製剤課からの意見提出依頼があり懇談した旨の報告を了承

25. 老人保健審議会の開催結果について
報告を了承

第4回理事会（常任理事会と合同開催）

2月25日(土) ダイヤモンドホテル 出席 52名

1. 会員の入退会について

正会員入会 2件、賛助会員入会 2件、賛助会員退会 5件を承認

（2月25日現在 正会員 2,288会員、賛助会員 402会員）

2. 短期人間ドック実施施設、自動化健診施設の指定について

下記施設を承認

（短期人間ドック）東京都 東和病院（299床、指定4床）

（自動化健診施設）神奈川県 高津中央クリニック

3. 各種団体からの依頼について

下記依頼を承認

1. 第37回日本医療社会事業全国大会、第9回日本医療社会事業学会の後援依頼

依頼先：(社)日本医療社会事業協会、(社)東京都医療社会事業学会

2. 諸橋芳夫会長への顧問就任依頼について

依頼先：(社)日本メディカル給食協会

4. 昭和63年度第3四半期収支決算、監査報告について

一般会計、特別会計の収支報告、監査報告を承認

5. 社会保険診療報酬対策について

消費税導入に併わせ診療報酬0.12%、薬価基準2.7%（医療費ベースで0.72%）併せて0.84%を新年度予算に計上しているが、4週6休の導入、病院医療の質の向上に見合う改定が必要であり、改定に向け強力に推進することで了承

6. ミドリ十字事件の処分について

2月15日に日本製薬団体連合会、(社)日本アイソトープ協会、(社)日本放射線機器工業会の代表と日病関係役員により、再発防止の懇談を実施した。本会の“処分に対する見解”を同調。特定医療法人の取消し処分の危惧に対し大蔵省、厚生省に要望実施したことで了承

7. 老人保健施設について

現状報告、転床に際して諸基準の緩和を図るべき運動展開を実施することで了承

8. 病院税制について

消費税導入に際しての病院への影響報告を了承

9. 病院経営について

役員各位からの現状報告等で了承

10. 平成元年度事業計画(案)について

原案どおり承認され3月期代議員会、総会に上程することで了承

11. 平成元年度予算(案)について

原案どおり承認され3月期代議員会、総会に上程することで了承
(予算額については第2回総会参照)

12. 平成元年度役員改選について

役員立候補締切状況、選挙管理委員会での確認事項を承認

13. 各種制度委員会、各種研究研修会の開催結果について

報告を了承

14. ミドリ十字事件再発防止打ち合せ会の開催結果について

開催報告を了承(詳細は日病ニュース364号参照)

15. 「消費税について」実務者講習会の開催結果について

3会場での開催報告を了承

2月21日(火) 京都市

2月22日(水) 名古屋市

2月23日(木) 熊本市

16. 厚生省「老人保健審議会」の開催結果について

1月25日開催の議事要旨一読で了承

17. 厚生省「医療ソーシャルワーカー業務指針検討会」の開催結果について

2月8日開催の報告書一読で了承

18. 日本病院会会長崎県支部の結成について

諸橋会長の挨拶、会長講演をすることで了承

19. 四病院団体連絡協議会の開催結果について

開催報告を了承

常任理事会

第1回常任理事会

4月30日(土) ダイヤモンドホテル

第1回理事会と合同開催(理事会参照)

第2回常任理事会

5月28日(土) 日病会議室 出席 31名

1. 代議員会、総会の運営について

代議員会、総会の議案を承認、総会修了後厚生省病院管理研究所研究員小山秀夫氏による「老人保健施設をめぐる諸問題」の講演会を承認

(代議員会議案)

第一号議案 昭和62年度事業報告書承認に関する件

第二号議案 昭和62年度収支決算書承認に関する件

第三号議案 監事・理事補選に関する件

第四号議案 定款の一部改正(案)承認に関する件

第五号議案 参与の交代承認に関する件

(株)日本病院薬剤師会会長

〃 (新任) 高橋 則行

〃 (前任) 田村 善蔵

(総会議案)

第一号議案 昭和62年度事業報告書承認に関する件

第二号議案 昭和62年度収支決算書承認に関する件

第三号議案 定款の一部改正(案)承認に関する件

2. 社会保険診療録報酬対策について

厚生省、中医協、日医の動向報告後、役員各位からの意見聴取を図り、十分に協議を尽くし対処することです承

3. 老人保健施設について

現状報告を了承

4. 病院税制について

自民党税制調査会、日病顧問議員団の見解等です承

5. 病院経営について

4週6休制の導入、患者サービスの向上に伴う病院経営問題、地域医療計画の進展に際しての看護婦問題等の協議を了承

6. 厚生省医療廃棄物対策調査会(仮称)の委員選出について

宮崎 柏常任理事を選出することです承

7. 会員の入退会について

正会員入会 9件、正会員退会 4件、賛助会員入会 3件を承認

(5月28日現在 正会員 2,251会員、賛助会員 400会員)

8. 短期人間ドック実施施設の指定について

下記施設を承認

1. 岡山県 総合病院水島協同病院 (320床、指定6床)
2. 岡山県 倉敷成人病センター南くらしき病院 (230床、指定6床)
3. 新潟県 医療法人立川総合病院 (429床、指定2床)

9. 各種団体からの依頼について

下記依頼を承認

1. 「国際セミナー」後援依頼
依頼先：社会医療研究所
2. 「第17回日本病院設備学会」後援依頼
依頼先：日本病院設備学会

10. 各種制度委員会の開催結果について

報告を了承

11. 理事、監事の補充について

理事については定員9名(公6名、私3名)に対し公的は定員の6名、私的は定員3名に対し4名の立候補者、監事については、定員公的1名に対し公的1名の立候補者という現状報告、本日開催の代議員会で理事、監事の補選を実施することで了承

12. 第38回日本病院学会の進捗状況について

報告を了承

13. '88国際モダンホスピタルショウの進捗状況について

報告を了承

14. 病院長・幹部職員セミナーの開催について

報告を了承

15. 四病院団体連絡協議会の開催結果について

報告を了承

16. 労働福祉事業団本部“病院長会議”での講演依頼について

諸橋会長が“我が国の医療政策の変遷とこれからの病院の対応”と題し講演実施

17. 事務局職員“山本道夫”の逝去

報告を了承 5月13日(金) 逝去

18. 昭和63年社会貢献表彰者の推薦について

3名を推せんした旨の報告を了承

- | | |
|-------|-------------------|
| 寺田 守 | 公立陶生総合病院長 |
| 内田 卿子 | 聖路加国際病院総婦長 |
| 大谷 猛 | 社会福祉法人九十九里ホーム専務理事 |

第3回常任理事会

6月21日(火) 千葉市・ホテルニューツカモト

第2回理事会と合同開催(理事会参照)

第4回常任理事会

7月23日(土) 日病会議室 出席27名

1. 社会保険診療報酬対策について

4月診療報酬改定の影響率をみるとほとんどの病院がマイナス改定となっている現状報告、経営の戦略的な事項については各病院に任せ、病診、病病連携をもって医療の充実を図ることとするが、8月中旬の厚生省保険局長等幹部との懇談会時に実状説明を図ることです承

2. 老人保健施設について

若月副会長が実施したモデル事業の結果報告、厚生省と施設運用に際し機会あるごとに検討、要望を図ることです承

3. 病院税制について

事業税非課税措置の現状報告、医師の研修等諸経費の特例措置等の説明です承

4. 病院経営について

昭和62年度の医薬品メーカー、卸、医療機関の各所得の実態報告、日病東京都支部の基準看護2:3:5の要望実施報告を了承

5. 日本病院学会の運営について

第38回日本病院学会(千葉県・諸橋芳夫学会長)、第39回日本病院学会(長野県・若月俊一学会長)の進捗状況報告、開催要領を承認

6. 日本診療録管理学会会則の改正について

会則の大幅な改正点として第5条の会員、構成(正会員、賛助会員、名誉会員)、第8条の役員構成(学会長1名、理事長1名、理事若干名、評議員若干名、監事2名)につき説明、会費徴収により、事業の運営を図らなくてはならないため、学会総会、研究会、機関紙(年2回)の発行をすることを承認し今年10月に開催される日本診療録管理学会の評議員会、総会に上程されることが承認

7. 会員の入退会について

正会員入会7件、正会員退会4件、賛助会員入会3件、賛助会員退会1件を承認
(7月22日現在 正会員2,262会員、賛助会員401会員)

8. 短期人間ドック実施施設の指定について

下記施設を承認

1. 大阪府 阪和住吉病院（175床、指定3床）
2. 山口県 阿知須共立病院（185床、指定4床）
9. 昭和63年度第1四半期の会計報告及び監査報告について
例年8月期常任理事会で審議しているため次回の審議で了承
10. 各種制度委員会の委員交代、追加について
下記委員会委員の交代、追加を承認
医療制度委員会
新任 嶋崎佐智子（日本看護協会常任理事）
前任 大森 文子
給食委員会
追加 大迫 初子（国立病院医療センター栄養科長）
11. 厚生省“医療審議会”委員の推薦について
牧野永城理事の推薦を承認
12. 厚生省“医薬品流通近代化協議会”委員の推薦について
伊藤研理事の推薦を承認
13. 各種団体等からの依頼について
下記依頼を承認
 - ① 第23回健康強調月間に対する強力依頼
依頼先：健康保健組合連合会
 - ② '88給食産業・シンポジウムの協賛名義使用
依頼先：日本能率協会
 - ③ '88病院設備・器械展の協賛依頼について
依頼先：日本設備協会
 - ④ 言語聴覚療法士資格制度に関する要望について
要望書の趣旨につき賛成として了承
依頼先：日本耳鼻咽喉科学会
14. 医療MSW業務指針検討委員会委員の推薦について
国保旭中央病院の桑島齊三副院長の推薦を承認
15. 各種制度委員会、研修研究会の開催結果について
報告を了承
16. 8月期常任理事会の開催について
横浜で開催される病院長・幹部職員セミナーの終了後に日病常任理事会と神奈川県病院協会役員との合同会議を承認

17. 第38回日本病院学会の開催結果について
報告を了承
18. 第39回日本病院学会の開催について
“21世紀の平和社会をめざして”と題し、6月15日(休)～17日(土)に開催することを承認
19. '88国際モダンホスピタルショウの開催結果について
開催報告を了承
6月23日(休)～25日(土) 池袋サンシャイン文化会館
20. 医療関連ビジネス検討委員会の開催について
開催報告を了承、9月7日が最終委員会
21. 診療の用に供するガス設備の保安管理について
会員あて通知を図ることで了承
22. JAS研修会の講演依頼について
諸橋会長が8月7日“医療保険の現状と問題点”と題し、講演することで了承
23. 中国黒龍江省招待による中国・東北地方及び北京視察訪問団について
13名により9月8日(休)～18日(日)の日程で訪問することを了承
24. 事務局職員の採用、異動について
下記採用、異動を了承
(採用) 総務部・臼許 豊(7月1日付)
(異動) 総務部・学術研修部の部長兼任・吉田 實(7月1日付)
25. 四病院団体連絡協議会の開催結果について
報告を了承
26. 損害保険料率算定会あての要望結果について
回答を了承
27. 医療関係職種の効率的業務分担に関する研究会の開催結果について
次回常任理事会での再報告で了承
28. 医療廃棄物処理対策委員会の開催結果について
7月4日(月)の開催報告を了承

第5回常任理事会

8月21日(日) 横浜市・ホテルニューグランド 出席 22名

1. 社会保険診療報酬対策について

8月16日開催の厚生省保険局幹部との懇談会の大要報告、看護特3類の基準施行が20日以内という制約のため重症者が加われは制限日数をオーバーしてしまうことを問題とし

- た。実情に合った政策を図ってもらうため、役員各位の意見聴取があり、意見をまとめ、当局に申し入れを図ることです承
2. 老人保健施設について
現状報告と今後の動向説明です承
 3. 病院税制について
社保診療は非課税となったが、薬品、給食材料、機器及び外注業務など3%の税金をかけるという主旨となったが、最終消費者（支払者）の転課、業務の煩雑とならないよう要望、会として従前の方針を踏襲することです承
 4. 病院経営について
医療法改正に向け、会としての意見提出等を図ることです承
 5. 臨床工学技術学科の新設について
三重大学、武田進学長から学科新設に際しての支援依頼があり会として了承
 6. 会員の入退会について
正会員入会5件、正会員退会5件、賛助会員退会1件を承認
(8月21日現在 正会員2,262会員、賛助会員400会員)
 7. 昭和63年度第1四半期の会計報告及び監査報告について
一般会計、特別会計の会計報告、監査報告を了承
 8. 短期人間ドック施設の指定について
下記施設を承認
 1. 埼玉県 東大宮病院 (262床、指定2床)
 2. 千葉県 津田沼中央病院 (238床、指定2床)
 3. 東京都 玉井病院 (98床、指定2床)
 4. 福岡県 産業医科大学病院 (618床、指定3床)
 9. 民病研フォーラム88の後援依頼について
民間病院問題研究所からのフォーラム開催の後援依頼があったが詳細不明のため保留とすることです承
 10. 各種委員会、セミナーの開催結果について
報告を了承
 11. 定款の一部変更承認について
7月13日付で厚生省に申請した定款の一部変更につき8月4日付で厚生大臣から認可された旨の報告を了承
 12. 厚生省の保険局長等幹部職員との懇談について
診療報酬等の問題点につき意見交換を図った旨の報告を了承

13. 医業関係職種の効率的業務分担に関する研究会の開催結果について
診療情報管理司書の法制化につき要望書原案を作成、検討することで了承
14. 四病院団体連絡協議会について
報告を了承
15. 公私病院連盟の法人認可についての要望
法人認可を側面から支援することを再確認したことで了承

第6回常任理事会

9月24日(土) 日病会議室 出席 24名

1. 社会保険診療報酬対策について
8月に開催した厚生省保険局幹部との懇談会で医療制度、診療報酬等の意見交換報告。
4週6休の導入、患者サービスの向上等実施に際し人件費に見合う診療報酬の改定が必要となり、会として適正なる改正に向け今後も積極的に国会議員、厚生省等に働きかけをすることで了承
2. 医療法、老人保健法、国保法の改正並びに長寿社会対策推進会議について
会として積極的に取り組み、厚生省に対して活発なる助言、要望を図るため、医療制度委員会に諮問することで了承
3. 老人保健施設について
会として療養費の問題、転床に伴う諸基準の改善、緩和等厚生省に働きかけをし、慎重に対処することで了承
4. 病院税制について
医業税制に関し、国会、自民党の動向報告等を了承
5. 病院経営について
診療報酬改定影響率調査の報告等を了承
6. フィリピン病院協会の総会出席者について
岡山義雄常任理事が会長代理で出席することを了承
7. 会員の入退会について
正会員入会 6件、正会員退会 1件を承認
(9月24日現在 正会員 2,267会員、賛助会員 400会員)
8. 短期人間ドック施設、自動化健診施設の指定について
下記施設を承認
(短期人間ドック施設)
 1. 山口県 長 府 病 院 (60床、指定2床)

2. 福岡県 小文字病院(349床、指定1床)

(自動化健診施設)

1. 東京都 神田クリニック
2. 東京都 芝浦船員保険診療所
3. 京都府 大和健診センター
4. 福岡県 九州健康総合センター
5. 富山県 友愛健康医学センター
6. 三重県 富田浜病院健康増進センター

9. 各種団体からの依頼について

下記依頼を承認

- (1) 民病研フォーラム'88後援依頼
依頼先：民間病院問題研究会
- (2) 第12回臨床検査月間の協賛名義使用
依頼先：(社)日本衛生検査所協会
- (3) 病院管理者研修会の講師依頼(諸橋芳夫会長あて)
依頼先：(社)福岡県病院協会

10. 河野稔氏の役職辞任について

辞任を承認することとし、ご功績を称え感謝状、記念品をもって謝意を表すことで了承

11. 診療情報管理司書(診療録管理士)の資格法定化に関する要望書提出について

原案を教育委員会で検討後、常任理事会で審議することで了承

12. 各種制度委員会、研究研修会の開催結果について

報告を了承

13. 第30回日本人間ドック学会の開催について

開催要領を了承

8月24日(木)～25日(金) 東京都・藤間弘行学会長

14. 第14回日本診療録管理学会の開催について

開催要領を了承

10月20日(木)～21日(金) 東京都・桜井健司学会長

15. 中国黒龍江省招待による視察報告について

視察報告を了承 9月8日(木)～18日(日)

16. 台湾病院協会の総会出席報告について

報告を了承

牧野永城理事出席 9月17日(土)

17. 厚生省医療関連ビジネス検討委員会の開催結果について
“医療の公共性” “医療の非営利性” “医業税制” について盛り込む必要があり、会として見解を纏めることで了承
18. 医療 MSW 業務指針検討会の開催結果について
第1回議事要旨一読で了承
19. 患者サービスの在り方に関する懇談会の開催結果について
病院機能について考慮し検討願うことで了承
20. 四病院団体連絡協議会の開催結果について
病院給食評価認定に関する要望書を検討し、四病院名で厚生省健政局指導課あて要望書を提出した旨の報告を了承
21. 救急医療功労者の表彰について
本会の関係として個人では、登内真、時任純孝両先生、団体として武田綜合病院（福島県）がそれぞれ表彰された旨の報告を了承
22. 石原信吾先生のご逝去について
報告を了承 9月9日(金)ご逝去
23. 医薬品流通近代化協議会の開催報告について
会としてモデル契約様式(案)に拘束されないという意見で了承

第7回常任理事会

10月22日(土) 日病会議室 出席 30名

1. 欧米の医療と日本の医療について
アメリカの医療、イギリスの医療等の事情を日本の医療と比較し作成した論文を検討し、西ドイツ等の実情も加味し作成、顧問議員団、厚生省等に意見提出することで了承
2. 社会保険診療報酬対策について
医療費改定後の病院の実態報告、現状をまとめ11月21日予定の第2回目の保険局幹部との会合に報告することで了承
3. 昭和65年度を目途とする改正について
 1. 医療法、老人保健法、国民健康保健法等
 2. 長寿社会対策の推進について改革に際し、厚生省当局へ病院の実情等を踏まえ実施するよう申し入れをすることで了承
4. 老人保健施設について
日病としてのビジョンを出すこととし、竹本副会長が取りまとめすることで了承

5. 病院税制について
現状報告を了承
6. 病院経営について
現状報告、看護婦充足問題を継続的に検討することで了承
7. 昭和64年度事業計画(案)について
概要を了承したが、決定、追加等を順次報告を図り検討することで了承
8. 昭和64年度役員改選について
諸規程検討委員会の提案事項として選挙管理委員会の人選は、公的2名、私的2名、事務局長の構成で運営することという意見が提出され、地域、理事等立候補者でない人を対象として構成することで大筋の合意があり了承
9. 会員の入退会について
正会員入会7件、正会員退会5件、賛助会員入会2件を承認
(10月22日現在 正会員2,269会員、賛助会員402会員)
10. 短期人間ドック施設、自動化健診施設の指定について
下記施設を了承
(短期人間ドック施設)
 1. 千葉県 斎藤労災病院 (148床、指定2床)
 2. 大阪府 淀川キリスト教病院 (388床、指定4床)
 3. 福岡県 楠病院 (48床、指定1床)(優良自動化健診施設)
 1. 高知県・高知県総合保健協会
11. 各種団体からの依頼について
下記依頼を了承
 - (1) コージェネレーションシンポジウム'88協賛名義使用
依頼先：日本コージェネレーション研究会
 - (2) 「エイズ感染予防のポイント―医療関係者のマニュアル」の推薦依頼
依頼先：財団法人血友病総合治療普及会
12. 日本メディカル給食協会・評価認定委員会委員の推薦について
中山常任理事、財津代議員会議長を委員に推薦することで承認
13. 旅費規程の一部改正について
宿泊料を現行の役員・委員を8,500円から10,000円、職員・その他6,000円を8,000円に改正することが承認
14. 各種委員会、研究研修会の開催結果について

報告を了承

15. 日本病院会顧問評議員団との朝食会開催について
開催概要を了承 8月16日 自民党本部
16. 四病院団体連絡協議会の開催結果について
報告を了承
17. 医業関係職種の効率的業務分担に関する研究会の開催報告について
資料一読で了承
18. 第14回日本診療録管理学会の開催結果について
報告を了承 10月20日(木)～21日(金) 東京都・国立教育会館
19. 医療関連ビジネス検討委員会について
報告を了承
20. 第36回老人保健審議会の開催報告について
10月17日開催の報告を了承
21. 昭和63年度社会貢献被表彰者推せん結果について
報告を了承
寺田 守 (公立陶生病院院長)
内田 卿子 (聖路加国際病院総婦長)
大谷 猛 (九十九里ホーム専務理事)
22. 河野稔先生への謝意について
報告を了承

第8回常任理事会

11月26日(土) ダイヤモンドホテル
第3回理事会と合同開催(理事会参照)

第9回常任理事会

12月24日(土) 日病会議室 出席 24名

1. 社会保険診療報酬対策について
会として要望を図った診療報酬関係の諸事項の説明、報告。医療制度委員会による医療法改正の答申を待ち常任理事会、理事会で協議、検討することです承
2. 老人保健施設について
病院における転床の促進を図るべく厚生省への要望を四病団協議会に提言することとした。転床基準の緩和、看護基準2:3:5の方策等を関係当局に要望することを了承

3. 病院税制について
自民党の動向報告、医療経済委員会への公的委員2～3名の追加を承認
4. 病院経営について
現状報告を了承
5. 昭和64年度予算(案)について
経理部第一次試案を承認
6. 対外広報(専門誌への定期掲載)について
週刊社会保障「ひろば」欄に1月23日分竹本副会長、3月6日分、有澤副会長に執筆願うことで了承
7. 短期人間ドックに関する契約書一部更改について
健保連との折衝の末、本年同様“60,000円を標準料金とする”ことで契約。自動化健診料金は各施設から提出された金額で健保連と契約することで了承
8. 日本診療録管理学会会則の改定について
会則検討委員会において、①(会員)第5条の3項「前項の申し込みがあったときは、理事会において、会員資格の認定を行い速やかにその結果を通知しなければならない」とあるのを「資格」を削除したこと、②(理事長)第11条の2項「理事長は日本病院会長が委嘱した日本病院会役員とする」を「理事長は理事が互選し日本病院会長が委嘱する」とした旨の修正報告、常任理事会承認後、全評議員の書面審理とすることで了承
9. 会員の入退会について
正会員入会6件、賛助会員入会1件を承認
(12月23日現在、正会員2,280会員、賛助会員404会員)
10. 短期人間ドック実施施設、自動化健診施設の指定について
下記施設を承認
(短期人間ドック)
長野県 長野県厚生連富士見病院(130床、指定2床)
(自動化健診施設)
愛知県・名古屋簡易保健総合検診センター
11. 事務局職員の給与(国家公務員のベースアップ準拠)について
明年早々に支給することで了承
12. 厚生省“新血液事業推進検討委員会”委員の推薦について
登内真常任理事を推薦することで承認
13. 診療録管理通信教育に関する私的専門学校の認定問題について

今後の検討課題として担当委員長と協議することとし継続審議を了承

14. 各種制度委員会の開催結果について
報告を了承
15. 昭和64年度選挙告示について
12月1日に告示した旨の報告を了承
16. '88ヘルス展の開催結果について
開催報告を了承 11/29~12/1・都立産業貿易センター
17. 未承認医薬（キセノンガス）について
四病団として厚生省に「処分については謙虚に受け止めるが、厚生省にも片手落ちで遺憾」である旨を表明すること等を了承
18. 日本医師会羽田春免会長との懇談について
報告を了承 12月13日(火)
19. 日医医師会 吉田清彦常任理事との懇談会開催結果について
報告を了承 12月15日(休)
20. 四病院団体連絡協議会の開催結果について
報告を了承
21. IHF 事務総長の来日報告について
報告を了承 12月7日(休)
22. 茨城県土浦地区の研修会開催結果について
「これからの病院と看護婦の果たす役割」と題し諸橋会長の講演を了承 12月3日(出)
23. 日本病院会政治連盟の活動について
活動報告を了承
24. 厚生省“医療関連ビジネス検討委員会”の開催結果について
12月15日開催の最終委員会報告を了承
25. フィリピン病院協会総会への出席について
出席報告を了承 11月23日(休)~27日(11)

第10回常任理事会

1月28日(出) 日病会議室 出席 30名

1. 社会保険診療報酬対策について
消費税導入に伴う診療報酬の引き上げ、薬価基準、平均在院日数、今後の厚生行政の重視点等を協議し、今後も病院医療の進展、是正を図るよう推進することです承
2. 老人保健施設について

- 転床に対する提言の説明、報告、役員の見聞聴取で了承
3. 病院税制について
消費税導入に伴う病院への影響報告等を了承
 4. 病院経営について
4週6休実施体制の実態報告等を了承
 5. ミドリ十字事件の再発防止打ち合せ会開催について
2月15日(休)に関係団体等との懇談会を実施することを了承
 6. 平成元年度事業計画(案)について
原案を承認し、2月期理事会に上程することで了承
 7. 平成元年度予算(案)について
原案を承認し2月期理事会に上程することで了承
 8. 平成元年度役員改選について
代議員割当、理事立候補状況を了承
3月25日の諸会議日程(案)を了承
 9. 会員の入退会について
正会員入会6件、賛助会員入会1件を承認
(1月27日現在 正会員2,286会員、賛助会員405会員)
 10. 短期人間ドック実施施設、自動化健診施設の承認について
下記施設を承認
(短期人間ドック)
 1. 東京都 多摩丘陵病院(306床、指定4床)
 2. 岐阜県 白川病院(124床、指定2床)
 3. 大阪府 東大阪病院(265床、指定2床)(自動化健診)
東京都 河北総合病院健康センター
 11. 他団体からの依頼事項について
下記依頼を承認
 - (1) ニューメンブレンテクノロジーシンポジウム'89の後援依頼
依頼先: 社団法人 日本能率協会
 - (2) 医用テレメーターの規制にについての要望について
依頼先: 日本電子機械工業会、日本ME学会等
 12. 各種制度委員会、各種研究研修会の開催結果について
報告を了承

13. 厚生省“医薬品流通近代化協議会”の開催結果について
開催報告を了承 1月6日
14. 厚生省“医療関連ビジネス検討委員会”の開催結果について
12月27日に健康政策局長あて報告書を提出した旨の開催報告を了承
15. 学会の進捗状況について
 - ① 第39回日本病院学会（若月俊一学会長）
進捗状況報告を了承
 - ② 第30回日本人間ドック学会（藤間宏行学会長）
進捗状況報告を了承
16. 四病院団体連絡協議会の開催結果について
64年度税制改正要望を関係国会議員、関係省庁等に提出した旨の報告を了承
17. 来年度予算に対する要望聴取について
自民党から意見聴取があり、本会として、①社会保険診療報酬の改善に必要な経費について、②老人保健施設について、③看護婦等養成所に係る予算について、を骨子に要望した旨の報告を了承

第11回常任理事会

2月25日(出) ダイヤモンドホテル
第4回理事会と合同開催（理事会参照）

第12回常任理事会

- 3月25日(出) 日病会議室 出席 29名
1. 社会保険診療報酬対策について
現状報告を了承
 2. 老人保健施設について
会としての主張を厚生省当局に申し入れをしている旨等現状報告を了承
 3. 病院税制について
消費税導入に伴う病院の対応等の現状報告を了承
 4. 病院経営について
日本、アメリカ等での看護婦充足度、看護学校の必要性等現状報告を了承
 5. 次回の医療法改正に向けての提言について
会としての要望を4月開催の医療審議会に提出することを了承
 6. 平成元年度社会貢献者の推せんについて

- 4月末までに事務局あて推せん届出することで了承
7. 大韓病院協会総会への出席について
諸橋会長が出席することで了承
(5月3日～4日 韓国・太田市)
 8. 3月25日(土)開催の諸会議運営について
開催要領を了承
 9. 医療審議会委員の交代について
牧野永城理事に代って大道學常任理事が残任期間を就任することで了承
 10. 会員の入退会について
正会員入会11件、正会員退会8件、賛助会員入会1件、賛助会員退会5件を承認
(3月25日現在 正会員2,291会員、賛助会員398会員)
 11. 短期人間ドック実施施設、自動化健診施設の指定について
下記施設を承認
(短期人間ドック)
 1. 長野県 長野県厚生連篠ノ井総合病院 (310床、指定9床)
 2. 長野県 丸の内病院 (226床、指定4床)
 3. 京都府 武田病院 (300床、指定3床)
(優良自動化健診施設)
 1. 神奈川県 告原記念健康医学センター
 12. 各団体からの依頼について
下記依頼を承認
 1. 第11回 ME 技術講習会の協賛名義使用
依頼先：(財)医療機器センター
 2. 第38回日本理学療法学会の後援名義
依頼先：(社)全国病院理学療法協会
 3. ナース・リフレッシュ・サロンの後援依頼
依頼先：(財)NHK 放送研修センター
 13. 各種制度委員会、研究研修会の開催結果について
報告を了承
 14. 日本病院会長崎県支部の結成について
報告を了承(3月4日、支部長 岩永光治)
 15. ミドリ十字事件について
厚生省の指導の必要性を強調、会として今後も対応を検討することで了承

16. 四病院団体連絡協議会について

現状報告を了承

17. 厚生省“医薬品流通近代化協議会”の開催結果について

現状報告を了承

第 3 広 報

1. 日本病院会ニュースの発行

<号数>	<発行日>	<主 な 記 事 内 容>
345号	4月10日	1) 63年度事業計画・予算が確定 代議員会・総会 組織拡大か大同団結か 日病事業の根幹を論議 2) 主潮「今こそ大同団結を」 3) 日本病院会63年度研究会の予定表 4) 病院部門別の年間活動を総括 教育・研究担当者会議開く 5) エッセイ「春団治」財津晃 6) 中小病院サバイバル「見事に現れた“やります”と“やっています”」 7) IHF 執行委 メキシコ報告(続) 河野稔
346号	4月25日	1) 税制問題の解決、決着を!! 自民税調意見聴取 事業税＝法人税＝相続税問題 抜本改革の機にと有澤副会長 2) 点数改正の疑義 時間外手術の扱い 特三类病棟の申請 3) 厚生省通知「臨床工学技士法」と「義肢装具士法」の留意事項 4) エッセイ「税金巡り」平野明 5) 寄稿「医の原点——癒しの心の実践の場——を見て」坪 武 6) 中小病院サバイバル「老健カウント率と経営戦略」 7) 28期生43人が修了 診療録管理通教の認定式
347号	5月10日	1) 座談会「今回の点数改正をどう読むか」 おかしいぞ!!現場無視の点数改定 2) 主潮「医療費改定と病院」 3) 医療機器の出展増へ '88ホスピタルショウ(6月池袋)企画会議 4) エッセイ「海峡」小野田敏郎 5) レセプト様式変更の電算機処理について 日病病院情報センター委員会 6) 中小病院サバイバル「疾病別平均入院日数の再登場？」 7) 定款の一部改正案についての解説 会長
348号	5月25日	1) 第38回日本病院学会開幕迫る 6月22—24日千葉市 この激動をいかに乗り切るか

- 2) 「学会を迎えるにあたって」第38回学会長諸橋芳夫
- 3) 学会日程 プログラム 会場案内
- 4) エッセイ「万葉と和歌の浦」遠藤香苗
- 5) 中小病院サバイバル「終わりなき合理化の格闘を願って」

- 349号 6月10日
- 1) 定款一部改正を承認 代議員会・総会 “期限つき規定”取り外し 強力執行体制を確立
 - 2) 看護婦増員を要請 基準承認等で四病団
 - 3) 主潮「医業は営業か」
 - 4) 日病62年度の活動 会務報告から
 - 5) エッセイ「新茶」宮本祥郎
 - 6) 大同団結し立向かえ 日病本部へ要望書 — 和歌山県支部
 - 7) 中小病院サバイバル「療養担当規則の改定はなにを意味するのか」

- 350号 6月25日
- 1) 病院の4週6休は現状では困難 職員増員のため医療費改定を 会員アンケート = 4週6休実施は1割
 - 2) 乙表マイナス1%甲表マイナス2%にも 事務管理研が影響調査を発表 高機能、大病院に減収
 - 3) 戦記「続マリアナ沖海戦記」諸橋芳夫
 - 4) 中小病院サバイバル「“利益が出てるから” はなにもやらない理由にならない」
 - 5) 都病協設置さる 当面都内5病団で — 東京都支部

- 351号 7月10日
- 1) 第38回“千葉”病院学会開く 全病院の組織力で激動のりきれ
 - 2) 学会シンポジウム「病院医療の向上をめざして」「中小病院の生きる道」
 - 3) 学会長講演
 - 4) エッセイ「アラーの神様」中野博光
 - 5) 中小病院サバイバル「まだまだ利益がでているから？」
 - 6) 盛況に'88ホスピタルショウ 3日間のべ45000人が入場

- 352号 7月25日
- 1) 最新米国医療事情を討論 入院医療抑制は日米共通 疾病構造で利用減に
 - 2) ファイラマン、レプス氏と一問一答 激動する米国医療の動向
 - 3) 日本病院学会パネルディスカッション この激動を如何に乗り越えるか

- 4) 独創と実践の病院学会 ― 写真
- 5) 病院の4週6休問題 四病団が要望行動
- 6) 今秋'88ヘルス展 各種イベントを企画
- 7) 損保算定会 火災保険料率見直す スプリンクラー設置等で改正
- 8) エッセイ「ビールはドライ!! 家庭はウエットで」宇井美代子
- 9) 中小病院サバイバル「補助金無しの老健施設の体験から」
- 10) 暑中見舞い名刺広告特集

- 353号 8月10日
- 1) 診療報酬点数の不合理を正す 現場無視の数々の例 省令見直し求め保険局と懇談
 - 2) 日本人間ドック学会 25・26日岡山で第29回開催へ
 - 3) 「第29回日本人間ドック学会開催にあたって」学会長依田忠雄
 - 4) 主潮「地域医療計画は増床の促進か」
 - 5) ドック学会日程、プログラム
 - 6) 中小病院サバイバル「“時間”を大事にするのが経営管理の原則」
 - 7) 認定者のべ82人に 第9回事務長通信教育が終了

- 354号 9月10日
- 1) 癌の早期発見に貢献 人間ドック受診者統計 全国85万人データ
 - 2) 病院問題協議の場に 診療報酬で保険局と懇談
 - 3) 諸橋会長が検討指示 医療保険・制度改正で関係委に
 - 4) 神奈川で院長セミナー 病院機能評価、経営戦略など
 - 5) 主潮「“誘導”とは何か」
 - 6) 医療費再改定を 四病団14項目の意見と要望
 - 7) 早期発見から一次予防へ 日野原氏、ドック刷新の提言
 - 8) エッセイ「現代の超能力」木村千枝子
 - 9) 中小病院サバイバル「患者が来てくれる事実づくり」
 - 10) 来年2月海外研の概要

- 355号 9月25日
- 1) 人間ドック指定制発足して30年に 会員の2割が参加 受診者数は100万人を超える
 - 2) 中国訪問、学術講演も
 - 3) 第14回日本診療録管理学会 プログラムを発表
 - 4) 「学会開催にあたって」学会長桜井健司

- 5) エッセイ「バイク」佐々木和男
- 6) 中小病院サバイバル「医師は変化への挑戦の中核である」

- 356号 10月10日
- 1) 特集・労働時間短縮と病院 現状困難な週休2日制の導入
 - 2) 病院の週休2日制、各部門の実状と意見 看護、薬剤、臨床検査、放射線、栄養、診療録管理、事務管理
 - 3) 「アメリカの医療と日本の医療 何れがよいか」会長諸橋芳夫
 - 4) 中小病院サバイバル「会議、ミーティングの持ち方が活力に」

- 357号 10月25日
- 1) 座談会 労働時間短縮と病院 週休2日制にふみ切るべきか、
 - 2) 週休2日制の導入事例 庶務人事労務研 会員アンケートから
 - 3) 医療費改定を要望 顧問議員団と意見交換
 - 4) エッセイ「自業自得」三竹年世子
 - 5) 「イギリスの医療と日本の医療」会長諸橋芳夫
 - 6) 中小病院サバイバル「“知らない方がよい”の医局にはしてはならない」

- 358号 11月10日
- 1) 病院経営に診療録管理!! 第14回日本診療録管理学会開く 良質の臨床統計情報に期待
 - 2) “不認可”発言は訂正 厚生省、老健施設の開設問題で
 - 3) 「医療法人の前途」副会長有澤源蔵
 - 4) 学会シンポジウム「大学病院の診療録管理」
 - 5) 学会特別講演・阿部正和氏 「医師生涯教育の制度化」
 - 6) 病歴室28人に増員 経営面のマイナスない 新潟市民病院木村氏
 - 7) 特三類で通知 日数算定式など変更
 - 8) 全国用度研高松で開く
 - 9) 中小病院サバイバル「医師の産業訓練を実践し対人恐怖を消す」
 - 10) 大韓病院協会一行が来日 福岡、広島、東京で研修

- 359号 11月25日
- 1) 栄養管理自己評価表を完成 給食委員会 管理者間の検討を 評価チェックして業務向上
 - 2) 保険局と第2回協議 血液事業で薬務局とも
 - 3) 医療保険の一本化 自民調査会で意見 日病北村常任理事
 - 4) 栄養管理自己評価表(一部)

- 5) 第39回日本病院学会・第30回日本人間ドック学会演題募集
- 6) エッセイ「御蔵島」平 和夫
- 7) 中日友誼医院が完成 諸橋会長の貢献に“榮譽”
- 8) 中小病院サバイバル「特三看護の取得は早い方がよい」
- 9) IHF学会ツアー 64年5-6月欧州縦断 募集開始
- 10) 医療従事者の健診 財政措置をと四病団要望

- 360号 12月10日
- 1) 病院の原価構成を解明 診療報酬の真の“適正化”を要す!! 日病・公私連調査
 - 2) 診療報酬協議 保険局と第2回意見交換
 - 3) 主潮「何故三交代なのか」
 - 4) 給食委託の手引き完成 自己評価表と合わせ会員送付へ
 - 5) エッセイ「イナダ釣り」設楽正登
 - 6) 会員紹介＝八家正俊氏 私的中小病院の苦闘をのりこえて 日医最高優功賞に輝く
 - 7) 中小病院サバイバル「決定した施策を認識し方針の決定を」
 - 8) 選挙告示 日本病院会役員改選
 - 9) '88ヘルス展盛況に 3日間7000余人が入場

- 361号 1月1日
- 1) 新春座談会「激動の89年を迎えて」「病院類型化」をどう考える!!
 - 2) 年頭所感「引き続いて激動をのり越えて進もう」会長諸橋芳夫
 - 3) 仕入れは転嫁措置を 消費税導入で要望 四病団
 - 4) “意義と役割”を評価 医療関連ビジネス検討会報告書作成へ
 - 5) 管理栄養士の必置 厚生省、指定基準を提示
 - 6) エッセイ「爛か冷やか」八木下将也
 - 7) 中小病院サバイバル「厳しい一年を覚悟して対処」
 - 8) 謹賀新年名刺広告特集

- 362号 1月25日
- 1) 消費税の円滑転嫁を詰め 医薬流通正常化が課題 診療報酬・薬価は予算措置へ 医薬品流通協の合意4項目
 - 2) 0.84%上げ 厚生・大蔵省が合意
 - 3) 天皇陛下崩御 高木侍医長に諸橋会長書簡
 - 4) 厚生省処分に「見解」 四病団、未承認薬品問題で

- 5) 健保連と契約更改 人間ドック据置き、自動化健診一部改正
- 6) 医療産業の将来 サービス無限にと、行天氏講演
- 7) エッセイ「福山の赤ひげ先生」大田浩右
- 8) 中小病院サバイバル「サービスの向上のコスト要求は当然」

- 363号 2月10日
- 1) 病床利用率がダウン 63年概況調査速報 4月改定の影響出る 検査も減、
院外処方箋は大幅増 私的病院に多い3人以上夜勤
 - 2) 消費税説明会各地で
 - 3) 主潮「老人保健施設実施に転床促進を提言する」
 - 4) 療養室面積の特例を 老健施設転床で提言 四病団
 - 5) 愛知県下の厳格指導 管理面の徹底を
 - 6) エッセイ「日日新たなり」須藤祐司
 - 7) 中小病院サバイバル「確実に増える老人と中小病院」
 - 8) 消費税とは 課税非課税扱い厚生省と検討中

- 364号 2月25日
- 1) 未承認医薬品問題 再発防止策を話し合い 日薬連、アイソトープ協会等と
薬価収載の明瞭化、機構改革
 - 2) 中医協27日答申へ 消費税限定で改定方針
 - 3) 消費税と医療 説明会の第一弾 課税・非課税を特定 大病院・公的に経営
面の影響
 - 4) エッセイ「或る外科医の手記」江本俊秀
 - 5) 中小病院サバイバル「医局の帰属意識高揚に向けて」
 - 6) 「邱仕栄先生を悼む」小野田敏郎

- 365号 3月10日
- 1) 中医協答申 “円滑・適正転嫁” は疑問 薬価とで僅か0.76% 消費税の影
響説明なし
 - 2) 事業計画案 全理事会が承認 25日の代議員会・総会へ
 - 3) 平成元年度の事業計画(案) 病院機能・質の向上へ23項目
 - 4) 主潮「どこまで続く“適正化”ぞ」
 - 5) 4月消費税施行にともなう今回の改定 中医協諮問・答申の全文 「非課税」
が課題残す 東京・神戸で説明会
 - 6) 消費税のコンピュータ処理 「税込み表示」で 企業協議会が統一見解
 - 7) 「放射線障害の防止」労働省が省令改正で通知

- 8) エッセイ「鳩と鼠」財津晃
- 9) 中小病院サバイバル「ロング・ターム・ケアを病院が引き受ける」
- 10) 長崎県支部が発足 岩永光治氏が支部長、諸橋会長も出席し結成大会
- 11) 昨秋訪中記を出版
- 12) 「消費税について」窓口掲示用ポスター

- 366号 3月25日
- 1) 医療法改正に向け「提言」 医療制度委25日答申へ 施設類型にも見解 供給体制中心に論議詰める
 - 2) 病院数1万を突破!! 63年6月分動態調査で判明 医療計画のブレーキも
 - 3) 新代議員115名を選出
 - 4) 日病の職員教育 他にない傑出事業と 63年度活動をふり返る 19研究会がまとめ 部門特有の問題をコメント
 - 5) 中小病院サバイバル「勤務医の生きる道は？」
 - 6) がん・循環器病の従事者 研修生を募集 厚生省

2. 対外的広報活動

委員会報告＝広報委員会の中で報告。

第 4 委 員 会

1. 医療制度委員会

1. 開催回数 9回
2. 出席者数 96名（延べ人員）
3. 協議項目
 - 1) 第二次医療法改正について
 - 2) 病院機能標準化マニュアルについて
 - 3) 医療機能効率化指導について

4. 総 評

会長より諮問のあった「第二次医療法改正について」検討を重ねた結果、3月25日常任理事会において「次回医療法改正に向けて提言」として答申、了承を得た。

一方、「病院機能標準化マニュアル」については看護管理研究会よりほぼ完全な形で提出され、これを参考に各研究会から提出のあった分を修正、あるいは再提出してもらい、平成元年度夏頃までには中間報告が出せる予定である。

平成元年 3月20日

社団法人 日本病院会
会長 諸橋 芳夫 殿

社団法人 日本病院会
医療制度委員会
委員長 丹野 清喜

次回医療法改正に向けての提言

謹啓 予ねて 会長諮問のありました標記につき 別添のとおり報告書を作成致しましたので ご査収下さいますようお願い申し上げます。

敬 具

次回医療法改正に向けての提言

平成元年3月25日

日本病院会 医療制度委員会

憲法により国家責任として社会保障を行うことが義務付けられ、戦後40年以上経過し、その間、国民の健康水準は世界第一位となり、国民生活も向上し社会も大きな変遷を遂げた。国際化、情報化、サービス化、女性の社会進出、余暇の利用、規制の撤廃、民活化等がキーワードとされているが高齢化とともに教育の荒廃と金銭中心の感覚によりバランスに欠けた勝手な国民性が助長され個人・法人間にも地域的にも格差が拡大することが予想される。

医療が国民にとって健康な生活を維持することに重大な使命を持っていることは当然なことであるが、人心の安定、国家財政の健全化等の観点から社会の在り方に大きな影響を及ぼす様になった今日、21世紀の超高齢・長寿社会、言い換えれば次の世代の国家に対して医療システムを考える場合、それは医療担当者や行政官の自己満足、保険者の都合、利用者の過度の期待などからの発想ではなく真に国民全般の立場に立った長期的展望でなければならない。

従来より個人生活の意識の比重が増しそれに伴って国民の権利意識が強まり多様なニーズが生ずるとともに、各人には自己責任の明確化が求められよう。従って医療の概念そのものが以前のものとは異なることが予想されるという前提に立ち、

- ①出来るだけ規制を緩和し、現場での責任ある自主的運用に委ねる
- ②自主的評価の徹底
- ③協調のもとでの公正な競争原理の導入による質の向上
- ④公的保険の限界が示されその上で利用者、並びに医療担当者双方の選択肢の拡大
- ⑤医療教育の充実
- ⑥質の良い医療機関の育成
- ⑦メディスンからヘルス・ケア・システムへ 等

の方向により医療への国民の信頼を高め、質の向上、効果の確保、効率性、快適性を追求する為以下の項目を提案する。

総論的事項

1. 医療の特質としての公共性の定義を明確にし、従来からの概念の拡大に伴った福祉、保健分野との連携を確立する。
2. 医療の非営利性の定義を明確にする。特に私的医療機関においては医療法人制度の充実につとめる。

スは現場に委ねられるべきである。

9. 質の高い効率的供給体制を確保するため地域医療計画は定期的に見直されるが、利用者の選択の自由とともに医師の職業選択の自由も十分に考慮されるべきである。また、医療機関の間の連携が円滑に行われるような配慮が必要である。

病院、診療所の定義、総合病院の条件、オープン・システム等については問題も多く今後更に引き続き検討する。

以上

2. 統計調査部会

1. 開催回数 2回
2. 出席者数 13名（延べ人員）
3. 協議項目
 - 1) 病院運営実態分析調査について
 - 2) 病院運営実態分析調査、調査票、報告書等の見直しについて
 - 3) 昭和63年度活動方針について
4. 総 評

本年度も、継続調査である「病院運営実態調査」を実施し、「昭和63年病院概況調査報告書」として発刊。また、62年度に実施した「病院部門別原価計算調査」についても集計結果がまとまり、「病院部門別原価計算報告」として発刊した。

一方、「病院運営実態分析調査」は今年度において電算処理プログラム等の償却が終了するため、来年度より一部項目等の見直しを行うための検討も行った。来年度より、新しい形の報告書を作成していく予定である。

3. 医療事故対策部会

1. 開催回数 9回
2. 出席者数 24名（延べ人員）
3. 協議項目
 - 1) 6月度開催セミナー打合せ
 - 2) 11月度開催セミナー打合せ
 - 3) 各セミナー結果報告
 - 4) 平成元年度開催計画
4. 総 評

本年度もセミナーの充実をはかるため、また、より広範な見地にたつことを忘れずに企画した。

4. 防災対策部会

1. 開催回数 2回
2. 出席者数 8名（延べ人員）
3. 協議項目
 - 1) 第8回病院防災セミナー報告及び反省
 - 2) 第9回病院防災セミナーについて
 - 3) 損保割引の現況
 - 4) 二号消火栓の取扱い要望について
 - 5) 防火管理者の手当及び火元責任者職務の明確化について
 - 6) ねまきの安全性向上について
 - 7) パッケージ型自動消火装置について
 - 8) 防火管理者の手当の調査について
 - 9) 火災保険の割引について
 - 10) 夜間の防火管理体制指導マニュアルについて

4. 総 評

開催回数は少ないが、病院防災セミナーのことだけでなく、病院防災つについての幅広い討議と掘り下げた内容で充実した委員会となっている。

5. 労務・福利厚生・用度部会

本年度は教育委員会傘下の研究会の活動に委ね、委員会としての開催なし

6. 給食委員会

1. 開催回数 14回（小委員会含む）
2. 出席者数 105名（延べ人員）
3. 協議項目
 - 1) 四病院団体給食研究会の報告
 - 2) 給食外部委託マニュアル作成について
 - 3) 栄養管理自己評価について
 - 4) ジブコム(株)MCFプロジェクト研究会の報告
 - 5) 新委員委嘱について
 - 6) 病院見学
 - 7) 日本メディカル給食協会について
 - 8) 食材の品質管理について
 - 9) 栄養管理自己評価表の活用方法について
 - 10) 食材の評価認定について

4. 総 評

前年度の「病院給食管理基準」に続き、「栄養管理自己評価表」、「病院給食外部委託マニュアル」の2冊を完成、会員宛に送付した。「栄養管理自己評価表」については、「栄養管理自己評価調査表」として別刷りし、送付、回収、調査中であり、来年度には調査結果をまとめ上げる予定である。また、食材の品質管理についても検討中であり、今後もよりいっそう活発な委員会活動が行われていくことと思われる。

7. 勤務医対策委員会

本年度は特定の議題なく開催なし

8. 教育委員会

1. 開催回数 教育委員会・研究会委員長会議 2回

2. 出席者数 教育委員 9名(延べ人員)

研究会委員長 33名(延べ人員)

3. 開催月日 1) 昭和63年10月24日(月)午後2時～5時(日本病院会会議室)

2) 平成元年3月15日(水)午後2時～5時(ダイヤモンドホテル202号室)

4. 協議項目 1) (1) 昭和63年度上半期(4月9日)研究会開催結果報告

63年度上半期に開催された研究(修)会は、定例(研)16回、全国(研)5回、セミナー1回、職場リーダー研修会(3日間コース)1回の計23回であった。参加施設数1,174施設、参加人数1,818人、収入11,663,000円、支出15,099,000円、差引▲3,436,000円であった。差引が赤字となったのは、公益法人会計が人件費を算入しているためである。

収支赤字の問題に関しては、登内委員長より、赤字が出る場合でも極力小さい額に止めてほしい、との要望があった。

(2) 昭和63年度下半期(10月～3月)研究会開催の検討

当初の開催日程にもとづいて、できるだけ沢山の参加者を集められるよう企画、運営を図っていくことで全員の賛同を得た。

(3) 昭和64年度研究会開催計画(案)の検討および'89国際モダンホスピタルショウ(6月)併設の研究会を開催する件について

国際モダンホスピタルショウについては三宅浩之企画委員長より説明があった。参加を希望する研究会は早めに事務局に連絡してほしい。職種の異なる病院勤務者も参加できる研究会の内容にしてほしい、等であった。

- 2) (1) 昭和63年度研究会開催結果報告
- (2) 平成元年度研究会開催計画(案)の検討

上記(1)(2)について、最初に事務局の吉田学術研修部長より報告があった後、各研究会委員長より持ち時間約3分にて63年度結果報告と平成元年度開催計画について発表があった。

63年度中に開催された研究(修)は、定例(研)32回、全国(研)19回(職場リーダー(研)3回を含む)、セミナー5回であった。参加施設数3,070施設、参加人数4,772名、収入36,405,000円、支出49,227,000円、差引▲12,822,000円であった。

本年度の特徴は、成功を収めている研究会は、まず開催前によくテーマを練り、開催地との連携を緊密にして地元の病院協会、関係諸団体に協力をお願いしているからである。さらに、地元の当会役員の先生方に協力方をお願いして参加者の動員を図っていることも成功の要因として挙げられる。

最後に、登内委員長よりコメントがあり、教育委員長として6年間やってきたが、教育は非常にお金が掛り目に見えてすぐにはその効果は出てこない。従って、教育をよく理解することと、お金を惜しまず教育に注ぐことが必要である、などが述べられた。

5. 総 評

これはことに限ったことではないが、研究会が成功するか否かは、まず一番に、テーマの選定である。時宜に適したテーマを掲げることは、沢山の参加者を動員できるといえよう。このことに関して、これは極端な例ではあるが、本年度の研究会で“消費税”をテーマにしたところは、通常の4～5倍の参加者を集めていた。このテーマがいま国民のもっとも関心と呼んでいるものだからである。このように会員が強く求めている問題をテーマに選んでいくことである。次に、全国(研)の場合は、開催地の協力を得ることに最大の努力を傾注することである。当会の地元の役員の先生に動いて頂くとか、とにかく積極的に動くことが肝要である。なお、経費節減のためには労を惜しまず複数の業者から見積りを取ってより安い業者にやらせることも考えられよう。たとえば、印刷物その他の外注などである。また、会場借用料もバカにならないので、種々工夫がなされてしかるべきである。

9. 通信教育委員会

(1) 診療録管理通信教育部

1. 開催回数 2回
2. 出席者数 8名(延べ人員)

3. 協議項目

第1回 9月17日(土) 午後5時～7時30分 京都：新都ホテル ポンパドール

1) 第29期・31期生の試験結果について

第29期(卒業) 受験者56名 合格者50名

第31期(進級) 受験者89名 合格者80名

2) 第29回認定式について

10月19日(木) 学会前日とする。

3) 第30回合否判定委員会について

3月4日を3月11日に変更する。

4) 第30回認定式について

3月25日を4月15日に変更する。

5) 2年次講師の後継者の養成について

委員長から各講師は東京・大阪・福岡地区に後継者を見つけるよう要望がなされた。

第2回 3月11日(土) 午後5時～7時30分 東京：鉄道会館 ルビーホール

1) 第30期・32期生の試験結果について

第30期(卒業) 受験者53名 合格者44名

第32期(進級) 受験者50名 合格者40名

2) 平成元年度行事予定(案)について

第35回集中スクーリング 平成元年8月24日(木)～30日(木)

日 程

第一年次スクーリング			試 験	第二年次スクーリング		
第34・35期生			第31・33期生	第32・33期生 第34・35期生の内2年次編入者		
24日 (木)	25日 (金)	26日 (土)	平成元年8月27日 (日)	28日 (月)	29日 (火)	30日 (水)

第36回集中スクーリング 平成2年2月15日(木)～21日(木)

第一年次スクーリング			試 験	第二年次スクーリング		
第35・36期生			第32・34期生	第33・34期生 第35・36期生の内2年次編入者		
15日 (木)	16日 (金)	17日 (土)	平成2年2月18日 (日)	19日 (月)	20日 (火)	21日 (水)

<会場> 東京・大阪・福岡

3) 第31回認定式について

卒業試験日 8月27日(日)から認定式 9月27日(水)まで約1カ月であり日程的に無理があるが、従来どおり第15回診療録管理学会(松江)の前日に認定式を実施する。

4) 東京スクーリング会場の変更について

従来、集中スクーリング東京会場は早稲田速記学校を利用してきたが学校側の生徒数増の関係で利用が困難となり、平成元年8月の集中スクーリングから会場を変更する。

(現在次期会場について調整中)

(2) メディカルクラーク通信教育部

1. 開催回数 2回
2. 出席者数 12名(延べ人員)
3. 協議項目

第1回 4月2日(出) 午後4時～6時30分 東京：鉄道会館ルビーホール 菊の間

- 1) 昭和63年度の教育実施について
- 2) 前期スクーリング・試験の実施時期

8/18	19	20	21	22	23	24
(木)	(金)	(土)	(日)	(月)	(火)	(水)
#13 スクーリング			#12 後期試験	#13 スクーリング		
東京会場			東京・京都	京都会場		

※試験は、延長生の再(追)試を含む。

3) 後期スクーリング・試験の実施時期

1 2/11	12	13	14	15	16	17
(土)	(日)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)
#13 スクーリング			#13 前期試験	#13 スクーリング		
東京会場			東京・京都	京都会場		

※試験は、延長生の再(追)試を含む

- 4) 第12回認定審査委員会 9月3日(出) 午後4時～ 東京：鉄道会館ルビーホール
- 5) 第12回認定証授与式 9月24日(出) 午後5時30分～ 東京：ふくおか会館

6) 8月スクーリングの時間割

		(午前) 9:00~12:00	(午後) 13:00~16:00
東京会場	千代田生命	8/18(木)	医療事務 杉本 久
		19(金)	秘書実務 與那嶺光子 医療用語学 笠井 良一
		20(土)	医療学 高橋 政祺 臨床検査学 伊藤 武雄
		21(日)	統一試験 (東京・京都)
京都会場	ビル葆光	22(月)	医療用語学 笠井 良一 秘書実務 與那嶺光子
		23(火)	医療事務 杉本 久
		24(水)	医療学 高橋 政祺 臨床検査学 伊藤 武雄

7) 荒木威先生辞意申出に基づく後任講師依頼について

(4月聖路加国際病院・菅原虎彦先生に依頼決定)

第2回 9月3日(土) 午後4時~6時50分 東京:鉄道会館ルビーホール 菊の間

1) 第12回生の認定審査

第12回生の認定者 24名

(但し、内2名については医療事務再試験を9月13日(日)、日病において実施、結果合格)

2) 延長受講予定者 36名

3) 平成元年2月(後期)のスクーリング・試験予定

2/11	12	13	14	15	16	17
(土)	(日)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)
#13 スクーリング			#13 前期試験	#13 スクーリング		
東京会場			東京・京都	京都会場		

※試験は、延長生の再(追)試を含む。

4) 平成元年2月(後期)スクーリング時間割

		(午前) 9:00~12:00	(午後) 13:00~16:00
東京会場	千代田生命	2/11(土)	病院管理学 高橋 政祺 文書実務 與那嶺光子
		12(日)	医療情報処理 三宅 浩之 病歴管理 大町 文子
		13(月)	医療事務 杉本 久
		14(火)	統一試験 (東京・京都)
京都会場	ビル葆光	15(水)	病院管理学 高橋 政祺 医療情報処理 三宅 浩之
		16(木)	病歴管理 大町 文子 文書実務 與那嶺光子
		17(金)	医療事務 杉本 久

- 5) 第12回認定証授与式 9月24日(土) 午後5時30分～ 東京：ふくおか会館
- 6) 認定者代表は千葉県亀田総合病院の井上暢之とする。

(3) 事務長養成課程通信教育部

- 1. 開催回数 1回
- 2. 出席者数 10名

4月5日(火) 午後3時～5時 日本病院会第2会議室

3. 協議項目

- 1) 昭和63年度の教育実施について
- 2) 第9回最終試験：6月11日(土) 桑名
- 3) 第7回卒後研修会：6月11～12日 桑名
- 4) 試験

第10回生1年後期：63年7月10日

第10回生2年前期：元年1月17日

第11回生1年前期：元年1月10日

5) スクーリング

前期：第10回生2年次 7月11日～16日

第11回生1年次 7月18日～23日

後期：第10回生2年次 元年1月18日～23日

第11回生1年次 元年1月11日～16日

6) 会場

7月10日～16日 } 本願寺築地別院第一伝道館
7月18日～23日 }

元年1月10日～23日 同 上

7) 第9回認定証授与式

7月23日(土)午後5時30分～ 東京：ふくおか会館

8) その他

- 第11回生1年次前・後期教育課目の組替え（63年度に限り）

前期：医療統計を後期へ

後期：労使関係論を前期へ

- 受講生の脱落防止の施策として管理者に対する連携を強化する
(スクーリング及び試験時の参加要請及び結果通報等)

(4) 通信教育制度検討委員会

第1回 2月24日(金)午後2時～4時

東京：ダイヤモンドホテル

出席者（順不同、敬称略）

岩崎 榮、木村 明、高橋政祺、竹本吉夫

- 1) 通信教育のあり方検討委員会の設置
- 2) 日本病院会通信教育と厚生省病院管理研修との連携
- 3) アンケート調査の実施と教育への反映
- 4) 教育実習の拡大

等を設置することで意見の一致をみた。

第2回 3月22日(休)午後1時～3時

東京：日本病院会会議室

出席者（順不同、敬称略）

岩崎 榮、木村 明、高橋政祺、竹本吉夫

- 1) 診療録管理は基本的技術・知識・態度を身につけさせることを目的とする。
- 2) 教育対象は国家資格化の際の公平性からも日本病院会傘下だけでなく日病会の社会的機能をはたす見地からもオープン化したらとの意見あり。
- 3) 診療録通教は看護婦と同程度を到達基準とし受講資格は高校卒とする。看護婦資格者等は基礎医学（1年次講習）免除。
- 4) 当面診療録通教のアンケート調査を実施して要望等の現況を把握する。
- 5) 実習病院・認定指導員(仮称)を指定し教育効果の向上を図る。この際指定期限を限定する。
- 6) メディカルクラーク課程は日病会としての使命は終了したものと考えられる。（平成元年度をもって廃止する。）
- 7) 事務長養成課程は今後なお検討する。

10. 臨床予防医学委員会

1. 開催回数 4回（常任委員会3回含む）
2. 出席者数 42名（延べ人員）
3. 協議項目
 - 1) 健保連との短期人間ドック料金契約について（今後の対応）
 - 2) 日帰りドックの検討について
 - 3) 検査項目の検討について
 - 4) 第30回（平成元年度）日本人間ドック学会について
 - 5) 昭和62年度臨床予防医学委員会報告について

- 6) 自動化健診施設の指定手続きについて
- 7) 来年度（平成元年度）以降の健保連との契約について
- 8) 日帰りドックについて
- 9) 検査項目の検討について
- 10) 臨床予防医学委員会現況報告について
- 11) 自動化健診施設の申請手続きについて
- 12) 学会誌「健康医学」の発行について
- 13) 健保連との短期人間ドック料金契約について
- 14) 検査項目の検討について
- 15) 第30回（平成元年度）日本人間ドック学会実施について
- 16) 学会会則について（施行細則第11条3の取扱い）
- 17) 学会誌「健康医学」Vol.3 No.2 1989.2について
- 18) 委員の退任申し出について
- 19) 第30回（平成元年度）日本人間ドック学会実施内容について
- 20) 学会会則の検討について（施行細則第11条3の取扱い）
- 21) 消費税について
- 22) 日帰りドックについて
- 23) 学会誌「健康医学」Vol.3 No.2 1989.2発行について
- 24) 委員の異動について
- 25) 第32回（平成3年度）学会について
- 26) 人間ドック手帳について

4. 総 評

本年度の当委員会活動は、例年にも増して多忙をきわめた。

毎年、健保連と協議の上決定する短期人間ドック料金は、平成元年度も再三の折衝にもかかわらず「60,000円を標準料金とする」という契約で締結せざるを得なかった。この標準料金制の弊害として各地で個別に料金設定をした各健保組合が指定病院と交渉し、契約するという二重構造を作り、統一された良質の日病指定人間ドック事業がおびやかされる結果が生じ始めて来ている。

今後は、検査項目の見直し等も含め、歴史と実績の伴った日病の人間ドック事業を確固たる信念に基づいて実施、指導していくことをあらためて委員全員で確認した。

なお、平成元年4月1日より実施される消費税については、診療外行為である人間ドック等の健診事業には課税されるため、健診料に課税分3%を上乗せして健診者（個人または健保組合）に請求するよう通達を実施した。また、実施に際し、混乱をさけるため各施設では健診を実施す

る前には必ず税額の負担者（個人か健保組合か）と請求方法（当日窓口で徴収するのか後日健保組合へ請求するのか）を確認の上、実施するよう追加して通達を実施した。

11. 社会保険・老人保健委員会

1. 開催回数 4回
2. 出席者数 22名（延べ人員）
3. 協議項目
 - 1) 診療報酬対策について
 - 2) 日医「医療保険制度の統合一本化」提言について
 - 3) 今後の活動大綱
 - 4) 「医療保険制度の統合一本化」提言について
 - 5) 今回のミドリ十字未承認薬保険不正請求について
 - 6) 「年金制度について」安田信託銀行年金信託部、「医療と年金」小原知次郎
 - 7) 診療報酬改定について
 - 8) 消費税説明会開催について
 - 9) 消費税と医療費

4. 総 評

平成元年度に向けての「医療と消費税」に焦点をあて、いろいろな立場での問題を討議した。今後、益々重要な委員会として積極的な展開をしていきたい。

12. 医療経済委員会

1. 開催回数 2回
2. 出席者数 16名（延べ人員）
3. 協議項目
 - 1) 昭和63年税制改正項目について
 - 2) 新型間接税による医療機関への影響について
 - 3) 消費税について
 - 4) 試験研究費について

4. 総 評

本年度は、来年度より消費税が実施されるため、本委員会としてはその対応のため、京都、名古屋、熊本において、「実務者講習会」を厚生省担当官、有澤副会長、石井委員、伊藤委員を講師に約1,500名の参加の下開催した。さらに厚生省作成の「医療と消費税」という小冊子を全会員に送付、4月以降作成予定の「Q & A」も送付の予定である。

また、「源泉徴収税額表」が9月、1月と改正になったのでそれぞれ、「手取額による源泉徴収税額表（月額・乙欄）早見表を作成し会員へ送付した。

13. 国際委員会

1. 開催回数 8回
2. 出席者数 57名（延べ人員）
3. 協議項目
 - 1) IHF フィールド・スタディ（フロリダ）
 - 2) インドネシア、米国診療録視察中間報告
 - 3) 中国黒龍江省招待による視察訪問団について
 - 4) 1989 IHF 総会（ハーグ）について
 - 5) 国際モダンホスピタルショウ併設インターナショナル・セミナーについて
 - 6) IHF 会費について
 - 7) ワールド・ホスピタル誌原稿について
 - 8) IHF カウンシルメンバー人選について
 - 9) インドネシア、米国診療録視察報告
 - 10) 台湾病院協会総会出席について
 - 11) フィリピン病院協会総会出席について
 - 12) 台湾病院協会からの日本での研修要請について
 - 13) 1989 IHF ツアー企画について
 - 14) 第8次大韓病院協会来日研修について
 - 15) 1989海外研修ツアー年間企画について

4. 総 評

本年度も国際文化交流として、米国、インドネシア、中国、フィリピン、台湾、大韓民国と積極的な活動の展開をみた。

世界における日本病院会の役目が年々高まるのがわかる。今後も、当委員会の活動について全会員のご理解ご協力をいただきたい。

14. 組織委員会

1. 開催回数 3回
2. 出席者数 22名（延べ人員）
3. 協議項目
 - 1) 組織拡大について
 - 2) 会費未納会員への対応について
 - 3) 曖昧会員について
 - 4) 未入会病院アンケート調査について
 - 5) 長崎県・滋賀県支部について

4. 総 評

簡易入会申込書による入会も着実にあり、成果がみられている。又、8番目の支部として長崎県支部が設立され、ますます当委員会としても組織拡大・強化について力を注いでいくことにしている。

15. 学術委員会

1. 開催回数 11回
2. 出席者数 (延べ人員102名、月平均9名)
3. 協議項目
 - 1) 日本病院会雑誌'88 6月号～'89 5月号の編集について
 - 2) 日本病院会雑誌'88 7月号～'89 6月号の企画について
 - 3) 英文誌「Japan Hospitals No.7」の編集および刊行について
4. 「日本病院会雑誌」63年度（'88 4月号～'89 3月号）

主要掲載記事

(4月号) 166頁

グラフ：第27回病院視察研究会

巻頭言：偶感 移植をめぐる（宮崎 柏）

記 事：① 岩手・宮城の4病院を視察

② <海外病院探訪・中国>

中国黒龍江省・北京をたずねて（小野 肇） 他3編

③ 講演 国民医療総合対策と病院の対応（中山耕作）

(5月号) 154頁

グラフ：東京都立大塚病院

巻頭言：第38回日本病院学会を主催して 一激動を乗り越えて進もう（諸橋芳夫）

記 事：① <病院幹部医セミナー>

シンポジウム ドクターとコ・メディカルの連携

② 講演 マスコミから見た老人医療（大熊一夫）

③ 論説 入院調剤システムについて（坂井賢一・樺山照一）

(6月号) 166頁

グラフ：聖マリア病院

巻頭言：診療報酬0.5%決定の前後（若月俊一）

記 事：① <病院医療の質を考えるセミナー>

特別講演 病院医療の質を考える—日本病院会入退院マニュアル（牧野永城）

② <調査報告>

日本人の老後及び人生観に関するアンケート調査報告（第1回）

（7月号） 154頁

グラフ：広島赤十字・原爆病院

巻頭言：私的病院の不安（河野 稔）

- 記事：① シンポジウム 事務職員の教育訓練のあり方、やり方
② 特別対談 副院長と事務長（河北祐幸・益田啓作）
③ 講演 インフォームド・コンセント（中谷瑾子）

（8月号） 166頁 <鎖夏随筆特集号>

グラフ：'88国際モダンホスピタルショウ

巻頭言：第29回日本人間ドック学会開催にあたって（依田忠雄）

- 記事：① 論説 看護過程について（内田卿子）
② 講演 中小病院における経営問題 —アメリカと日本—（河北博文）
③ 海外報告 健診から健康評価の時代へ —国際健診学会に出席して—（笹森典雄）

（9月号） 166頁

グラフ：伊勢崎市民病院

巻頭言：医療の激流に想う（牧野永城）

- 記事：① 講演 医療経済からみた老人医療（行天良雄）
② 講演 老人と痴呆症（室伏君士）
③ <研究報告> 病院の第一線監督者(13)最終回 ミーティング（友安直子）

（10月号） 190頁 <第38回日本病院学会特集号>

グラフ：第38回日本病院学会

巻頭言：第14回日本診療録管理学会を開催するにあたって（桜井健司）

- 記事：① 学会長講演 医療の変遷と病院対応（諸橋芳夫）
② 特別講演 千葉県の医療と福祉（中野 晟）
③ 特別講演 三髄五臓六腑（井出源四郎）

（11月号） 178頁

グラフ：第29回日本人間ドック学会

巻頭言：病院の試験研究（有澤源蔵）

- 記事：① 論説 日本の病院における倫理的諸問題について（高橋勝三）
② 委員会報告 昭和62年人間ドック・自動化健診 全国集計成績（笹森典雄）
③ 座談会 第38回日本病院学会を顧みて

(12月号) 186頁

グラフ：東京都多摩老人医療センター

巻頭言：美しく老いる（竹本吉夫）

記事：① 論説 欧米の医療と日本の医療（諸橋芳夫）

② 講演 新しい医療職と看護とのかかわり（有田幸子）

③ 講演 ターミナル・ケア（原 義雄）

(1月号) 178頁

グラフ：メイヨー・クリニックの病歴室

巻頭言：年頭所感 一引き続いて激動をのり超えて進もうー（諸橋芳夫）

記事：① 特別講演 今後の高齢者対策（多田 宏）

② 特別講演 迫られる病院経営戦略の多様化（坪 武）

③ <海外視察報告>

米国診療録管理業務視察旅行に参加して（嶋 芳成・松尾信子）

(2月号) 158頁 <第14回日本診療録管理学会特集号>

グラフ：第14回日本診療録管理学会

巻頭言：二つの連携（丹野清喜）

記事：① 学会長講演 入院機関を考える（桜井健司）

② 特別講演 求められる生涯教育（阿部正和）

③ シンポジウム 大学付属病院における診療録管理の問題点

④ 一般演題抄録（I～IX）

(3月号) 170頁

グラフ：第28回病院視察研究会

巻頭言：地域病院における医療の多様性—Primary Care から専門医療まで—（登内 真）

記事：① 論説 高機能病院の現状と未来（左奈田幸夫）

② 講演 医療人の心得（若月俊一）

③ 講演 POS の実際（内田卿子）

5. 英文誌「Japan Hospitals」No.7の発刊について（'88.7月刊）

以下のようなタイトルと著者でその内容が構成された。

Contents

The Future of Japanese Hospital: Projections by Hospital Directors and Their Implications

Researching Committee of Japan Hospital Association

1

Significance of Hospital Service	Minoru KOHNO	13
Hospital Strategies for the 1980s — Effective Use of Management Indices	Toshiro TAKAHASHI et al.	17
Cancer Registration Using Case History Database in Hospital Information System	Yoshiaki NOSE et al.	21
Problems of Medical Record Storage by an Optical Disk Filing System — With Special Reference to Image Quality	Kazunobu YAMAUCHI Takayuki MIURA	29
Systemization of Drug Inventory Control in University of Tokyo Hospital	Takao ORII Shigekoto KAIHARA	35
Alcoholic Liver Injury in Rural Japan	Shin TONOUCHI	45
How the Director of Nursing Plans and Implements In-Service Education	Keiko UCHIDA	53
The Roles of National Hospitals and National Sanatoriums in Japan	Yūsuke FUKUDA	59
Utilization of Medical Records in Nagoya University Hospital	Kazunobu YAMAUCHI et al.	67
The New Establishment of Department of International Cooperation at the National Medical Center Hospital	Takashi WAGATSUMA	71

6. 総 評

昨年あたりからのページ数の増量は本年もひきつづいている。この傾向は今後も続くように思われる。また、記事の内容もバラエティに富んできていることは喜ばしいことである。殊に、本年度はシリーズ物が2本あり、好評を博した。即ち、「病院の第一線監督者」(友安直子氏) 13回、紀行「トルコに旅して」(井上加代子氏) 8回であり、女性寄稿者の健筆ぶりが注目を集めた。今後もこうしたシリーズ物は大いに歓迎したいところである。

日病学会で発表された一般演題は、その抄録を掲載してきたが、本年度から、演題名・演者・施設名をリストにして掲載するに止めた。これは学会事務局から別途「講演集」が刊行されているためである。なお、一般演題から特に優秀なものを10編選んで掲載してきたが、この演者に対して賞状と金一封を長野学会で贈呈することが學術委員会で決定をみている。

次に、英文誌の原稿集めには毎年苦労するのであるが、本年度もその例外でなく、発刊できる分量に至るまでに原稿が集まらず、そのため日数が掛かってしまい刊行日が相当遅延してしまったことは今後の反省点である。それでも巻を重ねること7巻を発行できたことは、海外に日本の医療の現状を紹介するという本誌の使命を全うし得ているのではないかと自負している。

16. 広報委員会

1. 開催回数と出席者数

(①委員会 4回・37名、②座談会 3回・14名、③記者会見 2回・日病11名、記者41社56名)

2. 協議項目 1) 委員会

- ① 広報委員の交代
- ② 日病ニュース発行の報告、座談会の報告
- ③ 62年度広報活動の報告と反省
- ④ 特集企画（週休2日制に対する病院の対応）について
- ⑤ 専門紙からの定期的原稿依頼について
- ⑥ 日病ニュース「無影灯」の執筆体制について
- ⑦ 日病ニュース新年号の座談会について
- ⑧ 委員会活動について（残任期間中のやり残し分、申し送り事項等）
- ⑨ 日刊紙への意見広告について
- ⑩ 最近の活動報告
- ⑪ 新印刷システムの導入に伴う日病ニュースの紙面変更について

2) 座談会

- ① 「今回の点数改正をどう読むか」 5月10日号掲載 日病諸橋会長、日病社保老健北村委員長、葛西中央病院早川院長、社会保険旬報高木記者、日病広報西能委員長（司会）
- ② 「労働時間短縮と病院」 10月25日号掲載 労働省福島課長補佐、佐久総合病院若月院長、河北総合病院佐々木事務長、全国病院労務管理学会西中理事、日病広報西能委員長（司会）
- ③ 「激動の89年を迎えて」 1月1日号掲載 日病諸橋会長、府中病院・ベルランド総合病院岸口理事長、厚生省病院管理研究所岩崎部長、日病広報西能委員長（司会）

3) 記者会見

- ① 代議員会・総会の結果について
- ② 最近の医療問題に対する見解……点数改定に対する見解、週休2日制の問題、看護婦充足対策、税制の問題、地域医療計画
- ③ 診療報酬改定の要望について
- ④ 病院給食外部委託マニュアルについて
- ⑤ 消費税転嫁の問題について
- ⑥ 診療録管理士の資格法定化について

⑦ キセノンガス問題に対する見解

3. 総 評

3) 日病ニュースの発行

63年度は345号（4月10日号）～366号（3月25日号）の計22回発行した。4ページ建て17回、6ページ建て2回、8ページ建て3回という内訳である。

発行回数、ページ数、通常号1～4めんの紙面構成、春と夏の特集号企画、コラム等のシリーズものなど、全体としては例年どおりの制作状況であったが、今年度の特徴をあげると、①労働時間短縮問題のキャンペーン（10月10日・25日号掲載）と、②消費税ポスター（3月10日号掲載）がある。

2) 対外的広報活動

前年度から開始した医療関係専門紙との定期的記者会見は、今年度はテーマが少なかつたこともあり2回の開催にとどまった。記者側も一部変更はあったがほぼ同じ顔ぶれで、関心のあつるものとそうでないものとで取り上げ方にも違いがみられた。現状は専門紙主体で行かざるをえず、一般紙関係はなお検討課題となっている。

17. 諸規程検討委員会

1. 開催回数 1回
2. 出席者数 4名
3. 協議項目 1) 旅費規程改正案について
2) 64年度役員改選に向けての諸規程の見直しについて

4. 総 評

懸案になっていた旅費規程中の宿泊料の改正が協議され、改正が承認された。

現 行	区 分	1泊につき	改 正	区 分	1泊につき
	役員・委員長	8,500		役員・委員長	10,000
職員・その他	6,000	職員・その他	8,000		

また、すでに理事会で承認されている選挙管理会（新名称：選挙管理委員会）の設置に伴い定款等、条文の変更を実施、選挙規程の一部語句の修正、選挙事務の取扱い、役員改選日程等を協議し、素案の修正を図り原案を常任理事会、理事会に提出することとした。

18. 中小病院委員会

1. 開催回数 5回
2. 出席者数 42名（延べ人員）

3. 協議項目
- 1) 昭和63年度日病学会「中小病院のひろば」について
 - 2) 国際モダンホスピタルショウ「中小病院コーナー」について
 - 3) 第38回日病学会（千葉）「中小病院シンポジウム」、「中小病院のひろば」の反省
 - 4) 第39回日病学会（長野）「中小病院フォーラム」について
 - 5) 第39回日病学会（長野）「中小病院のひろば」について
 - 6) 第39回日病学会フォーラム「中小病院の今日と明日」打合せ会(12/16)報告並びに質問者の選定
 - 7) 「中小病院のひろば」企画
 - 8) 第39回日病学会「中小病院の今日と明日」、「中小病院のひろば」参加者動員について
 - 9) '89国際モダンホスピタルショウ(6/29～7/1)展示について

4. 総 評

日病学会「中小病院のひろば」を開催したことは、実に有意義なことであり、新たな活動へのはずみとなる。

新しい時代の幕明けに伴い、充実した委員会運営に邁進する決意である。

〔特別委員会〕

1. 病院情報センター委員会

1. 開催回数 9回
2. 出席者数 69名（延べ人員）
3. 協議項目
 - 1) 神戸開催セミナー報告について
 - 2) 昭和62年度活動報告について
 - 3) 昭和63年度活動計画について
 - 4) 6月開催のセミナーについて
 - 5) 「コンピュータ導入の早分り」新版発行について
 - 6) 2月開催予定のセミナーについて

4. 総 評

本年度は、恒例の6月ホスピタルショウ開催時「レセプトとコンピュータ」をテーマに、2月・東京・ダイヤモンドホテルを会場にして「病院におけるコンピュータの効果的な利用と解決すべき問題点」をテーマに合計2回セミナーを開催。

また、岡田委員が「病医院におけるコンピュータ導入の早分り」の新版作成にとりかかり来年度早々には完成する予定である。

2. 国際モダンホスピタルショウ委員会

1. '88国際モダンホスピタルショウ医療機器部会

日 時 : 昭和63年4月5日(火)

会 場 : 日本病院会

内 容 : システム展示申込状況

出 席 : 三宅委員長 他 6名

2. 第5回医療情報部会

日 時 : 昭和63年4月14日(火)

会 場 : 日本経営協会

内 容 : オーダリングシステム展示について

出 席 : 里村部会長 他 7名

3. 第4回ホームケア部会

日 時 : 昭和63年4月19日(火)

会 場 : 日本経営協会

内 容 : モデルルームについて

出 席 : 岩倉部会長 他 6名

4. 第6回医療情報部会

日 時 : 昭和63年4月21日(火)

会 場 : ダイヤモンドホテル

内 容 : オーダリングシステム展示について

出 席 : 里村部会長 他 6名

5. 第4回企画委員会

日 時 : 昭和63年4月21日(火)

会 場 : 日本病院会

内 容 : 出品申込状況について

出 席 : 三宅委員長 他 9名

6. 合同委員会

日 時 : 昭和63年7月26日(火)

会 場 : ダイヤモンドホテル

内 容 : '88国際モダンホスピタルショウ結果について

出 席 : 三宅委員長 他 12名

7. 第1回ホームケア部会

日 時 : 昭和63年12月6日(火)

- 会 場 : 日本経営協会
内 容 : 委員構成について
出 席 : 岩倉部会長 他 7名
8. '89国際モダンホスピタルショウ諮問会議
日 時 : 昭和63年12月9日(金)
会 場 : ホテルパシフィック
内 容 : '89国際モダンホスピタルショウ開催について
出 席 : 岩井喜典氏 他 8名
9. '89国際モダンホスピタルショウ合同委員会
日 時 : 平成元年1月12日(木)
会 場 : ダイヤモンドホテル
内 容 : 各部会報告
出 席 : 三宅委員長 他 17名
10. 第2回ホームケア部会
日 時 : 平成元年1月24日(火)
会 場 : 日本経営協会
内 容 : 企画展示について
出 席 : 岩倉部会長 他 9名
11. 第1回医療機器部会
日 時 : 平成元年2月2日(木)
会 場 : 日本病院会
内 容 : 開催要綱について
出 席 : 三宅部会長 他 7名
12. 第3回ホームケア部会
日 時 : 平成元年2月20日(月)
会 場 : 日本経営協会
内 容 : テーマ 企画展示について
出 席 : 岩倉部会長 他 9名
13. 第2回医療情報部会
日 時 : 平成元年3月2日(水)
会 場 : 日本経営協会
内 容 : 企画展示について
出 席 : 里村部会長 他

14. 第2回企画委員会

日 時 : 平成元年3月9日(木)
会 場 : 日本病院会
内 容 : 各部会報告について
出 席 : 三宅委員長 他 7名

15. 第2回医療機器部会

日 時 : 平成元年3月14日(火)
会 場 : 日本病院会
内 容 : 企画展示について
出 席 : 三宅部会長 他 7名

3. ヘルス展委員会

1. '88ヘルス展第3企画委員会

日 時 : 昭和63年4月10日(金)
会 場 : 日本経営協会
内 容 : 企画展示について

2. 第1回合同委員会

日 時 : 昭和63年7月15日(金)
会 場 : ホテルパシフィック
内 容 : 出品社募集について
出 席 : 河野稔実行委員長 他 10名

3. 第4回企画委員会

日 時 : 昭和63年9月9日(金)
会 場 : 日本経営協会
内 容 : 企画展示について
出 席 : 須藤企画委員長 他 7名

4. 第5回企画委員会

日 時 : 昭和63年10月26日(水)
会 場 : 日本経営協会
内 容 : 出品申込状況について
出 席 : 須藤企画委員長 他 7名

5. '89ヘルス展第1回企画委員会

日 時 : 平成元年1月18日(水)

会 場 : ホテルパシフィック

内 容 : ① '88ヘルス展結果報告について

② '89ヘルス展開催要綱について

出 席 : 須藤企画委員長・諸橋芳夫会長 他 5名

6. 第2回企画委員会

日 時 : 平成元年3月10日(金)

会 場 : 日本経営協会

内 容 : ① テーマについて

② 講演会講師について

第5 医療従事者無料職業紹介事業

表1. 昭和63年度紹介状況

昭和63年4月～平成1年3月

項目 職種別	求職件数	求人件数	就職件数	繰越 求職件数
医師	38	103	17	8
看護職員	1	58	0	0
その他の医療従事者	22	29	* 10	8
計	61	190	27	16

* その他の医療従事者の内訳

薬剤師	1名	MSW	1名
事務(役職者)	4名	事務一般	4名

表2. 就職者の地域別状況

地域 職種別	北海道	東北	関東	(内東京)	甲信越	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄	計
医師	0	2	11	(3)	0	1	1	1	0	1	0	0	17
看護職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の医療従事者	0	0	10	(9)	0	0	0	0	0	0	0	0	10
計	0	2	21	(12)	0	1	1	1	0	1	0	0	27

表3. 就職者(医師)の年代別状況

年代別 摘要	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
本年度求職者数	2	11	6	3	14	2	0	38
同 就職者数	0	4	4	1	6	2	0	17

表4. 就職者（医師）の担当診療科目

診療科目 摘要	内 科	内・ 小 児 科	小 児 科	精 神 科	外 科	整 形 外 科	皮 膚 科	産 婦 人 科	計
本年度求職者数	22	1	2	1	6	3	1	2	38
同 就職者数	11	1	0	1	2	0	1	1	17

総 評

本年度の医師の求職者は38名で、近年では最も少ない。又求人件数は103名と例年と変わらないが、1施設当たりの求人が複数化しており、求人施設数自体は減少ぎみである。ただ照会など問い合わせは激増しており、特に、大学医局の病院関連化のなかで、希望する勤務地にいけない若い医師のそのが多く、所定の求職票は送付しても回収までいかないケースが多い。このような傾向は、本紹介所の業務内容を本来の紹介機能から情報提供機能へ様変わりさせている。学位取得まで時間の要する医局生にとって、一生務められる病院は魅力的で、反面、希望条件は厳しく就職迄進まないのが現状である。

対して年配の医師にとって、自分の待遇のことなど注文をつけにくい交渉事を、本紹介所が仲介することによって面談に臨めるので、利用価値は高い。

例年、年配の医師の方が就職率は高い。

本年度38名のうち、自宅からの通勤圏内を望んだ医師が、就職まで至ったのは23名中7名で、ほとんどが東京であった。地方都市の医科大学のお膝元は参入不可能な状態である。どこへでもいける医師にとってまだまだ需要は大である。

第6 定例研究会

1. 定例診療システム研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催概要

(1) 10月4日(火) 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 18施設 40名

「病院の建物と患者さん」

聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院 院長 戸栗栄三

「施設見学」

(2) 2月28日(火) 東京都立大塚病院 14施設 30名

「都立大塚病院における地域医療連携へのアプローチ」

東京都立大塚病院 院長 東 晃

「施設見学」

2. 定例事務管理研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催概要

(1) 6月15日(金) 日本病院会会議室 36施設 50名

「診療報酬改定の影響」——点数改定上のポイントと経営対応策——

聖隷浜松病院 事務長 山本敏博

「医療費適正化対策下の病院経営」 横浜赤十字病院 事務部長 益田啓作

3. 定例医事研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催概要

(1) 2月17日(金)、18日(土) ホテル聚楽 106施設 161名

① 医事課員として必要な基礎医学講座

(第37回)「吐血・下血について」 順天堂伊豆長岡病院外科講師 津村秀憲

② 「医療知識と点数算定トレーニング」

③ 事例研究課題によるグループ討議

④ 講演「消費税と医療費」 森公認会計士共同事務所 公認会計士 石井孝宣

⑤ 事例解答例の説明

⑥ 「医療知識と点数算定トレーニング」の解説

⑦ 全体討議

4. 定例庶務人事研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催概要

- (1) 6月24日(金) サンシャインシティ文化会館 39施設 52名
「病院の広報活動」——地域と病院とのコミュニケーションづくり——
- ① 「“織本病院劇団”のこと」——これを支える人の輪の拡がり——
織本病院 院長 織本正慶
- ② 「“かわびたる”と“院内ツアー”等について」
河北総合病院 企画渉外課課長 田中央助
- ③ 「“健康祭”及び“クリスマスのソングサービス”等について」
東京衛生病院 人事課課長 西浦捷裕
- ④ 「病院広報誌の企画と編集」 聖路加国際病院 作業計画室室長 石山稔
- (2) 9月28日(木) 虎の門病院 31施設 41名
「ファイリングシステム」
- ① 「病院におけるこれからの文書管理」
虎の門病院 情報システム課課長 斎藤誠
- ② 「“アラジン・システム”について」
NEC医療情報システム 虎の門病院担当グループ

5. 定例労務研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催概要

- (1) 4月25日(月) 全国町村議員会館 46施設 63名
「改正労働基準法と病院の対応 Q&A」
- ① 「改正労働基準法と病院の対応」
——週40時間労働・週休2日制と改正労基法の着眼ポイント——
東京地裁民事調停委員 鈴木力郎
- ② 「勤務時間管理 Q&A」——日病アンケート調査から——
- ③ 「看護部門と改正労働基準法」 日本看護協会 常任理事 嶋崎佐智子
- (2) 6月24日(金) サンシャインシティ文化会館 39施設 52名
「病院の広報活動」——地域と病院とのコミュニケーションづくり——
(庶務人事研究会との合同開催として実施した。)

6. 定例用度研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催概要

- (1) 6月17日(金)、18日(土) 湯河原研修クラブ 53施設 68名
① 医薬品の流通と薬価基準(一泊研修会)
- (2) 3月23日(木) 半蔵門会館 91施設 122名
① 用度業務と消費税

7. 定例施設研究会

1. 開催回数 4回

2. 開催概要

- (1) 5月20日(金) 日本病院会会議室 32施設 40名
「空調について」
① 空調方式及びクリーンルーム
——手術室及びICU・CCUにおけるクリーンについて——
東京都済生会中央病院 建築企画室長代理 辺見九十九
- ② 病院内の室内環境について
順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院 管財課長 静 昌平
- ③ 質疑応答
- (2) 9月9日(金) 東京都立大塚病院 21施設 37名
「東京都立大塚病院見学」
① 施設説明
② 施設見学
③ 質疑応答
- (3) 12月2日(金) 日本病院会会議室 29施設 36名
「赤水対策と防錆について」
① 衛生設備配管の赤水対策 ——防食継手の商品化——
日立金属株式会社桑名工場 商品技術センター長 渡辺宣行
- ② 「冷温水管のスケール対策(ボイラー及びクーリングタワー)」
株式会社エヌ・エス・シー 代表取締役 玉川隆正
- ③ 赤水対策と防錆 北品川総合病院 施設課長 中島昭二郎
- ④ 質疑応答

(4) 3月3日(金) 日本病院会会議室 23施設 33名

「病院施設の諸トラブル対策について」

- | | | |
|--------------|---------------------|-------|
| ① 電気 | 北品川総合病院 施設課長 | 中島昭二郎 |
| ② オート・スライドドア | 東京都済生会中央病院 建設企画室長代理 | 辺見九十九 |
| ③ 給排水 | 自治医科大学 技監 | 倉持一雄 |
| ④ 建物 | 武蔵野赤十字病院 庶務係長 | 小峰建二 |
| ⑤ 質疑応答 | | |

8. 定例会計経理研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催概要

(1) 6月24日(金) サンシャインシティ文化会館 55施設 73名

① 「病院会計の電算化の諸問題」

日本病院会 病院情報センター委員・北町病院 事務長 青木 禎和

(2) 2月16日(木) 全電通労働会館 169施設 344名

① 「消費税の諸問題」 森公認会計士共同事務所 公認会計士 石井 孝宜

9. 定例看護管理研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催概要

(1) 2月17日(金) 番町グリーンパレス 50施設 121名

「新しい感染症とその予防」

厚生省保健医療局 結核・感染症対策室室長補佐 長屋 祥子

10. 定例薬事管理研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催概要

(1) 12月1日(木) 全国町村議員会館 39施設 42名

「医薬品の安全対策」 厚生省薬務局安全課医薬品副作用情報室室長 植木 明廣

(2) 3月1日(木) 日本赤十字社医療センター 24施設 24名

「薬剤部門における週休2日制への対応」

国立療養所東京病院 薬剤科長 古河 宏一

日本大学医学部附属板橋病院 薬剤部技術長 奥田 政亮

大宮赤十字病院	薬剤部長	井上	毅
聖路加国際病院	薬局長	片山	孝一
東京警察病院	薬剤部長	海老沼	廣

11. 定例栄養管理研究会

1. 開催回数 3回
2. 開催概要

- | | | | | |
|-----|----------|--------------------------|--------------------|--------|
| (1) | 4月19日(火) | 日本栄養会館 | 63施設 | 85名 |
| | | 「最近の透析食について」 | 東京都立駒込病院 内科医長 | 福田 祐 幹 |
| (2) | 6月24日(金) | (調理研究会と合同開催) | | |
| | | 池袋サンシャインシティ文化会館 | 80施設 | 141名 |
| | | 「今、求められている病院給食はどうあるべきか」 | | |
| | | | 長野県厚生連篠ノ井総合病院 名誉院長 | 新村 明 |
| (3) | 2月21日(火) | 日本栄養会館 | 33施設 | 51名 |
| | | 「からだに合った食べ方」 ——体型別・症状別—— | | |
| | | | 国際家族防癌連合会 会長 | 荘 淑 旂 |

12. 定例調理研究会

1. 開催回数 3回
2. 開催概要

- | | | | | |
|-----|----------|-------------------------|------------------|---------|
| (1) | 5月10日(火) | ワールドクッキングスクール | 32施設 | 60名 |
| | | 「ある病院の1日のメニューを考える」 作品展示 | | |
| | | 調理実習「いわしの開き方とその料理」 | | |
| | | | ワールドクッキングスクール 室長 | 大竹 伸 郎 |
| (2) | 6月24日(金) | (栄養管理研究会と合同) | 池袋サンシャインシティ文化会館 | |
| (3) | 3月11日(土) | 東京都立大塚病院 | 38施設 | 64名 |
| | | 「栄養科概略説明」 | 東京都立大塚病院 栄養科長 | 阿 部 昇 |
| | | 「時代の流れに即応した業務の改善」 | | |
| | | ① 施設・設備の改善 | 東京都立大塚病院 技能主任 | 小 林 武 夫 |
| | | ② 食材料、献立・調理の改善 | 東京都立大塚病院 調理師 | 小 幡 幸 吉 |
| | | ③ 事務改善(帳票類、OA化等) | 東京都立大塚病院 調理師 | 磯 貝 修 一 |
| | | 「施設見学(事務所・厨房)」 | | |

13. 定例診療録管理研究会

1. 開催回数 4回

2. 開催概要

- | | | | | |
|-----|-----------|----------------|------|------|
| (1) | 4月9日(土) | 慶応義塾大学病院 | 74施設 | 110名 |
| (2) | 7月9日(土) | 埼玉医科大学総合医療センター | 42施設 | 50名 |
| (3) | 10月11日(土) | 武蔵野赤十字病院 | 39施設 | 54名 |
| (4) | 1月14日(土) | 慶応義塾大学病院 | 80施設 | 95名 |

病歴室見学（質疑応答含む）のほか1月14日は、

「第10回修正 ICD の分類体系の概要について」

厚生統計協議会第4部会専門委員 上田フサ

14. 定例病院管理総合研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催概要

- | | | | | |
|-----|----------|----------|------|-----|
| (1) | 5月19日(休) | 日本病院会会議室 | 25施設 | 32名 |
|-----|----------|----------|------|-----|

「これからの中小病院の運営について」

厚生省病院管理研究所 経営管理部長 針谷達志

- | | | | | |
|-----|----------|------|------|-----|
| (2) | 1月19日(休) | 食糧会館 | 41施設 | 81名 |
|-----|----------|------|------|-----|

「特Ⅲ看護について」——どうして生まれたか、今後どうなるのか——

厚生省保険局医療課企画官 高原亮治

15. 定例放射線研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催概要

- | | | | | |
|-----|----------|---------------|------|-----|
| (1) | 6月25日(土) | サンシャインシティ文化会館 | 19施設 | 22名 |
|-----|----------|---------------|------|-----|

「放射線科における交流分析（TA）の活用」——講演と事例発表——

① 講演「対人関係の改善をめざす MMQC（TA）法」

日本 TA センター 社長 加納正規

② 事例発表「放射線科における TA の活用」

駿河台日本大学病院 放射線科技師長 黒羽隆夫

北品川総合病院 放射線技術部課長 佐藤尚義

東京医科大学霞が浦病院 放射線科技師長 藤田良三

16. 定例臨床検査管理研究会

(今年度の定例研究会は諸般の事情により中止となった。)

17. 定例ハウスキーピング研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催概要

(1) 6月25日(土) 池袋サンシャインシティ文化会館 23施設 29名

「業務下請管理の動向について」(事例発表)

——いわゆる監督者巡遣業務に対するニューメディアの導入について——

河北総合病院 施設課長 瀬川 篤 宏

東京医科大学病院 厚生係長 長 部 肇

(2) 2月16日(木) 日本病院会会議室 46施設 50名

「医療廃棄物の種類について」 ——適正処理に向けて——

東京都清掃局作業部 指導課長 美山 俊 久

18. 内科臨床協議会

1. 開催回数 2回

2. 開催概要

(1) 7月11日(月) 日本病院会会議室 6施設 6名

① 昭和63年度 各グループ予定作成

② 講演「アメリカにおける家庭医学 (Family Medicine) の教育と実態」

財団法人ライフプランニングセンター 研究教育部長 岡崎 倫 正

(2) 11月15日(火) 日本病院会会議室 11施設 11名

① 昭和63年度、平成元年度ジョイントカンファレンスについて

② 講演「一般内科とエイズ患者の診療の実態」

——サンフランシスコにおける経験から—— 聖隷三方原病院 古川 恵 一

19. 「消費税について」実務者講習会

1. 開催回数 3回

2. 開催月日 平成元年2月21日(火) 京 都

“ 2月22日(水) 名古屋

“ 2月23日(木) 熊 本

3. 開催地 京 都 京都府医師会館

	名古屋	名古屋港湾会館		
	熊本	熊本県立劇場		
4. 参加者数	京都	619名		
	名古屋	458名		
	熊本	240名		
5. 講師	京都	公認会計士	石井孝宣	
		日本病院会副会長	有澤源蔵	
		厚生省健康政策局総務課	茶谷滋	
	名古屋	公認会計士	伊藤寛	
		日本病院会副会長	有澤源蔵	
		厚生省健康政策局総務課	茶谷滋	
	熊本	公認会計士	石井孝宣	
		日本病院会副会長	有澤源蔵	
		厚生省健康政策局総務課	成富守	

20. 消費税と医療費改定説明会

1. 開催回数	2回		
2. 開催月日	平成元年3月20日(月)	東京	
	〃 3月22日(水)	神戸	
3. 開催地	東京	全電通労働会館	
	神戸	サンボーホール	
4. 参加者数	東京	405名	
	神戸	480名	
5. 講師	東京	厚生省保険局医療課	鈴木仁一
		厚生省健康政策局総務課	成富守
		日本病院会副会長	有澤源蔵
	神戸	厚生省保険局医療課	新木一弘
		厚生省健康政策局指導課	木村昭仁
		公認会計士	伊藤寛

第7 全国研究会

1. 全国診療システム研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和63年7月22日(金)、23日(土)
3. 開催地 長野県・佐久市立国保浅間総合病院
4. 参加者数 14施設 30名
5. 演 題

- (1) 「佐久地域における浅間総合病院」 佐久市立国保浅間総合病院 院長 倉 沢 隆 平
- (2) 「佐久地域における浅間総合病院の整形外科」
佐久市立国保浅間総合病院 技術部長(整形外科医長) 中 村 千 行
- (3) 「長野県の国保地域医療」 佐久市立国保浅間総合病院 名誉院長 吉 沢 国 雄
- (4) 「施設見学」

6. 総 評

当院は敷地約34,000㎡、建物約17,000㎡、一般病床310床、結核25床、医師34名、看護婦180名(准看護婦28名を含む)、総職員数316名の中型病院である。大学レベルの診療を地方でも是非やっていきたいということで、虎の門病院、沖縄南部病院に引き続いて医療スタッフを東大から招致した。

隣の佐久総合病院が機能を集中して大病院をつくられたのに対して、特殊能力はその都度招致する方針。そして、地域専門医の能力を利用し合うため、定期的院外症例検討会の輪を広げた。

若い院長の下に若々しい活気のある病院、美しい病院という印象を与えた。参観の機会を与えてくださった上、ご講演いただいた上記の三人の先生方に、心から感謝し厚く御礼申し上げます。

2. 全国事務管理研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和63年10月14日(金)、15日(土)
3. 開催地 新潟市・新潟厚生年金会館
4. 参加者数 54施設 100名
5. 演 題

- (1) 特別講演「医療情報の変化と私達の対応」

新潟県厚生連中央総合病院 院長 亀 山 宏 平

- (2) 「看護部門における業務改善」

新潟県立がんセンター新潟病院 看護部長 秋 山 静

(3) 「病院情報システムの現状と今後」 ——病院情報化時代にそなえて——

虎の門病院 事務部長 黒田 幸 男

(4) 特別対談「技師長と事務長」 新潟県立吉田病院 臨床検査技師長 黒岩 貞 樹

横浜赤十字病院 事務部長 益田 啓 作

(5) 「外注を考える」 順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院 事務部長 安田 尚 之

(6) シンポジウム「病院機能評価と業務改善」

司 会 虎の門病院 事務部長 黒田 幸 男

シンポジスト 順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院 事務部長 安田 尚 之

〃 河北総合病院 事務長 佐々木 和 男

〃 聖隷浜松病院 事務長 山本 敏 博

〃 小千谷総合病院 事務長 田中 英 夫

6. 総 評

本年度の全国研究会は、病院の業務改善をテーマに取り上げ、さまざまな角度より病院経営対応策を考えるよう企画したため、業務改善の推進役として日々奮闘している事務長諸氏にとっては、いろいろな角度より、それぞれの立場での考え方、実施方法を吸収でき、大変有意義であったと思われた。

また、恒例化された特別対談は第四弾として「技師長と事務長」を実施、常に本音の討論となるため大変好評であり、今後も継続する必要性を感じている。

また、研修会ではスライド等はなるべく使用せず、一冊の資料集にまとめて参加者に提供するという事務管理研究会の基本方針については毎回、非常に好評であり、今後も講師各位にご協力をいただき、開催記録として各参加者の手元に残るよう配慮していきたい。

最後に、今回の研修会を開催するにあたり、多大なるご尽力を賜りました地元役員各位並びに開催準備の段階より種々ご援助・ご協力を賜りました新潟県病院協会職員各位に対し深く感謝する次第である。

3. 全国医事研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和63年10月21日(金)、22日(土)
3. 開催地 山口市・山口県婦人教育文化会館
4. 参加者数 129施設 220名
5. 演 題

(1) 基礎医学講座(第36回)

「この頃繁用される臨床検査について」 山口県医師会 顧問 阿武 寿 人

- (2) 「診療報酬の請求もれ防止対策」 —— 病院では何パーセントの請求もれがあるか ——
 山口赤十字病院 医事課課長 平田三男
 北品川総合病院 事務部顧問 加藤雄二
- (3) 「査定減点对策と医療費改定」 —— 厳しい医療費ダウンに対処するために ——
 厚生連周東総合病院 医事課課長 花本敏夫
 本島病院 業務課課長 中野隆男
- (4) 「医療知識と点数算定トレーニング」
- (5) 事例研究課題によるグループ討議
- (6) 事例解答例の説明
- (7) 「医療知識と点数算定トレーニング」の解答
- (8) 全体討議

6. 総 評

開催地域の要望を受けて、医事課の責務の一つである「確実な請求」「確実な収入確保」を問題点として取り上げた。

医事課にとって古くて新しい“請求もれ”、“査定減”について、各々「診療報酬の請求もれ防止対策」「査定減点对策と医療費改定」と題し講演を、さらに医事業務の基本的問題である「事例算定」、そのために必要な「基礎医学講座」、そしてワンポイントレッスンとして「医療知識と点数算定トレーニング」をテーマにもりこみ開催した。

また今回は査定減についての参考資料として、会員病院の協力を得て査定減点の実状調査アンケートによって行い、その結果を各都道府県別（医薬品・検査編）に「支払基金、国保連合会レセプト審査による査定減点実態調査表」としてまとめた。

テーマの選定にはその都度タイムリーな内容をもりこむことに配慮し、診療点数をより正しく算定するために実症例をもとにした、グループ討議による「事例算定」や最終プログラムの全体討議では、単に医事業務についてのみならず、病院経営の観点からの質疑が交わされた。

病院内における医事課の責務を再認識し、今後も研修の実をあげるよう、なお一層の改善に努めたい。

4. 全国庶務人事研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和63年10月27日(木)、28日(金)
3. 開催地 秋田市・秋田県総合保健センター
4. 参加者数 90施設 169名

5. 演 題

(1) 「新人オリエンテーションの進め方とその効果」

— 病院における教育研修・能力開発等アンケート —

元癌研究会附属病院 人事課長 酒 井 武

(2) 「病院職員教育の計画・立案」 — 事務職員の教育研修の事例 —

聖路加国際病院作業計画室 室長 石 山 稔

(3) 特別講演「社会環境の変化に病院職員はどう対応するか」

厚生省病院管理研究所 医療管理部長 岩 崎 栄

(4) パネルディスカッション

「ベストの看護体制を求めて」 — 三交替制勤務の見直し —

秋田県看護協会 会長 久 保 静 江

順天堂浦安病院 看護部長 酒 見 邦 子

秋田労災病院 看護部長 工 藤 怜 子

公立米内沢総合病院 副総婦長 福 岡 勢 子

秋田県厚生連由利組合総合病院 総婦長 斉 藤 千 枝 子

(5) パネルディスカッション

「週休2日制のすすめ方」 — どうすればできるか4週5休 —

秋田県病院管理研究協議会 会長 小 林 武 雄

秋田県厚生連仙北組合総合病院 事務長 佐々木 泰 尚

市立秋田総合病院 総婦長 志 摩 麗 子

虎の門病院 総務課長 石 原 孝 憲

〔特別発言〕「あなたの病院で365日の平日診療は可能か？」

西能病院 事務部長 光 里 専 蔵

6. 総 評

この数年取り組んでいる“病院を取り巻く新しい時代への対策”を念頭におき、「病院教育研修」「週休2日制」「看護体制」をテーマに企画した。

参加者は、事務部門のほか病院長、看護部門と多岐にわたり、かつ講演内容が事例にもとづいたパネルディスカッション形式で進めたこともあり、各々の担当部門に即した質疑が終始交わされた。

また、本年度も全国会員病院を対象に実施したアンケートにもとづき、病院事務マニュアルシリーズとして「No.6 職員教育研修マニュアル」をまとめ、さらに現在「No.7 広報活動推進マニュアル」の企画編集をすすめている。

これらの書籍はいずれも定例・全国研究会での参加者の声に応えるかたちで庶務人事・労務各

研究会委員が共にまとめた。内容は単なる概論書ではなく実務書であるため好評をもって迎えられ、それらによって各病院の更なる飛躍が期待されるところである。

5. 全国労務研究会

(今年度は、庶務人事研究会との合同開催として実施した。)

6. 全国用度研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和63年10月7日(金)、8日(土)
3. 開催地 高松市・讃岐会館
4. 参加者数 88施設 107名
5. 演 題

(1) 講 演「コンピュータによる物品管理について」

舞子台病院 事務長 土井 義行

(2) 用度業務全般にわたるアンケート調査報告

(A) 用度業務に関する調査について 聖路加国際病院 用度課長 塩山 雅英

(B) 医薬品を除いた物品の価格調査について 三楽病院 庶務課長 川田 國雄

(C) 医薬品に関する価格調査について 日比谷病院 庶務課長 梅津 勝男

(3) 用度業務とコンピュータ

(A) コンピュータによる物品管理について 事例発表①

高知医科大学・医学情報センター 山本 皓二

(B) コンピュータによる物品管理について 事例発表②

クラヤ薬品(株) 情報システム部長 三崎 和夫

(C) コンピュータによる物品管理について 事例発表③

聖路加国際病院 用度係長 倉辻 明男

6. 総 評

今年度は、「コンピュータによる物品管理」をメインテーマに開催した。

毎年好評の「用度業務に関するアンケート調査報告」の他、①オーダリングシステム、②センター利用型によるオーダリングシステム、③パソコン利用による物品管理、の3題の事例発表は具体的な事例として大変参考になった。

最後に地元代議員である、回生病院の藤原院長、済生会病院の美馬院長には会場の手配やら参加者の勧誘までのご協力と2日間を通して最後までご同席、助言をいただき大変に感謝する所である。

7. 全国施設研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和63年10月20日(木)、21日(金)
3. 開催地 盛岡市・高校教育会館
4. 参加者数 34施設 45名
5. 演題

(1) 全国施設研究会開催にあたって(オリエンテーション)

(社)日本病院会 施設研究会 委員長 倉持一雄

(2) 「病院建築設計上における問題点」

——特にトラブルを未然に防ぐための材料選定をめぐる——

武蔵野赤十字病院 庶務係長 小峰建二

(3) 「施設管理とハウスキーピング」

河北総合病院 施設課長 瀬川篤宏

(4) 岩手県立中央病院見学

(5) 「ボイラー及び圧力容器」——ガス滅菌の取扱い上の注意——

東京都立豊島病院 主事 中西照録

(6) 「病院施設業務の委託管理」順天堂大学附属順天堂浦安病院 管財課長

静昌平

(7) 「空調設備の諸問題」 東京都済生会中央病院 建築企画室長代理

辺見九十九

(8) 「磁石と防錆」

北品川総合病院 施設課長 中島昭二郎

(9) 「病院の施設の効率化(省エネ)」——コージェネレーションを導入しての効果——

自治医科大学 技監 倉持一雄

(10) グループ討議

(11) 質疑応答

6. 総評

今回の全国研究会は昨年同様、施設管理の問題を広範囲に取り上げる形ですすめられた。年間定例研究会を4回行いテーマをしぼっておこなわれているため、全国研究会としては今後もこの方向ですすめ効果をあげてまいりたい。

今回の研究会開催に際してお世話いただいた地元役員の方々に深く感謝したい。

8. 全国会計経理研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和63年11月17日(木)、18日(金)
3. 開催地 静岡県・浜松市福祉文化会館
4. 参加者数 51施設 62名

5. 演 題

- (1) 「日本病院会常任理事・静岡県病院協会・聖隷浜松病院院長として」

日本病院会常任理事・聖隷浜松病院 院長 中山 耕作

- (2) 「初歩的な会計実務」

日本病院会会計経理研究会委員・東京衛生病院 事務長 衣川 輝夫

- (3) 「損益計算書の見かた」

日本病院会会計経理研究会委員・公立昭和病院 企画財務係長 岡田 好政

- (4) 「病院税制について」

伊藤会計事務所 公認会計士 伊藤 寛

- (5) 「グループ討議」

- (6) 「時局講演」

㈱協和銀行取締役 事業調査部長 矢島 勲

- (7) 「経営実態調査集計表の結果発表」

日本病院会会計経理研究会委員長・叻河北総合病院財団事務局 顧問 酒泉 春雄

- (8) 「病院見学」 総合病院聖隷浜松病院

6. 総 評

今回の研究会は、内容面を充実させていくこと、またより多くの参加者を募るために各委員が尽力し多数の参加者を得ることが出来、内容面でも例年以上の評価を得ることが出来た。

第1日目の中山耕作日非常任理事による、病院経営の問題点等は、病院人の在り方に大きな示唆が与えられた。

衣川輝夫氏の「初歩的な会計実務」・岡田好政氏の「損益計算書の見かた」では、自身の施設の実務を基に発表がなされ、参加者から参考になったと評された。

伊藤寛公認会計士の病院税制については、消費税の導入に伴う税の問題点等について詳細に述べられ、税は脱税を考えるより節税を基本とするべきである。又、独特の話術に参加者一同驚嘆の意を表わしていた。

グループ討議では、テーマである電算化の諸問題・会計準則や予算編成等について活発な意見が交わされた。

第2日目の矢島勲氏の時局講演では、銀行の当面する諸問題（自由化、証券化、国際化、自由資本の比率等）の今後の銀行の変貌について述べられた。

例年、好評の酒泉春雄氏の調査集計表の発表では、部門別の原価意識を持つことが経営管理では大切であると述べられた。

講演終了後、総合病院聖隷浜松病院のご協力のもとに、希望者と共と同病院の見学を行い、無事閉会となった。

なお、今回の研究会開催に当たって、ご尽力を賜った総合病院聖隷浜松病院の中山院長はじめ職員の方々に深く感謝する所である。

9. 全国看護管理研究会

1. 開催回数 2回
2. 開催期日 (第1回) 昭和63年6月2日(木)～3日(金)
(第2回) 昭和63年10月27日(木)～28日(金)
3. 開催地 (第1回) 青森市・青森市文化会館
(第2回) 広島市・広島厚生年金会館
4. 参加者数 (第1回) 80施設 217名
(第2回) 91施設 195名

5. 演題

(第1回)

- | | | |
|---------------------|-------------|--------|
| (1) 「リーダーシップについて」 | 聖路加国際病院 総婦長 | 内田 卿子 |
| (2) シンポジウム「基準看護の現状」 | 九段坂病院 看護部長 | 北林 悦子 |
| | 八戸赤十字病院 婦長 | 出町 八重子 |
| | 河北総合病院 婦長 | 小泉 世津子 |
| | 青森市民病院 副総婦長 | 柿崎 洋子 |
| (3) 「POSの実際」 | 聖路加国際病院 総婦長 | 内田 卿子 |

(第2回)

- | | | |
|-----------------------|---------------------------|-----------------|
| (1) 「今、看護管理者に求められるもの」 | ——リーダーシップ—— | |
| | 聖路加国際病院 総婦長 | 内田 卿子 |
| (2) シンポジウム「看護管理を考える」 | ——看護の機能評価—— | |
| | 関東通信病院 副総婦長 | 貝瀬 友子 |
| | 広島赤十字原爆病院 副看護部長 | 安田 富喜江 |
| | 東京女子医科大学病院 副看護部長 | 相羽 満佐江 |
| | 呉共済病院 看護部長 | 原 ハツエ |
| (3) 「看護管理を考える」 | ——アメリカの看護管理について—— | |
| | 米国カンサス州メディカルセンター 副院長(総婦長) | メアリー・アン・アイゼンバイス |
| | (通訳 呉共済病院副総婦長 | 川崎 美佐子) |

6. 総評

現下の医療環境は、高度、専門化が進むなかで、人口の高齢化、疾病構造の変化とともに、国民生活水準の向上により国民のより良き医療サービスへの要望が高まっている。このような状況の中で、各演者はこれからの病院における看護サービス、看護の質の管理とその評価、今後の地域医療と看護活動等について豊富な経験をふまえて理論的に講話され、参加者に多くの共感と感銘を与えた。

研究会開催の機会を与えてくださった、地元看護協会関係者の皆様に、心から感謝致し厚く御礼申し上げる次第である。

10. 全国薬事管理研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和63年10月6日(木)、7日(金)
3. 開催地 名古屋市・名古屋第一赤十字病院
4. 参加者数 155施設 182名
5. 演題

(1) 特別講演「保険医療をめぐる諸問題」

厚生省保険局医療課 薬剤管理官 手島邦和

(2) シンポジウム「病棟における薬剤師活動」

名城大学薬学部専攻科 稲垣員洋

大垣市民病院薬剤部 管理科長 早田道治

国立名古屋病院内分泌・消化器科 婦長 鈴木美恵子

社会保険中京病院 副院長 井澤洋平

(3) シンポジウム「医療の場で求められる医薬品情報」

徳島大学医学部附属病院教授・薬剤部長 高杉益充

岐阜勤労者医療協会みどり病院 内科部長 岩井雄司

名古屋記念病院 薬剤部長 後藤光良

京王帝都電鉄診療所 薬局長 瀬端精二

6. 総評

現行の慣習的薬剤業務を念頭におき、昭和63年医療費改定における病院薬局の新設技術料の設置をふまえ、未来指向的観点からの病院薬剤師のあり方について研究会を開催した。

病院薬剤師を取り巻く厳しい医療環境を背景に“保険医療の諸問題”について終始熱のこもった質疑が交わされた。

終了後「日常業務での諸問題に対して問題解決の糸口を見つけるのに役立った」「短時日に多くのことを学び、大変参考になった」等の声が参加者からあり、今後も具体的な内容を伴った研究会を企画していきたい。

11. 全国栄養管理・調理合同研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和63年10月14日(金)、15日(土)
3. 開催地 郡山市・郡山国際ホテル

4. 参加者数 90施設 145名

5. 演 題

(1) 講 演「今、病院給食に何を求められているのか」

総合病院聖隷浜松病院 院長 中山 耕作

(2) シンポジウム「今、病院給食に何を求められているのか」

① 追加給食 太田総合病院附属熱海総合病院 栄養給食科長 小林 幸子

② 適 温 東京都立広尾病院 栄養科長 下田尾 洋

③ 適 時 太田総合病院附属熱海総合病院 栄養給食科主任 田崎 久子

④ 自己採点 聖路加国際病院 栄養科長 宇井 美代子

(3) 講 演「味 と 栄 養」 東北大学農学部 教授 木村 修一

6. 総 評

「今、病院給食に何を求められているのか」をメインテーマに、講演とシンポジウムが予定通り行われた。地元のご協力により、充実した内容で終始したと思われる。各演者の講話は、確かな知識と、豊かな経験をふまえて理論的かつ具体的に話され、参加者は今後の病院給食に多くの有益な示唆を与えられた。今後も地元の理解と連携を深め、研鑽の実をあげていきたい。

12. 全国病院管理総合研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 昭和63年9月13日(火)、14日(水)

3. 開催地 福島市・杉妻会館

4. 参加者数 78施設 166名

5. 演 題

(1) 「看護の質の評価」 聖路加国際病院 総婦長 内田 卿子

(2) 「病院の評価をきめる医療の質と看護のあり方」 NHK解説委員 行天 良雄

(3) 「老人保健施設の運営」 社会福祉法人晴山会 理事長 平山 登志夫

6. 総 評

病院を取り巻く厳しい医療環境に“いかに病院管理者として対応するか”を念頭において、本年度は「今後の病院経営を考える」を主テーマに取り上げた。

一方的な講演にとどまらず、講師と参加者との現場の生の声が行き交う、熱気のこもった雰囲気の中で研究会は終始した。

厳しい医療環境を背景に、病院に課せられた重責を果たす観点から今後も継続して参加者の期待に応えられるテーマを選び、参加者と共に悩み研究していきたい。

13. 全国放射線研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和63年10月29日(土)、30日(日)
3. 開催地 小諸市・小諸グランドキャッスルホテル
4. 参加者数 48施設 196名
5. 演 題

- (1) 特別講演「医療人の心得」 厚生連佐久総合病院 院長 若月俊一
- (2) 「人間関係を良くするには(QC手法を用いて)」——放射線部門について——
 - 長野県放射線技師会東信支部 支部長 田中達夫
 - 長野県放射線技師会北信支部 支部長 松山繁
 - 長野県放射線技師会中信支部 支部長 堀川豊
 - 長野県放射線技師会諏訪支部 支部長 浜豊一
 - 長野県放射線技師会上下伊那支部 支部長 武田靖人
- ①「人間関係とは(概説)」 東京医科大学霞が浦病院放射線科 技師長 藤田良三
- ②「QCについて」 聖路加国際病院放射線科 技師長 大内周信
- (3) 「医療における放射線技師の役割」
神奈川県労働衛生福祉協会 消化器診断部長 窪田博吉
- (4) 「カメラの眼、人間の眼」 写真家 英伸三
- (5) 「最近の腹部疾患について」——診断から治療まで——
厚生連小諸厚生総合病院外科胃腸科 医長 臼井建二

6. 総 評

現場技師が抱えている諸問題についてQC手法を用いて問題解決の糸口を見つけたり、体験論を発表するという昨年度の企画方針を本年度も踏襲し、さらに地元関係団体からの要望を踏まえて倫理的・文化的・技術的な講演を織りませたほか医療機器展示併設のプログラムを企画したこともあり、昨年にもまして多くの参加者を得ることができた。

一昨年度までの全国研究会参加者数が20名～30名であったことを考えると隔世の感がある。

放射線技師の果たす役割が年々重要視されてきたこととあいまって、企画する委員の熱意が少しずつ実り始めてきたといえよう。

そのような背景のもと病院内での放射線技師に課せられた重責を再認識し今後も研修の実をあげるよう、なお一層の改善に努めたい。

14. 全国臨床検査管理研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和63年9月16日(金)、17日(土)
3. 開催地 京都市・京都第2タワーホテル
4. 参加者数 69施設 91名
5. 演題

- (1) 「臨床検査の将来展望」 厚生省保険局医療課 課長補佐 松谷 有希雄
- (2) パネルディスカッション「検査室を取りまく諸問題」
 - ①「点数改正の影響と対策」 東京医科大学病院 技師長 宇津木 道弘
順天堂大学浦安病院 技師長 川畑 貞美
 - ②「病院検査室技師の在り方」 春日部市立病院 検査科長 鈴木 勝治
済生会京都府病院 技師長 宮谷 勝明
 - ③「ベッドサイド医療への参画」 昭和大学病院 技師長 平沢 政人
- (3) 「先端技術と臨床検体検査」 京都大学検査部 教授 村地 孝
- (4) 「病院長から見た検査室への要望」 国立八日市病院 名誉院長 仁木 偉瑳夫

6. 総評

「検査室を取りまく厳しい医療環境にいかに対応するか、そしてその将来展望は。」をメインテーマに、地元技師会の熱心なご協力により、充実した内容で参加者から多くの共感を得た。各演者の講演は確かな知識と、豊かな経験をふまえて理論的かつ具体的に話され、参加者は多くの有益な示唆を与えられたものと思われる。

15. 全国ハウスキーピング研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和63年10月9日(水)
3. 開催地 東京都・東京都立大塚病院
4. 参加者数 12施設 17名
5. 演題

- (1) 「ここまでわかったB型肝炎(について)」東京都立大塚病院 副院長 岡田 清
- (2) 「施設見学」 東京都立大塚病院

6. 総評

岡田清先生の講演は、肝炎ウィルスについて、感染予防、消毒方法、B型肝炎になった場合の補償について、実際の豊富な経験にもとづいた充実した内容で好評を得た。

参加者に多くの有益な示唆を与えてくれたものと思われる。

今後も具体的な内容を伴った研究会として運営してまいりたい。なお施設見学の機会を与えてくださった、都立大塚病院の東晃院長に深く感謝する。

16. 全国図書室研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和63年9月9日(金)、10日(土)
3. 開催地 大阪府・大阪科学技術センター
4. 参加者数 34施設 35名
5. 演 題

(1) シンポジウム「病院におけるライブラリアンシップ」

昭和大学附属烏山病院 図書室	杉 森 弘 子
広島市民病院 図書室	岡 橋 郁 子
大阪回生病院 図書室	加 島 民 子
名古屋第一赤十字病院 図書室	笠 原 廣 子

(2) 特別講演「これからの医療と病院図書室の役割」

淀川キリスト教病院 院長 白 方 誠 弥

(3) 講演「J-BISCを中心としたCD-ROM製品について」

丸善㈱大阪支店

(4) 講演「レファレンスサービスの実際」

大阪大学附属図書館中之島分館 参考調査協力掛長 岩 本 速 雄

6. 総 評

「病院におけるライブラリアンシップ」を主テーマに倫理的・技術的な講演のほか、病院図書館司書が抱える諸問題について体験論を述べあうシンポジウムを企画した。

病院図書館司書の果たす役割が重要視されてきていることを反映して、講師と参加者との間で各々の病院図書室がおかれている現況や図書室の理想像について質疑が繰り返され、時間不足の感があった。

数年来参加者数の伸び悩みがみられるが、この研究会で顔馴染になり本音で語り合える数少ない研究会であるとの声に応えるためにも、様々な観点から工夫改善を図り、病院図書館司書のレベルアップのためになお一層本研究会を進展していきたい。

第8 職場リーダー研修会

1. 開催回数 3回

2. 開催概要

第54回（3日間コース）

期 日 昭和63年6月13日(月)～15日(水)

場 所 北海道・支笏湖畔国民休暇村

参加者 14病院 22名

- 演 題
- 1) 職場リーダーのポジションと役割
 - 2) 職場運営のポイント
 - 3) 要求される創意工夫
 - 4) 職場研修のねらい
 - 5) リーダーシップと相互理解
 - 6) ケース・スタディ

リーダー

昭和大学病院 臨床検査技師長	平 沢 政 人
聖路加国際病院 ハウスキーピング課長	内 藤 均
昭和大学病院 放射線科技師長	神 田 幸 助
武蔵野赤十字病院 医事課長	緒 方 廣 市
東京医科大学病院 栄養係長	平 井 千 枝

第55回（5日間コース）

期 日 昭和63年11月14日(月)～18日(金)

場 所 神奈川県市町村職員共済組合 ちとせ荘

参加者 14病院 20名

演 題 特別講演 “信頼の人”

横浜赤十字病院 事務部長 益 田 啓 作

特別講演 “国民医療の転換期と職場リーダーの役割”

(社)日本人管理協会 理事 酒 井 暢

- 1) 監督者の職務
- 2) 仕事の管理
- 3) 仕事の改善
- 4) 部下の育成
- 5) リーダーシップ

リーダー 第54回と同じ

第56回（3日間コース）

期 日 平成元年2月22日(水)～24日(金)

場 所 京都府立勤労会館

参加者 36病院 71名

演 題 }
リーダー } 第54回と同じ

3. 総 評

従前、東京・京都・湯河原の3カ所を開催会場として実施していたが、本年度は初めての試みで東京にかえて北海道・支笏湖畔で開催した。参加者数は予定を下回ったが、本研究会の活動が広く訴えられ、その意義は大きい。次年度は広島市で開催予定。

第9 第28回病院視察研究会

1. 開催地 群馬県・栃木県
2. 開催期日 昭和63年10月26日(水)～29日(土) 3泊4日
3. 視察病院 (1) 27日・高崎市・慈光会病院(山崎學院長・医療法人)
(2) 27日・前橋市・前橋赤十字病院(長洋院長・日赤)
(3) 28日・桐生市・桐生厚生総合病院(松本芳郎院長・市町村)
(4) 28日・足利市・国立療養所足利病院(中村博志院長・国)
(5) 29日・宇都宮市・栃木県済生会宇都宮病院(宮崎柏院長・済生会)
4. 宿泊所 (1) 26日・伊香保町・ホテル天坊(兼集合場所)
(2) 27日・新田郡やぶ塚本町・ホテルふせじま
(3) 28日・宇都宮市・宇都宮グランドホテル
5. 参加者数 14施設 21名
6. 総評

今回の視察研究会は地元選出の日病役員であられる山崎、長、宮崎先生に地域事情、経営主体などをご考慮いただき、巡行コースをあわせてご助言、ご連絡をいただいた。

視察病院の特色は次のようである。

慈光会病院：昭和27年2月、高崎市上佐野市町の烏川畔の高台に県下2番目の精神病院(28床)として発足した。東北新幹線建設に伴い病院の一部が同線路敷地となって移転することとなり、昭和57年同地区の大高青果市場跡地に総合病院として再発足した。病床規模522床(一般105、老人165、精神252)で、心臓特殊外来、老人専門病棟(老人性痴呆症を含む)など当直体制を合せ年中無休の対応を敷いている。

前橋赤十字病院：大正3年群馬県支部病院として発足、昭和18年1月現名称に改称されており、75年を経ている名門で、地域医療計画の許可を受け400床の病棟新築を計画中である。なお昨年10月現在の病床数は522床。病棟のほか、健康管理センターでドックベッド16床、看護専門学校、保育所などを有する。地域の基幹病院として信頼されている。

桐生厚生総合病院：昭和26年4月、桐生市ほか12町村医療事務組合が設立され、桐生地方国民健康保険団体連合会より引継ぎ公的病院として発足、昭和40年4月、市町村合併により、桐生市を核として2町4村で地域を構成することとなった。訪問同時、増改築工事の第1期工事(病棟)が完了する間際で、第2期工事(外来棟、63.10～平1.10)、第3期工事(外構、平1.11～平2.4)、と予定されており、病床数530床である。新病棟最上階の8階は展望室を兼ねた明るい食堂となっているほか、適所に新しい設備をとり入れ、経営の基礎づくりが始められている。

国立療養所足利病院：周囲を緑で囲まれた環境で、昭和13年栃木県立松寿園として創立され、当

時結核療養所として発足した。昭和22年厚生省に移管され、昭和49年現称に改称、現在は、重症心身障害（重心）児、小児慢性疾患や小児精神神経疾患児（てんかん、登校拒否ほか）が全体の6割を占め、結核は僅かになっている。内訳は結核40床、重心児120床、一般160床。小児科の長期療養児らは隣接する県立養護学校で教育が受けられる仕組みになっている。病室、廊下は板張りで毎日きれいに磨かれているが、患児の介護で若い看護婦でも疲労、腰痛などが訴えられている。

済生会宇都宮病院：昭和17年5月、仮診療所が開設され、戦後次々と整備拡充されて、現在県立代行病院として総合医療体制が整えられて運営されている。昭和56年からは県内唯一の三次救急施設として救命救急センターを運営し、地域の中核病院としての使命を果たしている。病床数544床で、宇都宮市の中心部に位置し、診療圏は県内全域に及んでいる。

今回の参加者内訳はコーディネーターを含めて院長2、副院長2、医療部長2、事務系役員5、事務系6、看護系4であっち。ご協力いただいた各院長はじめ懇切な対応をいただいた各病院の方々に謝意を表したい。なお当研究会のレポートはグラフと一緒に日本病院会雑誌'89 3月号に収録された。

第10 診療録管理通信教育

1. 入学状況

◦ 第33期生入学

- 1) 開講月日 昭和63年7月1日
- 2) 入学者数 137名（但し、2年次編入16名含む）
- 3) 受講料 60,000円（年額）

◦ 第34期生入学

- 1) 開講月日 昭和64年1月1日
- 2) 入学者数 123名（但し、2年次編入31名含む）
- 3) 受講料 60,000円（年額）

2. 卒業状況

◦ 第29回卒業

- 1) 卒業生数 50名（男6名、女44名）

〔卒業式典 同会場〕	昭和63年10月19日
	東京：霞が関東京会館

◦ 第30回卒業

- 1) 卒業生数 44名（男9名、女35名）

〔卒業式典 同会場〕	平成元年4月15日
	東京：ダイヤモンドホテル

3. 受講生員数状況（元年3月31日現在）

◦ 入学者の総数

3,316名

男 696名

女 2,440名

◦ 卒業生の総数

1,262名

男 240名

女 1,022名

◦ 受講者の総数

576名	31期	185名	32期	133名
------	-----	------	-----	------

	33期	135名	34期	123名
--	-----	------	-----	------

4. 集中スクーリング実施状況

第33回集中スクーリングおよび試験

。期日（昭和63年8月18日(木)～昭和63年8月24日(水)）

第一年次スクーリング			試 験	第二年次スクーリング		
第32・33期生			第29・31期生	第30・31期生 第33・33期2年次編入者		
18日 (木)	19日 (金)	20日 (土)	昭和63年8月21日 (日)	22日 (月)	23日 (火)	24日 (水)

<会 場>

延出席者

東京：早稲田速記学校 666名
 大阪：大阪府職業訓練センター 291名
 福岡：福岡大学医学部 135名
 計 1,092名

第34回集中スクーリングおよび試験

。期日（平成元年2月16日(木)～平成元年2月22日(水)）

第一年次スクーリング			試 験	第二年次スクーリング		
第33・34期生			第30・32期生	第31・32期生 第33・34期生2年次編入者		
16日 (木)	17日 (金)	18日 (土)	平成元年2月19日 (日)	20日 (月)	21日 (火)	22日 (水)

<会 場>

延出席者

東京：早稲田速記学校 549名
 大阪：大阪府職業訓練センター 315名
 福岡：福岡大学医学部 177名
 計 1,041名

5. 医学セミナー

5月14日 外 科 学 日 病 会 議 室 10名
 5月21日 外 科 学 同 8名
 6月11日 外 科 学 同 6名

6月18日	統計学	日病会議室	10名
6月25日	解剖学	同	3名
7月2日	産科学	同	4名
10月15日	統計学	同	5名
10月29日	統計学	同	5名
11月7日	外科学	同	5名
11月19日	外科学	同	11名
12月3日	産科学	同	10名
	開催 11回	延参加者	77名

第11 メディカルクラーク通信教育

1. 入学状況

◦第13期生入学

- 1) 開講月日 昭和63年7月1日
- 2) 入学者数 63名
- 3) 受講料 64,000円(年額)

2. 卒業状況

◦第12回卒業

- 1) 卒業生数 27名(追加認定3名含む)(男9名、女18名)

〔卒業式典 昭和63年9月24日〕
〔同会場 東京：ふくおか会館〕

3. 受講生員数状況(平成元年3月31日現在)

- 入学者の総数 1,147名
 - 男 395名
 - 女 752名
- 卒業生の総数 604名
 - 男 190名
 - 女 414名
- 受講者の総数 78名(延長生19名含む)

4. 集中スクーリングおよび試験実施状況

1) 第13期生スクーリング

- 前期(昭和63年8月18日(木)～24日(水))

18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日
(木)	(金)	(土)	(日)	(月)	(火)	(水)
#13前期スクーリング			試験 〔#12後期 延長生前・後期〕	#13前期スクーリング		
東京会場			東京・京都	京都会場		

<会場>

延出席者

東京：千代田生命研修センター

104名（延長生1名含む）

京都：ビル葆光

79名（延長生2名含む）

○後期（平成元年2月11日(土)～17日(金)）

11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日
(土)	(日)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)
#13後期スクーリング			試験 〔#13前期 延長生前・後期〕	#13後期スクーリング		
東京会場			東京・京都	京都会場		

<会場>

延出席者

東京：千代田生命研修センター

67名

京都：ビル葆光

79名

2) 試験受験状況

○第12期生後期（延長生後期含む）

期日：昭和63年8月21日(日)

受験者： 33名（延長生2名含む）

東京会場 21名（延長生1名含む）

京都会場 12名（延長生1名含む）

合格者 24名

（但し、内2名については、医療事務再試験を9月13日(日)日病に於て実施結果合格）

○第13期生前期（延長生前・後期含む）

期日：平成元年2月14日(火)

（前期）

受験者： 47名（延長生3名含む）

東京会場 20名（延長生1名含む）

京都会場 27名（延長生2名含む）

合格者 44名（延長生2名含む）

（延長生後期）

受験者： 4名

合格者 2名

第12 事務長養成課程通信教育

1. 入学状況

◦ 第11回生入学

- 1) 開講月日 昭和63年7月1日
- 2) 入学者数 19名
- 3) 受講料 480,000 (年額)

2. 卒業状況

◦ 第9回卒業

- 1) 卒業者数 10名 (男10名)
- | | |
|------|------------|
| 卒業式典 | 昭和63年7月23日 |
| 同会場 | 東京：ふくおか会館 |

3. 受講生員数状況 (平成元年3月31日現在)

- 入学者の総数 181名
 - 男 170名
 - 女 11名
- 卒業者の総数 82名
 - 男 78名
 - 女 4名
- 受講者の総数 28名

10回生12名 (9回生1名含む)
11回生16名 (9回生1名含む)

4. 集中スクーリングおよび試験実施状況

1) スクーリング

前期

昭和63年7月11日(月)～16日(土)
昭和63年7月18日(月)～23日(土)

10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	18日	19日	20日	21日	22日	23日
(日)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)
試験 #10 1年次後期	スクーリング #10 2年次前期						スクーリング #11 1年次前期					
	東京：本願寺築地別院 第一伝道館											

延出席者 第10回生 66名

第11回生 114名

後期（平成元年1月11日(水)～23日(月)）

10 日	11 日	12 日	13 日	14 日	15 日	16 日	17 日	18 日	19 日	20 日	21 日	22 日	23 日
(火)	(水)	(木)	(金)	(土)	(日)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)	(日)	(月)
試験 〔#11 1年次前期〕	スクーリング (#11 1年次後期)					試験 〔#10 2年次前期〕	スクーリング (#10 2年次後期)						
東京：本願寺築地別院 第一伝道館													

延出席人員 第10期生 60名

第11期生 90名

2) 試験受験状況

○第9回生2年次後期

期 日 昭和63年6月11日(土)

場 所 三重：桑名シティホテル

受験者 10名（内1名は当日欠席後日追試受験）

合格者 10名（内1名は追試合格）

○第10回生1年次後期

受験者 10名 合格者 10名

○第10回生2年次前期

受験者 11名（9回生1名を含む）

合格者 11名（9回生1名を含む）

○第11回生1年次前期

受験者 15名 合格者 12名

5. 第7回卒後研修会

期 間 昭和63年6月11日(土)～12日(日)

テーマ 「病院経営戦略の策定」

会 場 三重：桑名市山本総合病院 山本大仲病院

講 師 山本総合病院理事 山本重雄

杏林大学医学部教授 高橋政祺

自治医科大学教授 一条勝夫

参加者 15名

第13 セミナー

1. 病院長・幹部職員セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和63年8月20日(土)10:00~17:30、21日(日)9:00~12:00
3. 開催地 横浜市・ザ・ホテルヨコハマ
4. 参加者数 200施設 246名(うち神奈川県下102施設 150名)
5. 演題

第1日(8月20日)

- (1) シンポジウム「病院機能評価と診療報酬」

	聖路加国際病院 院長	牧野 永城
	名古屋第二赤十字病院 院長	富永 健二
	河北総合病院 副理事長	河北 博文

(助言者) 厚生省病院管理研究所 医療管理部長 岩崎 榮
(司会) 水戸済生会総合病院 院長 丹野 清喜
- (2) 特別講演「迫られる経営戦略の多様化」

	病院システム開発研究所 所長	坪 武
	大口東総合病院 理事長	小野 肇

(司会)
- (3) シンポジウム「わが病院の経営戦略」

	総合大雄会病院 院長	伊藤 研
	総合加納病院 院長	加納 繁美
	日本医療伝道会衣笠病院 院長	山本 敬
	新潟県厚生連中央総合病院 院長	亀山 宏平
	市立熊本市市民病院 院長	廣田 耕三

(助言者) 筑波大学社会医学系 教授 紀伊國 献三
(司会) (株)日本病院会 会長・国保旭中央病院 院長 諸橋 芳夫

第2日(8月21日)

- (4) 特別講演「今後の高齢者対策」

	厚生省大臣官房 老人保健福祉部長	多田 宏
	林間病院 院長	小西 宏

(司会)
- (5) シンポジウム「老人保健施設の運営」

	長野県厚生連佐久総合病院 院長	若月 俊一
	南小倉病院 院長	矢内 伸夫
	甲州病院 院長	島津 寿秀

(助言者) 厚生省病院管理研究所 医療管理部研究員 小山 秀夫
(司会) 岡山病院 院長 岡山 義雄

6. 総 評

当セミナーの地方持ち回りも今回で3度目となり、先の大坂、愛知地区の盛況を受けて、今回も盛況裡に終わった。企画については小野肇神奈川県病院協会会長、平野一彌日病常任理事に小西宏県病理事が中心になって当たられ、病院機能評価、経営戦略、老人保健対策の三本柱をテーマとして、設営された。

今回は特に4月の医療費改訂のあとを受けて、その後の影響調査が個々に報告され始めた時期であったが、経営改善の要因とは言い難く、実質的にはマイナス改定の評価が出されてきた時期であった。こうした中で、いずれも診療報酬にかかわる問題提起であり、福祉と経営効果についての論点を浮き彫りにしたセミナーとなった。

今回の開催について、ご尽力戴いた地元役員はじめ県病院協会事務局のご支援に感謝申し上げたい。

2. 病院医療の質を考えるセミナー（病院幹部医セミナー）

1. 開催回数 2回
2. 開催期日 (1) 昭和63年9月17日(土)～18日(日)
(2) 平成元年2月18日(土)～19日(日)
3. 開催地 (1) 愛媛県・新居浜市 十全総合病院
(2) 神奈川県・川崎市 日本鋼管病院
4. 参加者数 (1) 19施設 39名(愛媛県)
(2) 32施設 45名(神奈川県)

5. テーマ

<愛媛県>

- ① 特別講演「病院の予防医学活動」 —日本の現況と今後の展望—

(社)日本病院会 病院幹部医会 会長 笹 森 典 雄

- ② シンポジウム「医療の質を高める院内教育」

座長 十全総合病院 副院長 山 根 行 雄

日本鋼管病院 副院長 大 川 日出夫

演者 十全総合病院 外科部長 大 野 靖 彦

十全総合病院 中央臨床検査科技師長 松 井 哲 志

十全総合病院 放射線科技師長 奥 平 智 基

十全総合病院 総婦長 西 本 ユミコ

コメンテーター 淀川キリスト教病院 副院長 辻 本 嘉 助

- ③ 病院見学（十全総合病院）

④ シンポジウム「地域医療における病院の役割」

座長	十全総合病院 院長	松尾 嘉禮
	名古屋第二赤十字病院 副院長	広瀬 庸俊
演者 診療所の立場：	新居浜市医師会 地域保健部長	山内 易雅
	岩崎病院 院長	鎌田 昌平
病院の立場：	住友別子病院 副院長	鎌田 昌平
	十全総合病院 副院長	古林 太加志
市民の立場：	新居浜市保健環境部	石川 恵美子
	新居浜市保健センター 所長	

<神奈川県>

- ① NKK 京浜製鉄所 日本鋼管病院京浜保健センター見学
- ② 特別講演「これからの病院医療と院内教育」 (社)日本病院会 会長 諸橋 芳夫
(座長：東京通信病院 副院長 内藤 周幸)

③ シンポジウム「院内職員の連携と医療の質向上への努力」 一日本鋼管病院の現状一

座長	東邦大学付属大森病院 講師	小野 丞二
	日本鋼管病院 副院長	大川 日出夫
演者「日本鋼管病院におけるQC活動の現況」		
	日本鋼管病院 副院長	中川 自夫
「病院と保健センターとの連携」		
	日本鋼管病院京浜保健センター 保健婦 婦長	吉田 千賀子
「看護婦と他部署との連携」	日本鋼管病院 総婦長	茂手木 公枝
「外来および入院患者アンケートによる病院の評価」		
	日本鋼管病院 医事課主任	宮原 松男
コメンテーター	関東通信病院 研究部長	三宅 浩之

④ 特別講演「みんなで生きる…バングラディッシュの8年間」

	日本キリスト教海外医療協会 医師	宮崎 亮
	(座長：淀川キリスト教病院 副院長 辻本 嘉助)	

6. 総 評

両セミナーとも特別講演、シンポジウム、病院見学と形式も定着し、内容もさらに充実してきた。

両セミナーとも開催に際し、ご尽力、ご支援を賜った地元役員、病院をあげてご協力をいただいた、十全総合病院、日本鋼管病院の院長はじめ職員の方々に深く感謝するしだいである。

3. 病院情報センターセミナー

1. 開催回数 2回

2. 開催期日 (1) 昭和63年6月24日(金)

(2) 平成元年2月22日(水)、23日(木)

(1) 昭和63年6月24日(金) 東京・池袋 114施設 162名

講演：「レセプト・コンピュータの現状について」

医事コンピュータ協議会 西山孝之

パネルディスカッション：「情報化時代の医事システム」

—63/4点数改正への対応の実態、医療界への要望、医療界の要望、将来の展望とそれを実現する方策—

司会 関東通信病院 部長 三宅浩之

システム提供者 三洋電気 竹中氏

富士通 遠藤氏

日本電気 永井氏

システム使用者 本島病院 中野氏

関東通信病院 渋谷氏

(2) 平成元年2月22日(水)・23日(木) 東京 87施設 112名

基調講演：「これからの病院経営の考え方」 —計数管理のための条件—

自治医科大学 病院管理学教授 一条勝夫
(日本病院会病院情報センター委員)

教育講演：「病院情報システム設計の要点」

関東通信病院附属医用情報研究所 部長 三宅浩之
(日本病院会病院情報センター委員)

講演と質疑：「コンピュータの利用についての現場からの提言」

北町病院 事務長 青木禮和
(日本病院会病院情報センター委員)

教育講演：「コンピュータ利用のポイントは？」

日本情報研究所 医療技術顧問 岡田行雄
(日本病院会病院情報センター委員)

技術講演：「医療保険システムのコンピュータ利用の現状と将来展望」

医事コンピュータ協議会標準化部会 部会長 西山孝之
(日本病院会病院情報センター技術協力委員)

技術講演：「病院情報処理のトータルシステムの実現と課題」

日本電気 医療情報システム事業部 販売促進部部長代理 永井肇
(日本病院会病院情報センター技術協力委員)

4. 医療紛争防止のためのセミナー

1. 開催回数 2回
2. 開催期日 (1) 昭和63年6月17日(金)、18日(土)
(2) 昭和63年11月12日(土)
3. 開催地 (1) 東京都・科学技術館サイエンスホール
(2) 仙台市・イベントホール松栄
4. 参加者数 (1) 東京都・123名
(2) 仙台市・196名

5. テーマ

<東京>

「老人病の特性」	東海大学病院 院長	五 島 雄一郎
「老人医療事故防止の対策をどう考えるか」	厚生省社会局老人福祉課長	辻 哲 夫
「医療経済からみた老人医療」	NHK 解説委員	行 天 良 雄
「施設面からみた老人医療事故防止対策」	小原病院 院長	小 原 知次郎
「痴呆性老人の偶発事故防止」	聖マリアンナ医科大学病院 婦長	五 島 シ ズ
「老人における医療事故対策」	柴田病院 院長	柴 田 高 志
「老人と痴呆症」	国立療養所菊池病院 院長	室 伏 君 士

<宮城>

「看護管理と医療事故」	前慶応義塾大学病院 総婦長	中 鉢 美津子
「院内感染の発生要因とその対策 一特に看護の立場から一」	岩手医科大学 細菌学教授	川 名 林 治
「老人における医療事故対策」	天本病院 院長	天 本 宏
「医事紛争」	宮城県赤十字血液センター 所長	赤 石 英

6 総 評

東京におけるセミナーは、現在最も重要視されている「老人」に焦点をあて開催した。一つのテーマに対して、いろいろな角度の展開ができた。普段から耳にする内容より、一歩医療を外からみる先生の話題が新鮮であったとの意見が多かった。

宮城におけるセミナーは、地元の医師会、看護協会のご協力により、参加者、内容ともに充実したものとなったことを感謝申し上げる。今後も、現場で活躍されている看護部門の方々を対象の中心として企画してまいりたい。

5. 病院防災セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和63年8月29日(月)～30日(火)
3. 開催地 ホテルアルティア仙台
仙台市消防局大ホール
4. 参加者数 119施設 176名
5. 演題

(1) シンポジウム「病院の夜間防火管理体制充実の在り方」 ー行政マニュアルをめぐるー

座長	(社)日本病院会防災対策部会長・岡山病院 院長	岡山 義雄
演者	自治省消防庁予防課 課長補佐	松本 重昭
	日本医師会代議員・安田病院 院長	安田 恒人
	愛知県がんセンター 看護課長	片岡 俊子
	聖路加国際病院 総婦長	内田 卿子

(2) 特別講演「病院防災のリスクと夜間病院管理」

名古屋大学工学部 建築学科 助教授 辻本 誠

(3) 話題提供「病院をとりまく防災・消防動向について」 日本消防新聞社 砂原 良夫

(4) 病院スプリンクラー(パート2)・二号消火栓等の標準設計と費用及び設置後にみるトラブルの事例

ホーチキ株式会社 技術部長 亀井 防人

(5) 病院火災及び災害事故における民事・刑事事件の教訓

住友火災海上 弁護士 高橋 實

(6) シンポジウム「病院の特性からみた防災対策」

座長	仙台市立病院 院長	的場 直矢
演者	仙台市消防局 警防部長	今野 孝
	(社)日本病院会防災対策部会委員・聖路加国際病院 事務長	上林 三郎
	(社)日本病院会防災対策部会委員・自治医科大学 技監	倉持 一雄
	(社)日本病院会防災対策部会委員・岡山病院 理事	岸上 香
	仙台赤十字病院 総婦長	安藤 啓伊子
	日本看護協会青森県支部 顧問	花田 ミキ

(7) 病院のリスクマネジメントと損害保険の動向について(パート2)

千代田火災RMサービス 室長 本藤 鉄二

(8) わが病院防災実践法について 井上病院 院長 井上 敬勝

(9) 防災体験(仙台市消防局各担当官による)

・救助訓練 ・梯子車訓練 ・起震車訓練

(10) 分科会(フォーラム)

看護部門の災害時対応

震災時の病棟では……

座長	(社)日本病院会防災対策部会副部長・小原病院 院長	小原 知次郎
演者	仙台市立病院 総婦長	折原 ハナ子
	青森県立中央病院 病棟婦長	横内 桂子

6. 総評

仙台市立病院、仙台市消防局の全面的な協力のもとで充実したセミナーであった。

内容的にも施設管理面のハードからマンパワーのソフトの部分まで幅広く取りあげ2日間とも参加者は大変熱心に受講された。殊に仙台市消防局における2日目は同局の建物を使っての本格的な消防訓練を見学でき感銘深いものであった。

6. 事務長セミナー

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 平成元年3月17日(金)、18日(土)

3. 開催地 東京都・全国町村議員会館 6階 大会議室

4. 参加者数 74施設 88名

5. 演題

(1) 「医療保険改革の展望」 厚生省 大臣官房審議官(医療保険) 岡光 序 治

(2) 「これからの老健施設はどうなるか」

厚生省病院管理研究所 医療管理部 小山 秀 夫

(3) 「病院医療における消費税への対応」 有澤総合病院 院長 有澤 源 蔵

(4) 「病院経営と看護管理」 虎の門病院 看護部長 栗原 や ま

(5) シンポジウム「外部環境変化への対応をどうするか」

司会 虎の門病院 事務部長 黒田 幸 男

シンポジスト 順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院 事務部長 安田 尚 之

聖隷浜松病院 事務長 山本 敏 博

河北総合病院 事務長 佐々木 和 男

聖路加国際病院 事務長 上林 三 郎

横浜赤十字病院 事務部長 益田 啓 作

6. 総評

本年度の事務長セミナーは、「病院をとりまく外部環境変化の動向」をメインテーマとして、病院をとりまくさまざまな問題に対し、今後各病院がどのように対処をしていったらよいかを考

えてみたいと企画した。

特に、医療界にとってはかつて経験のない全ての医療外行為に課税されるという消費税という問題に対する対応を演題の一つに取り上げたことで、年度末という時期にもかかわらず北は北海道から南は鹿児島まで文字どおり全国からの参加者を得、非常に盛会であった。

参加者のアンケートでもやはり消費税の問題に関心が非常に高く、診療側、行政側の双方の講師による講演あるいはシンポジウム等の企画を望む声が多く見うけられ、今後はタイムリーな問題を時間をかけて討論するような企画の必要性を強く感じた。

また、中小病院向けのテーマを強く希望する意見もあり、今後はシンポジウム等の演者に病床規模の少ない施設の講師にも加わってもらえるよう考慮することとした。

7. 総婦長セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和63年8月18日(木)、19日(金)
3. 開催地 東京都・番町グリーンパレス
4. 参加者数 134施設 173名
5. 演題

- | | | |
|----------------------|---------------|-------|
| (1) 「新しい医療職と看護との関わり」 | (社)日本看護協会 会長 | 有田 幸子 |
| (2) 「ターミナルケア」 | 聖隷ホスピス 名誉所長 | 原 義雄 |
| (3) 「特Ⅲ看護はどうして生まれたか」 | 厚生省保険局 医療課企画官 | 高原 亮治 |
| (4) 「枕草子のおもしろさ」 | 独協大学 教授 | 河北 騰 |
| (5) 「婦長・主任看護婦の教育」 | 聖路加国際病院 総婦長 | 内田 卿子 |

6. 総評

参加人員は173名で、ここ数年の状況に比べて看護部長（総婦長）の参加が目立ち、本来の総婦長セミナーの色彩が濃くなった。看護への再認識のもとに、看護のあり方を模索する管理者の姿を伺い知ることができた。医療というものは特別なもの、特殊なものであり、あまり細かいことを言わずにやってきたというのが今までのわが国の医療であるが、今後は前代未聞、未曾有の高齢化社会、医療需要の中で国民の負担がどう変容していくか、また看護体制の流れとしての訪問看護への取組みの問題等、今後も参加者相互の交流を通じて意義のあるセミナーとして発展させていきたい。

8. 病院職員接遇セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 平成元年1月26日(木)、27日(金)

3. 開催地 石和市・石和温泉病院附属施設「クアハウス石和」

4. 参加者数 17施設 24名

5. 演 題

- (1) 基調講演「何故いま接遇研修？」 小野病院 理事長 小野 良 蔵
- (2) 講演「病院接遇研修の理論と実際」 リンクアップジャパン 代表取締役 友 田 善 隆
- (3) グループ討議「職員研修、明日からどうする」
- (4) グループ別発表
- (5) 総括講演「ホスピタリティー総点検 ―いま病院に求められているもの―」
需要開発研究所 所長 野 邊 牧
- (6) 「クアハウスとは何か」 石和温泉病院 事務長 斉 藤 正 夫
- (7) 「クアハウス石和」施設見学

6. 総 評

昨年度、庶務人事・労務各研究会で合同企画した新入職員研修のポイントを学ぶ“病院職員接遇研修”に対して、終了後参加病院から「他業種の方の講演だけではなく、グループ討議を盛り込み他病院の実際を聞きたかった。」「今度自病院で接遇研修を行いたいけど適切な講師を紹介してほしい。」等の声が事務局にあいつぎ寄せられた。

そのような声に応じて、患者サービス向上の観点から基調講演に始まり、グループ討議、総括講演、そしてNHKで紹介された会場であるクアハウスの体験というプログラムで“接遇研修の理論と実際”を学ぶ「第1回病院職員接遇セミナー」を企画した。

参加者は医師、看護婦、事務と多岐にわたり、特に初日夕食後のグループ討議では各病院で抱えている諸問題の実際が語られ、継続的な接遇研修の必要性が再認識させられた。

9. 放射線技師監督者セミナー

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 平成元年2月23日(木)～25日(土)

3. 開催地 熱海市・南熱海農林年金会館 松風苑

4. 参加者数 20施設 36名

5. 演 題

「良い指導者となるためには」

- (1) 「3分間スピーチ」
- (2) 講演「医療人の心得」 三楽病院 放射線科部長 松 本 泰 二
- (3) 文化講演「科学と宗教への模索」 佼成病院健康管理相談室 室長 西 田 義 夫
- (4) 全体討議「リーダーシップ」
- (5) 全体討議「仕事の改善」

- (6) 全体討議「部下の育成」
- (7) 事例研究
- (8) 「事例発表・フリートーキング」
- (9) 「5分間感想文」

6. 総 評

夜を徹して現場技師が抱えている諸問題についてQC手法を用いて問題解決の糸口を見つけたり、あるいは体験論を述べあう本セミナーも第18回目を迎え、延べ670名が修了証を受け取った。

今回は昨年度の反省点を念頭におき、全体討議を中心にプログラムを企画したこともあり、参加者が単に放射線部門の範囲にとどまらず病院経営全般について寝食を共にし本音で語り合う姿が会場のあちこちで見られた。

終了後、「短時間で多くのことを学び職場に帰って実務に活かしたい」「このようなセミナーを他に見たことがない。今後は継続して部下を派遣したい」等の声が参加者からあり、今後もこのような声に応えられるよう工夫改善に努めていきたい。

10. 臨床検査管理セミナー

- 1. 開催回数 1回
- 2. 開催期日 平成元年2月10日(金)、11日(土)
- 3. 開催地 熱海市・湯河原研修クラブ
- 4. 参加者数 25施設 30名
- 5. 演 題

- (1) 「業務管理」 一検査室における職務権限と部下の指導—

駿河台日大病院 技師長 佐藤和身

- (2) シンポジウム「臨床検査科(室)における経済的運営」

河北総合病院 技師長 小金沢宗雄

浜松赤十字病院 技師長 川越功

日本臨床検査業協会 総務企画室長 小坂祐造

横浜第一病院 検査部長 荒木千章

- (3) グループ討議「臨床検査科(室)における経済的運営」

- (4) 「医療廃棄物の現状と対策」 社会保険都南総合病院 検査部長 松本昭一郎

6. 総 評

今年度のセミナーは、「臨床検査科(室)における経済的運営」をメインテーマに講演2題とシンポジウム、グループ討議が2日間にわたり予定通り行われた。本セミナーの特徴の一つとして、グループ討議がある。それぞれの立場から問題提起をし、夜更けるまで本音で語り合うのである。参加者は今後の病院運営に多くの有益な示唆を与えられたものと思われる。今後も具体的な内容を伴ったセミナーとして運営していきたい。

第14 病院幹部医会

1. 総 会

- 1) 開催期日 平成元年 2月19日(日)
- 2) 会 場 川崎市・日本鋼管病院 会議室
- 3) 協議項目
 1. 昭和63年度事業報告及び収支決算見込みについて
 2. 平成元年度事業計画及び収支予算案について
 3. 役員改選について
 4. 会員拡大対策について
 5. 年間会費値上げについて (3,000円 → 5,000円)以上いずれも原案通り承認された。

2. 幹 事 会

- 1) 開催期日 平成元年 2月18日(土)
- 2) 会 場 川崎市・日本鋼管病院 会議室
- 3) 協議項目
 1. 総会について
 2. 新潟開催のセミナーについて

3. 常任幹事会

- 1) 開催期日 昭和63年 7月 8日(金)
昭和63年11月10日(木)
- 2) 会 場 (株)日本病院会 会議室
- 3) 協議項目
 1. 新居浜開催のセミナーについて
 2. 昭和63年度 第2回セミナーについて
 3. 新居浜開催セミナー結果報告
 4. 昭和64年度(平成元年度)計画について

第15 海外視察研究会

1. 国際病院連盟地域会議・第4回インドネシア病院協会会議、国際病院展示会（EXPO）

- ① 訪問地 ジャカルタ、ジョクジャカルタ、ソロ、デンパサール（バリ島）
- ② 期間 1988年6月18日(土)～6月26日(日) 10日間
- ③ コーディネーター 高橋勝三（武蔵野赤十字病院）
- ④ 参加者数 3施設 3名（コーディネーターを含む）

2. 第7回米国診療録管理業務視察旅行

- ① 訪問地 スタンフォード大学病院、サンフランシスコ聖ルカ、メーヨクリニック、ロチェスターメソディスト病院、ニューヨーク大学病院、ベルビュー病院
- ② 期間 1988年6月28日(火)～7月7日(木) 10日間
- ③ コーディネーター 高橋 政祺（杏林大学教授）
- ④ 参加者数 23施設 38名（コーディネーターを含む）

3. 中国黒龍江省招待による「中国・東北地方および北京視察訪問ツアー」

- ① 期間 9月8日(木)～9月18日(日) 11日間
- ② 訪問都市 大連、長春、ハルビン、北京
- ③ 参加者 団長 有澤 源蔵（日病副会長、有澤総合病院理事長）
副団長 竹内 正也（全自病協常務理事）
団員 岡本 隆一（岡本病院理事長、京都）
小田 博（市立岡崎病院長、愛知）
島田 淳（新城市民病院長、愛知）
角岡 秀彦（豊川市民病院長、愛知）
高橋 勝三（武蔵野赤十字病院副院長、東京）
長野 博（聖路加国際病院副院長、東京）
中村 宗平（西尾市民病院長、愛知）
高橋彦太郎（日病事務局長） 以上 10名
- ④ 日程と行程 9月8日(木) 成田発10:35。大連午後着、市内見物。
9月9日(金) 午前中、大連市内見学。午後、大連医学院訪問。
9月10日(土) 午後、大連医学院第2附属病院訪問。夜、長春へ移動。
9月11日(日) 午後、白求恩医科大学訪問。
夕方、吉林省人民政府主催レセプションに招待される。

- 9月12日(月) 午前中、省立医学院訪問。午後、ハルピンへ。
夕方、銀河賓館ホテルにて黒龍江省主催レセプションに招待される。
- 9月13日(火) 午前中、老幹部活動中心、省立病院、ハルピン医科大学、ハルピン医科大学第3附属病院にて各団員が講演。午後、中日友誼病院を敬訪問。省医院主催レセプションに招待される。
- 9月14日(水) ハルピン市見学。北京に向かう。
- 9月15日(木) 午前中、中日友好病院訪問。午後、北京医学病院訪問。
- 9月16日(金) 明十三陵と万里の長城訪問。
夕方、黒龍江省衛生庁主催お別れパーティ。
- 9月17日(土) 故宮訪問。午後、北京有誼商店視察。
- 9月18日(日) 午前中、北海公園経由にて北京空港へ。午後、帰国。

- ⑤ 今回の日本病院会訪中実施は、中国黒龍江省と諸橋先生が会長でもある全国自治体病院協議会の昭和55年以來の友好関係より実現した。

日本病院会は、国際病院連盟、アジア病院連盟各A会員に加盟し、それぞれ国際親善を活発に推進しているが、中国の医療の実態をみ、両国間の国際親善を一層深めるため、一昨年は小野肇理事一行、今年度は有澤団長を始めとする全10名の一団が黒龍江省招待となった。今後、日本病院会は両国のために努力をおしまず交流の実をあげたい。

4. 米国老人医療視察研究会IHFフィールド・スタディ・フロリダ

- ① 訪問地 マイアミ、HCA本社（ナッシュビル）ホノルル
- ② 期間 1989年2月9日(木)～2月22日(水) 14日間
- ③ コーディネーター 高橋淑郎（杏林大学教授）
- ④ 参加者数 19施設 31名（コーディネーターを含む）
- ⑤ 本年も内容の充実をはかるよう努めた。日本病院会オリジナル・ツアーの認識に立ち参加者の要望に充分応えるものと確信している。反省点として、ツアー人数調整のため学生から専門家まで1グループとしたことに無理があったことなどである。

第16 調 査 室

本年度は、全国公私病院連盟との合同調査である「病院運営実態分析調査」の他に昨年実施した「病院部門別原価計算調査」の集計がまとまり、それぞれ「昭和63年度病院概況調査報告書」、「病院部門別原価計算調査報告」として発刊した。また、来年度は「病院運営実態分析調査」の調査項目、結果表等の見直しを行う予定である。

◎昭和63年 病院概況調査報告書

- ☆病 院 概 況（病院数・病床数・専用病床保有状況等）
- ☆患 者 状 況（入院一外来、救急、比率等）
- ☆設 備 状 況（ICU、CCU、未熟児室、人間ドック、医療機器、コンピュータ等）
- ☆職 員 数（職種、病床規模、1病院当たり—100床当たり、開設者・常勤—非常勤別）
- ☆部門別業務量（診療・薬剤・放射線・検査・給食・事務）
- ☆外注委託状況（寝具・清掃・給食・検査等）
- ☆そ の 他（基準看護、救急告示、手術件数、冷暖房、敷地—建物面積、剖検率・病床利用率・平均在院日数等）

◎病院部門別原価計算調査報告

1. 病院部門別原価計算の概要（調査方法、要旨と分析）
2. 100床当たり原価・収益
3. 業務量単位当たり原価・収益
4. 収益1,000円当たり原価・収益
5. 100床当たり職員数
6. 職員1人当たり業務量・収益・付加価値額
7. 100床当たり有形固定資産額
8. 診療行為別、患者1人1日当たり診療収入額
9. 病院別、収支1,000円当たり原価・収益
10. その他

合同調査委員会

1. 開催回数 3回
2. 出席者数 19名（延べ人員）
3. 協議項目
 - 1) 昭和64年度以降における病院運営実態分析調査の実施について
 - 2) 昭和62年10月病院部門別原価計算調査結果の概要報告

- 3) 昭和63年度版、病院概況、経営分析、経営実態以上3報告書の発行価格について
- 4) 病院部門別原価計算調査報告の価格について

4. 総 評

全国公私病院連盟からの申し入れにより、昭和57年以降実施していた「病院運営実態分析調査」における「合同調査」は来年度以降「協力調査」として行うことになった。

また、調査項目等も来年度より一部見直しを行った。

第17 医療費対策

四病院団体連絡協議会

4月5日(火) 税制委員会 7名

1. 自民等税制調査会に対する、四病院団体の統一意見について

4月6日(水) 看護小委員会 7名

1. 基準看護制度における看護職員の比率の見直しについて

4月13日(水) 税制委員会 7名

1. 村山達雄事務所秘書、高橋道氏との税制問題に関する意見交換

4月15日(金) 給食委託研究会 7名

1. 病院給食関係の公益法人の設立について

4月21日(木) 総合部会 10名

1. 税制について
2. 診療報酬改定の影響について
3. 看護制度について
4. 週休2日制について
5. 地域医療計画について
6. 老人保健施設について

5月12日(木) 看護小委員会 4名

1. 基準看護制度における看護職員数の比率の見直しについて
2. 看護婦に関する要望書の再検討について

5月24日(火) 総合部会 6名

1. 診療報酬改定に伴う影響度調査について
2. 週休二日制等に関する意見について
3. 看護婦の増員に関する要望について
4. 医療廃棄物処理対策調査会委員の推薦について

6月16日(木) 看護小委員会 10名

1. 看護職員確保対策について

6月17日(金) 医療経済委員会 7名

1. 診療報酬改訂にかかる問題点について
2. 四週六休実施のための医療費改訂について

6月20日(日) 総合部会 10名

1. 今回の診療報酬改訂に関する問題点について

2. 看護職員の確保について

- ① 日本看護協会との懇談会報告
- ② 四週六休実施のための医療費改訂についての要望

3. 新型間接税等税制改革について

7月20日(水) 看護小委員会 7名

1. 看護制度について

7月21日(木) 総合部会 14名

1. 税制改正についての情報交換について
2. 看護制度について
3. 四週六休体制についての要望書提出について
4. 医療費改訂に対する意見と今後の展望
5. 看護夜勤体制の調査

8月11日(木) 給食委託研究会 11名

1. 病院給食委託研究会の今後の進め方について

8月12日(金) 総合部会 9名

1. 今回の診療報酬改訂に対する意見と今後の要望について
2. 2年後を目途に行われる医療法改正および老人保健制度の見直しについて
3. 税制改正について
4. 病院外来のあり方について
5. 病院大会について
6. 保健医療カードシステム報告

8月22日(月) 看護小委員会 10名

1. 基準看護制度における看護職員数の比率の見直しについて

9月8日(水) 給食委託研究会 7名

1. 厚生省に対する要望書について

9月22日(木) 医療制度委員会 5名

1. 第2次医療法改正について
2. 昭和63年度医療監視について

9月26日(月) 総合部会、税制委員会合同会議

1. 第2次医療法改正について
2. 昭和63年度医療監視について
3. 昭和64年度税制改正要望について

- 10月6日(木) 給食委託研究会 7名
1. 日本メディカル給食協会・評価認定委員会の運営等について
- 10月27日(木) 医療制度委員会 12名
1. 第2次医療法改正について
- 10月28日(金) 総合部会 7名
1. 第2次医療法改正について
 2. 消費税について
 3. 昭和63年度医療監視について
- 11月24日(木) 医療制度委員会 8名
1. 医療監視について
 2. 第2次医療法改正について
- 11月25日(金) 総合部会 14名
1. 医療機能効率化指導要領について
 2. 第2次医療法改正対策について
 3. 消費税対策について
- 12月9日(金) 給食委託委員会 9名
1. 評価認定委員会の構成について
- 12月16日(金) 医療制度委員会 10名
1. 管理栄養士の必置基準の設定について
 2. 第2次医療法改正について
 3. 医療機能効率化指導要領(案)について
- 12月23日(金) 総合部会 11名
1. 税制問題について
 2. 診療報酬の改正等について
 3. 当面する医療法・老健法改正の諸問題
 4. 長寿社会推進対策諸問題
 5. キセノンガスについて
 6. 脳卒中リハビリテーションについて
 7. 管理栄養士の必置基準の設定について
- 1月20日(金) 医療制度委員会 9名
1. 第2次医療法改正の動きについて
 2. 医療機能効率化指導に対する四病団の意見について

1月31日(火) 総合部会、医療制度委員会、医療経済委員会、看護小委員会、合同会議 27名

1. 消費税について
2. 各委員会からの報告および来年度の活動方針について
3. 老人保健施設実施（転床）に対する提言について
4. 向精神薬について

2月8日(水) 税制委員会

1. 消費税に関する質問事項について

2月17日(金) 医療制度委員会 9名

1. 第2次医療法改正について
2. 医療機能効率化について

2月20日(月) 総合部会 9名

1. 第2次医療法改正について
2. 消費税について
3. 看護婦需給計画と看護婦等養成所のカリキュラムの変更について

3月22日(水) 医療制度委員会 7名

1. 第2次医療法改正問題について
2. 医療機能効率化指導について

3月22日(水) 総合部会 11名

1. 第2次医療法改正について
2. 消費税の内容検討
3. 医療機能効率化指導について

第 18 第38回日本病院学会

1. 学 会 長 諸橋 芳夫 (国保旭中央病院 院長)

2. テ ー マ 激動をのり越えて進もう

3. 開催期日 昭和63年 6 月22日(火)~23日(水)

4. 開催地 千葉県・千葉市

5. 会 場 千葉県文化会館

6. 演 題

(1) 学会長講演 1 題

「医療の変遷と病院の対応」 (株)日本病院会会長・国保旭中央病院 院長 諸 橋 芳 夫

(2) 特別講演 2 題

「千葉県の医療と福祉」 千葉県 副知事 中 野 晟

「三髄五臓六腑」 千葉大学 学長 井 出 源四郎

(3) シンポジウム 2 題

「病院医療の向上を目指して」

司 会 (株)日本病院会常任理事・医療法人大道会 理事長 大 道 學

シンポジスト

(株)日本病院会常任理事・茨城県厚生連土浦協同病院 院長 登 内 真

“ 国保旭中央病院 看護部長 石 川 咲 子

“ 医療法人愛仁会本部 事務局長 下 間 幸 雄

“ 東京衛生病院 栄養科長 米 山 貞 治

“ 聖マリアンナ医科大学東横病院 検査課長 天 川 勉

「中小病院の生きる道」

司 会 (株)日本病院会常任理事・西能病院 理事長 西 能 正一郎

シンポジスト (株)日本病院会参与・河北総合病院 理事長 河 北 博 文

“ (株)日本病院会理事・はりま病院 院長 荒 尾 素 次

“ (株)日本病院会中小病院委員会委員・社会医療研究所 所長 岡 田 玲一郎

“ (株)日本病院会代議員・牧病院 院長 牧 安 孝

“ (株)日本病院会理事・聖路加国際病院 院長 牧 野 永 城

(4) パネルディスカッション 1題

「この激動を如何に乗り越えるか」

司会	(社)日本病院会常任理事・水戸済生会総合病院 院長	丹野清喜
パネリスト	(社)日本病院会参与・NHK解説委員	行天良雄
〃	(社)日本病院会常任理事・聖隷浜松病院 院長	中山耕作
〃	厚生省病院管理研究所 医療管理部長	岩崎 栄
〃	(社)日本病院会情報センター委員会委員・自治医科大学 教授	一条勝夫

(5) 部門教育講演 6題

①看護管理部門 「看護の役割」	千葉大学 看護学部長	吉武香代子
②栄養管理部門 「将来の病院給食のあり方」	千葉大学医学部附属病院医事課 栄養係長	鈴木啓二
③薬事管理部門 「病院の中の薬学」	慶應義塾大学病院 薬剤部長	田村善藏
④事務管理部門 「病院運営管理のウィークポイント」	虎の門病院 事務部長	黒田幸男
⑤臨床検査管理部門 「臨床検査の現状と今後の動向」	駿河台日大病院臨床検査部 技術長	佐藤和身
⑥放射線部門 「放射線研究会におけるQC・TA活動」	聖路加国際病院放射線科 技師長	大内周信

(6) 一般演題 196題

7. 医療人の集い (ホテルニューツカモト)

8. 併設集会 (自由参加)

「中小病院のひろば」(日本病院会中小病院委員会主催)

9. 併設写真展

「中国大陸視察写真展」(小野 肇)

10. 併設カルチャーコース

千葉県内病院、施設見学と観光

11. 参加者 延べ6,000名

12. プログラム (別掲)

第38回日本病院学会日程

学会テーマ：激動をのり越えて進もう

会場		9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7		
6月21日	日病	ホテル ニューツカモト				日病会長・副会長会議		日病合同理事会		日病・県支部合同懇談会				
会場		9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7		
第1日 6月22日 (水)	日病	特別会議室				評議員会							移動 (バス)	医療人の集い (ホテルニューツカモト)
	千葉 県 文 化 会 館	第1会場 収容 1,400人	受付	開会式	特別講演 千葉県の医療と 福祉 中野 風 司会 諸権学会長	シンポジウム 病院医療の向上を目指して 司会 大道 学	アトラクション	看護管理 部門教育講演	一般演題 看護部門 (No.1~26)					
		第2会場 収容 400人					休憩	一般演題 病院施設管理 (No.27~31) 病院建築 (No.46~49) 情報管理 (No.32~36) 老人医療・福祉 (No.50~55) 病院経営 (No.37~45)						
		第3会場 収容 150人						一般演題 検査部門 (No.56~58) 公衆衛生活動 (No.59~67) 給食部門 (No.68~80)	栄養・管理 部門教育講演					
		第4会場 収容 60人						一般演題 病歴管理 (No.81~84) リハビリ (No. 95~101) 医師部門 (No.85~89) 看護学校 (No.102~104) 救急医療 (No.90~94)						
		第5会場 収容 150人						薬事管理 部門教育講演	一般演題 薬剤部門 (No.105~117) 看護部門 (No.118~130)					
	ロビー	小野 肇 先生				『中国大陸視察写真展』								
第2日 6月23日 (木)	千葉 県 文 化 会 館	第1会場 収容 1,400人	一般演題 看護部門 (No.131~140)	シンポジウム 中小病院の生きる道 司会 西能正一郎		アトラクション	学会長 講演	学会 総会	特別講演 三題五臓六腑 井出源四郎 司会 柏戸副学会長	パネルディスカッション この激動を如何に乗り越えるか 司会 丹野清喜	閉会式	中小病院のひろば (自由参加) 第2会場 (6:00~9:00)		
第2会場 収容 400人		事務管理 部門教育講演	一般演題 事務管理 (No.141~155)		休憩	「医療の変遷と病院の対応」 司会 徳坂副学会長								
第3会場 収容 150人		一般演題 検査部門 (No.156~168)	臨床検査管理 部門教育講演											
第4会場 収容 60人		一般演題 地域医療 (No.169~176) 教育・研修 (No.177~184)												
第5会場 収容 150人		放射線 部門教育講演	一般演題 放射線部門 (No.185~196)											
ロビー	小野 肇 先生					『中国大陸視察写真展』								
第3日 6月24日 (金)	カルチャーコース					(施設見学・観光)								

第19 第29回日本人間ドック学会

1. 学会長 依田 忠雄（岡山赤十字病院 院長）

2. 開催期日 昭和63年8月25日(木)～26日(金)

3. 開催地 岡山県・岡山市

4. 会場 岡山プラザホテル

5. 演題

(1) 特別講演 1題

「人間ドックの刷新を目指しての提言」 聖路加看護大学 学長 日野原 重 明

(2) 招待講演 1題

「医療行政における健康診断と将来像」 厚生省大臣官房政策課 企画官 高 原 亮 治

(3) シンポジウム 1題

「人間ドックにおける糖尿病の診断と指導」

司 会 岡山大学保健管理センター 山 吹 隆 寛

〃 東京警察病院 鈴 木 豊 明

① 「糖尿病の診断基準をめぐる諸問題」 広島原爆被爆者健康管理所 伊 藤 千 賀 子

② 「人間ドックにおける糖尿病診断方法の現況」 牧田総合病院 笹 森 典 雄

③ 「空腹時血糖とグリコヘモグロビンによる糖尿病スクリーニングの問題点」

静岡健康管理センター 加瀬沢 信彦

④ 「糖負荷試験に影響する諸因子と人間ドックにおける問題点」

糸島郡医師会病院附属動脈硬化代謝研究所 山 崎 晴 一 郎

⑤ 「境界型糖尿病の予後」 大阪府立母子保健総合医療センター 佐々木 陽

⑥ 「食事と運動指導のあり方」 岡山大学医学部第一内科 岡 崎 悟

(4) パネルディスカッション 1題

「肺癌を見逃さないために」

司 会 結核予防会岡山診療所 守 谷 欣 明

〃 聖路加国際病院 安 藤 幸 夫

① 「呼吸器疾患の疫学」—肺癌の動向を中心に—

名古屋大学医学部予防医学 青 木 國 雄

② 「人間ドックにおける肺癌検診の現況」 岡山赤十字病院 渡 辺 洋 一

- | | | |
|----------------------------|------------|------|
| ③ 「胸部X線撮影と診断の問題点」 | 神戸赤十字病院 | 中田康則 |
| ④ 「肺癌検診における喀痰細胞診の意義」 | 東北大学抗酸菌研究所 | 斎藤泰紀 |
| ⑤ 「肺癌の肺機能」 — とくに肺拡散能力の意義 — | 広島大学医学部 | 平本雄彦 |
| ⑥ 「腫瘍マーカーの選択とその解釈」 | 国立がんセンター | 西條長宏 |

(5) Luncheon lecture 2題

「膵疾患に関する最近の知見」 — とくに慢性膵炎と膵癌を中心に —

岡山大学医学部環境病態研究施設成人病学分野 原田英雄

「人間ドックと臨床検査成績の評価」 神戸大学医学部 馬場茂明

(6) 臨床予防医学委員会報告

「昭和62年人間ドック・自動化健診全国集計成績」 牧田総合病院 笹森典雄

(7) ミニワークショップ 2題

① 「フルクトサミン測定の意味」 発表演題数 9題

② 「下部消化管検査」 発表演題数 8題

(8) 一般演題 152題

6. 参加者 1,000名（登録参加）

7. 併設日病指定人間ドック並びに自動化健診実施施設長・担当者会議

8. 併設一般市民向け教育講座（学会前日開催）

「健康の自己管理と病気の予防」 — 癌を中心に —

① 「乳癌の自己検診」 岡山赤十字病院 佐藤泰雄

② 「肺癌の予防と早期発見のために」 岡山赤十字病院 平木俊吉

③ 「消化器癌の初発症状と検査について」 岡山赤十字病院 鶴見哲也

9. 併設健康フェスティバル

名称：燃えろ岡山健康フェスティバル

10. プログラム（別掲）

日 程 表

■ 第1日（8月25日 木曜日）

時 間	第一会場 5 階 延養の間	第二会場 4 階 鶴鳴の間A	第三会場 4 階 鶴鳴の間B	第四会場 4 階 鶴鳴の間C	第五会場 4 階 鳥城の間A	4 階 鳥城の間B
8時	30分 開場					
9時	45分 開会式 特別講演 人間ドックの刷新 を目指しての挑戦 日野原 重明					
10時	10分 ミニワーク ショップⅠ	一般演題 脂質代謝Ⅰ 10～14	一般演題 循環器Ⅰ 23～26	一般演題 喫煙 36～39	一般演題 肝Ⅰ 49～53	
11時	フルクトサミン 測定の意味 1～9	脂質代謝Ⅱ 15～18 脂質代謝Ⅲ、他 19～22	循環器Ⅱ 27～30 循環器Ⅲ 31～35	肺癌、他 40～43 運 動 44～48	肝Ⅱ 54～57 肝Ⅲ、他 58～61	
12時	10分 Luncheon lecture 1 糖尿病に関する 最近の知見 原田 英雄				12時	評議員会
13時	10分				13時	
14時	30分 学会総会					
15時	招待講演 医療行政における 糖尿病診断と将来像 高原 英治					
16時	パネル ディスカッション 肺癌を見逃さない ために					
17時	30分					
18時						
19時		懇 親 会				
20時						

■ 第2日（8月26日 金曜日）

時 間	第一会場 5 階 延養の間	第二会場 4 階 鶴鳴の間A	第三会場 4 階 鶴鳴の間B	第四会場 4 階 鶴鳴の間C	第五会場 4 階 鳥城の間A	4 階 鳥城の間
8時	30分					
9時	一般演題 便潜血反応 62～67 癌 68～73	一般演題 健診システム 82～86 検査成績 87～92	一般演題 上部消化管検査 105～110 腹部エコーⅠ 111～116	一般演題 肥 満 129～134 糖 尿 病 135～140	一般演題 糖尿病と甲状腺 141～146	
10時	15分 ミニワーク ショップⅡ 下部消化管検査 74～81	検査成績、他 93～98 指 導 99～104	腹部エコーⅡ 117～122 腹部エコーⅢ 123～128	代 謝 147～152		
11時						
12時	Luncheon lecture 2 人間ドックと臨床 検査成績の評価 鳥城 茂明					12時 ドック施設長 担当者会
13時	10分 臨床予防医学 委員会報告 糖尿病と人間ドック： 最新化診断と最新検査 原田 英雄					13時
14時	40分 シンポジウム					
15時	人間ドックにおけ る糖尿病の診断と 指導					
16時	10分 閉会式	30分				

第 20 第14回日本診療録管理学会

1. 学 会 長 桜井 健司（東京慈恵会医科大学 教授）

2. 開 催 期 日 昭和63年10月20日(木)・21日(金)

3. 開 催 地 東京都・千代田区

4. 会 場 国立教育会館

5. 演 題

(1) 学会長講演 1題

「入院期間を考える」1日目午後

学会長	東京慈恵会医科大学第一外科 教授	桜井 健司
司 会	新潟市民病院 副院長	木村 明

(2) 特別講演 3題

「求められる生涯教育」1日目午前

講 師	東京慈恵会医科大学 学長	阿部 正和
司 会	藤田学園保健衛生大学医用電子学 教授	岡島 光治

「I. C. D. WHO の試案」1日目午後

講 師	厚生省大臣官房統計情報部管理企画課 疾病傷害死因分類調査室長	田中 義枝
司 会	名古屋大学医学部附属病院カルテ部	山内 一信

「歴史にみる女の生き方」2日目午後

講 師	作 家	安西 篤子
司 会	聖路加国際病院 顧問	野辺地 篤郎

(3) シンポジウム

I. 「大学附属病院における診療録管理の問題点」

座 長	東京大学医学部附属病院 中央医療情報部	開原 成允
-----	---------------------	-------

1. 大学病院の病歴管理の過去と現状	山形大学病院 内科	安井 昭二
--------------------	-----------	-------

2. これからの診療録管理……10年の経験を基にして	千葉大学医学部附属病院 医療情報部	里村 洋一
----------------------------	-------------------	-------

3. 大学病院における診療録管理の問題点	慶應義塾大学医学部附属病院 管理学教室	池上 直巳
----------------------	---------------------	-------

4.	東京大学医学部附属病院における診療録管理の現状と将来	東京大学医学部附属病院 中央医療情報部	渡邊 亮一
5.	新潟大学病院における診療録中央管理	新潟大学医学部附属病院 病歴部	松井 一光
6.	岡山大学病院における診療録中央管理の現状と問題点	岡山大学病院医療情報部 副部長	小林 清央
7.	インテリジェント・ホスピタル構想と診療録管理	大阪大学医学部附属病院 医療情報部	武田 裕
(4)	指定課題 「大学附属病院における診療録管理の問題点」		
	座長 杏林大学医学部附属病院 病院管理学 教授		高橋 政祺
指-1	大学病院で外来カルテの中央化を困難にしている理由	杏林大学医学部病院 病院管理学教室	高橋 政祺
指-2	大学病院における POMR 実施の問題点	川崎医科大学公衆衛生学	中島 行正
指-3	山形大学医学部附属病院における診療録、X線フィルムの集中管理の問題点	山形大学医学部附属病院 診療記録部	鈴木 駿一
指-4	筑波大学附属病院における診療録管理の問題点	筑波大学附属病院 病歴部	高田 彰
指-5	大学附属病院における診療録管理の問題点	名古屋大学医学部附属病院 カルテ部	山内 一信
(5)	一般演題 (33題)		
	一般演題 I (1~3) 「診療録管理スペース」		
	座長 東邦大学医学部附属大森病院		継 行 男
I-1	カルテ廃棄時の事務処理上の問題点	小倉記念病院 診療録管理室	三宅 裕子
I-2	福岡大学病院に於ける古い診療録の利用状況 その2	福岡大学医学部附属病院 病歴室	平木 修
I-3	フィルム管理とマイクロ化について	富山市民病院 中央病歴室	山地 正三
	一般演題 II (4~7) 教 育		
	座長 駒澤短期大学		本間 襄
II-1	診療録情報管理コースとその教育	国際医療管理専門学校	橋本 龍清
II-2	POS による看護記録記載の教育	川崎医療短期大学第一看護科	中西 啓子

- II-3 チーム医療における栄養 ROMR の実際
川崎医科大学附属病院 栄養給食部 河原和枝
- II-4 医療研究者のための SAS 対話型利用の一工夫
九州大学医学部附属病院 医療情報部 赤澤宏平
- 一般演題 III (8~10) コンピュータ
- 座長 関東通信病院 附属医用情報研究所 三宅浩之
- III-1 病院管理システムの導入・経過について
熊本医師会熊本地域医療センター 病歴室 松永宏二
- III-2 診療録管理の OA 化におけるパーソナルコンピューターとオフィスコンピューターの比較検討
東邦大学医学部附属大森病院診療録管理センター 増田順子
- III-3 病歴業務へのコンピューター利用の現状—— 端末導入について——
岡山赤十字病院 医療資料室 難波淳子
- 一般演題 IV (11~15) コーディング・病名
- 座長 宮城県立成人病センター 吉田弘一
- IV-1 自然語処理による ICD-9、SNOP、SNOMED 自動コーディングシステム
千葉大学医学部附属病院 医療情報部 里村洋一
- IV-2 拡充された外来病名検索システムと病名管理の将来の問題点
東海大学医学部 医学情報部 馬淵米子
- IV-3 病院外来診療における病名登録・管理の実施とその問題点
新潟市民病院 診療情報部病歴室 若杉美恵子
- IV-4 「レセプト傷病名」の検討 川崎医科大学附属病院 医学資料部 中島行正
- IV-5 当教室におけるデータベースコード化の問題点
東京慈恵会医科大学 第一外科教室 山田智津子
- 一般演題 V (16~18) 診療録管理のシステムの問題点
- 座長 北町病院 青木禮和
- V-1 慈恵医大柏病院におけるカルテ自動検索搬送システム
東京慈恵会医科大学附属柏病院 医療情報課 白田一雄
- V-2 パソコンを用いた臨床検査処理システムの開発
放射線影響研究所研究情報センター計算課 片山博昭
- V-3 投薬情報参照システム 京都大学医学部附属病院 病歴管理室 川中恵理
- 一般演題 VI (19~23) 統計
- 座長 産業医科大学病院 管理学教室 江川寛
- VI-1 在院期間からみた入院患者の特性 産業医科大学病院 病歴部 森静代

VI-2	過去16年間の高年齢層の入院患者の動向	中部労災病院 病歴室	毛利 文子
VI-3	パソコン導入による統計業務について	杏林大学医学部附属病院 病歴室	小泉 智子
VI-4	死亡患者カルテの利用頻度調査について	北里大学医学部附属病院 病歴センター部	中山 康
VI-5	退院癌患者の統計処理について	東京都立駒込病院 病歴室	岡部 雅明
一般演題 VII (24~26) 診療録管理の諸問題 その1			
	座長	北里大学病院 病歴センター部	伊藤 雄次
VII-1	一医局内における診療録管理の問題点	いわき市立総合病院磐城共立病院 病歴室	金子 道江
VII-2	これからの医療情報システムの在り方	北九州市立小倉病院	松田 順之介
VII-3	当院における一患者一診療録の検討について	北九州市立小倉病院	寺延 美恵子
一般演題 VIII (27~29) 診療録管理の諸問題 その2			
	座長	山形大学医学部泌尿器科学講座	鈴木 駿一
VIII-1	リスク・マネジメント—病歴室における危険管理—	杏林大学医学部 病院管理学教室	高橋 淑郎
VIII-2	医学情報センターとしての診療録管理室	北九州総合病院 診療録管理室	亀谷 和代
VIII-3	病院情報の構造分析に関する研究	大阪大学医療技術短期大学部	長谷川 利典
一般演題 IX (30~33) 診療録管理の諸問題 その3			
	座長	川崎医科大学 資料部	中島 行正
IX-1	オーダーリングシステム情報を活用した退院時サマリー作成支援システムの効果	静岡県立総合病院 診療録保管室	萩原 綾子
IX-2	退院時要約の医療の質の評価への活用	日本大学医学部病院 管理学教室	梅里 良正
IX-3	北海道診療録管理研究会5年間の活動を顧みて	市立江別総合病院 病歴室	倉部 直子
IX-4	診療情報の守秘業務と開示条件に関する専門職の意識	藤田学園保健衛生大学医用電子	中澤 明子

5. 参加者 800名 (登録参加)

日 程 表

第1日(10月20日 木曜日)

第2日(10月21日 金曜日)

8:30 受付開始

8:30 受付開始

9:00 開 会

9:05	一般演題Ⅰ(1~3) 診療録管理のスペース
9:41	一般演題Ⅱ(1~4) 教 育
10:35	一般演題Ⅲ(1~3) コ ン ピ ュ ー タ
11:30	特別講演 求められる生涯教育
12:00	昼 食 休 憩
13:00	学 会 総 会
13:30	会長講演 入院期間を考える
14:00	特別講演 I.C.D., WHOの試案
14:30	
14:42	一般演題Ⅳ(5~5) コーデイング・病名
15:42	一般演題Ⅴ(1~4) 診療録管理のシステム
16:30	一般演題Ⅵ(1~5) 統 計
17:30	ア ト ラ ク シ ョ ン お は や し
18:00	
18:30	懇 親 会 霞ヶ関東京会館35階 ゴールドスタールーム

9:00	指定課題 大学附属病院における 診療録管理の問題点
10:00	シンポジウム 大学附属病院における 診療録管理の問題点
11:30	特別講演 歴史にみる女の生き方
12:00	昼 食 休 憩
13:00	一般演題Ⅶ(1~3) 診療録管理の諸問題 その 1
13:36	一般演題Ⅷ(1~3) 診療録管理の諸問題 その 2
14:12	一般演題Ⅸ(1~4) 診療録管理の諸問題 そ の 3

14:50 閉 会

併設展示

第1日9:00-17:00

第2日9:00-15:00

日本診療録管理学会会則改正について

1. 日本診療録管理学会会則改正について

昭和63年10月19日の日本診療録管理学会評議会で継続審議となった日本診療録管理学会会則改正について各評議員から文書審査による賛否表決の結果、評議員の過半数の賛成を得て可決された。
会則改定は平成元年2月14日とする。

2. 日本診療録管理学会評議員再任について

現評議員数 69名 承諾 64名 辞退 5 未回答 0

3. 日本診療録管理学会理事選定について

理事（順不同敬称略）

岡島 光治、木村 明、桜井 健司、栗田 静枝、
中島 行正、高橋 政禎、竹本 吉夫

以上文書審査の結果評議員の大多数の賛成を得て可決された。

4. 日本診療録管理学会理事長の互選について

理事長 竹本 吉夫 日本病院会副会長

以上文書審査の結果理事の大多数の賛成を得て可決された。

第21 '88国際モダンホスピタルショウ開催概要

1. 開催要綱

(1)テーマ：明日の医療を拓く

(2)会期：昭和63年6月23日(木)～25日(土)

午前10時～午後6時（最終日のみ午後5時）

(3)会場：東京・池袋サンシャインシティ文化会館2階・3階・4階

<会場面積 7,700 m²>

（東京都豊島区東池袋3-1-4）

(4)主催：社団法人 日本病院会

社団法人 日本経営協会

(5)後援：厚生省 外務省 通商産業省 郵政省 消防庁 東京都 日本貿易振興会

（助）製品輸入促進協会 （社）日本医師会 （社）日本歯科医師会 （社）日本薬剤師会

（社）日本看護協会 （助）医療情報システム開発センター （助）日本医薬情報センター

（助）医療機器センター （社）全国自治体病院協議会 （社）全日本病院協会

（社）日本精神病院協会 （社）日本医療法人協会 全国公私病院連盟

（社）日本病院薬剤師会 （社）日本栄養士会 （社）日本放射線技師会

（社）日本臨床衛生検査技師会 （社）日本理学療法士協会 （社）日本作業療法士協会

（社）全国病院理学療法協会 （社）東京都臨床衛生検査技師会 出展各国大使館

（順不同）

(6)協賛：全国社会福祉協議会 （社）日本エムイー学会 （社）日本放射線機器工業会

（社）日本電子機械工業会 日本薬科機器協会 日本医科器械商工団体連合会

日本医用機器工業会 日本医療用プラスチック協会 日本人工臓器工業協会

日本理学療法器材工業会 日本医用光学機器工業会 日本分析機器工業会

（社）日本衛生検査所協会 （社）日本衛生材料工業連合会 （助）日本医療食協会

（社）日本健康治療機器工業会 （社）日本病院寝具協会 （社）日本病院建築協会

（社）全国消防機器協会 医事コンピュータ協議会 （社）東京都医療社会事業協会

（順不同）

(7)展示内容：展示部門

① 環境・設備関係

② 医療機器関係

③ 医療材料関係

④ 医療情報システム・事務機器関係

⑤ ホームケア・リハビリテーション関係

⑥ 患者サービス関係

⑦ 人材教育・その他

特別企画事業

① ホームケア部門

テーマ：「退院後の快適な生活をめざして」

② 医療情報部門

テーマ：「院内コミュニケーションによる快適な病院づくり」

③ 医療機器部門

・会場を病院としてシステム的にとらえ各関連製品ごとに複数の会社より各部門別の展示をした。

研究会・シンポジウム

① 研究会

(1) 会計・経理研究会

(2) 栄養管理・調理合同研究会

(3) 庶務人事・労務合同研究会

(4) ハウスキーピング研究会

(5) 放射線研究会

② セミナー

(1) ME機器セミナー

(2) 病院情報センターセミナー

(3) 看護婦コミュニケーションセミナー

③ シンポジウム

(1) 在宅ケアとリハビリテーションシンポジウム

(2) 在宅医療と訪問看護シンポジウム

2. 展示規模

161社 / 7,700㎡ 海外7カ国

3. 来場者数

総入場者数：44,920名（昨年43,140名）

※団体見学（医療専門学校）21校 1,518名（昨年21校 1,832名）

第22 '88ヘルス展

1. 名 称：'88ヘルス展
2. 会 期：昭和63年11月29日(火)～12月1日(木)
3. 会 場：都立産業貿易センター 4階
(東京都港区海岸1-7-8)
4. 講演会場：都立産業貿易センター 4階(ヘルス展会場内)
(東京都港区海岸1-7-8)
5. 主 催：社団法人 日本病院会
社団法人 日本経営協会
6. テー マ：バイタリティあふれる熟年を迎えるために
～リフレッシュライフの工夫～
7. 後 援：厚生省・農林水産省・労働省・東京都・特別区長会
(社)東京都医師会・日本貿易振興会
8. 協 賛：(社)日本医師会・(社)日本看護協会・(社)日本栄養士会・(財)保健会館
健康保険組合連合会・(財)日本レクリエーション協会・(社)日本健康治療機器工業会
(財)医療情報システム開発センター・(社)生命保険協会・(財)健康・体力づくり事業財団
(財)東京都予防医学協会・(財)余暇開発センター
(財)学校福祉協会・中央労働災害防止協会
9. 開催時間：午前10時～午後5時(最終日午後4時)
10. 入 場 料：無 料
11. 会場規模：約1,600㎡(会場面積)
12. 展示品目：(展示ゾーン)
 - (1) 食品コーナー
 - ①自然食品 ②低カロリー食品 ③栄養補助食品 ④減塩食品 ⑤健康飲料
 - ⑥調味料 ⑦その他の健康食品
 - (2) 健康と情報コーナー
 - ①パソコンによる検診システム ②総合健康診断システム ③健康関連図書
 - (3) 体験コーナー
 - ①体力測定機器 ②マッサージ機器 ③トレーニング機器
 - (4) 施設コーナー
 - ①スポーツクラブ ②保養施設

- (5) リフレッシュコーナー
 - ①入浴剤 ②洗剤・石けん ③衛生器具 ④寝具用品
- (6) セルフチェックコーナー
 - ①血圧計 ②電子体温計 ③試験紙 ④血糖測定器
 - ⑤脈拍計 ⑥塩分測定器

13. 来場者数：7,173名

第23 日本病院会政治連盟会務報告

本年度も、昨年度に引き続き、日病理事会、代議員会、総会などを利用して、会務状況の説明報告、会員への要請などを行った。

- 4月2日(土) 小沢辰男衆議院議員が主宰する「厚生問題研究会」からの諸橋芳夫日病会長（政連参与）の参与就任の依頼に対し、全面的に協力することとした。
- 4月26日(火) 自民党国民生活局（高橋辰夫局長）に対し、診療報酬改定、税制問題等につき、日本病院会として改善の申し入れをした。これに対する支援を行った。
- 5月31日(火) 自民党社会部会（丹羽雄哉部会長）の税制問題への事情聴取の会に有澤源蔵副委員長（日病副会長）が出席、税制改善に対する要望を行った。
- 7月22日(金) 大浜方栄議員（参議院比例区）大蔵政務次官就任、諸橋日病会長、小野肇委員長それぞれの代表者名で祝電発信。
- 8月5日(金) 自民党全国組織委員会（森喜朗委員長）国民生活局（高橋辰夫局長）社会部会（丹羽雄哉部会長）の「64年度予算に対する要望聴取」に対し、診療報酬改定（4週6休の人件費補助）、看護婦養成への助成拡充、老人保険施設への助成等を骨子に日病として要望書提出について支援。
- 8月11日(木) 厚生省の長寿社会対策推進会議（委員長：吉原健二事務次官）が初会合。先の7月1日(金)に大臣官房に老人保健福祉部を設置したのを受けて、省全体としてこれをバックアップすることを目途とし、保健、医療、福祉の総合的推進を行うとしている。
- 8月16日(火) 厚生省坂本龍彦保険局長、岡光序治大臣官房審議官（医療保険担当）、谷修一保険局医療課長と日病幹部による懇談会への小野委員長同席、医療諸問題、4週6休への対応、老人保健、看護婦養成など、病院のかかえる諸問題につき、要望、懇談を行った。
- 8月21日(日) 常任幹事会（横浜・ホテルニューグランド）。昭和62年度収支決算承認。63年度収支見込承認。明年7月改選予定の参議院選挙への支援体制の要請を承認。
- 8月22日(月) 日本病院会顧問議員26氏に対して残暑見舞。議員会館等を訪問。
- 9月26日(月) 諸橋日病会長、小野政連委員長が同道で小沢事務所に日本病院会顧問議員団世話人代表の小沢辰男議員を訪問。看護特3類の許可問題（規定の緩和）と週休2日制についての財政的（サービスの質を落とさずの実現には、代替となるべき人、またそのための金など）考慮をされるべきであることなどを中心に要望。小沢議員は、医療について、技術料、人件費、物件費などに基本的な分類を行い、ベースアップをみる方向づけをすること、また週休2日制は病院においても行われるべきで、これらに対する研究を厚生問題研究会としても取り上げて検討していくこと等を約束された。

10月7日(金) 日本病院会顧問議員団朝食会(自民党本部)。当面の諸問題として、4月改定の診療報酬について、厚生省はトータルとして実質0.5%(医科0.7%)の引き上げと称しているが、現実の医療界特に病院においては軒並みにマイナス改定となっており、この早急な再改定を要望すること。四週六休制実施のための医療費改定、税制に関する問題等につき要望を行った。

当日は久しぶりの会議であり、日病側の見解に対して基本的に了解を示されたが、今後個々の問題について具体的に煮詰めた内容で提案をしてもらいたいとの議員側からの意見があり、日病として更に要求数値などを添えて陳情、要請を行うことになった。

日病側から提出した資料、参考資料は次の通り。

(提出資料)

- ① 診療報酬改定について
- ② 四週六休制実施のための医療費改定について要望
- ③ 税制に関する要望

(参考資料)

- ① アメリカの医療と日本の医療(諸橋芳夫)
- ② イギリスの医療と日本の医療(諸橋芳夫)

出席議員(順不同、敬称略)

(衆議院) 小沢辰男、稲垣実男、村山達雄、塩崎 潤、戸沢政方、林 義郎、戸井田三郎、塩川正十郎、高橋辰夫。

(参議院) 松浦 功、大浜方栄、遠藤政夫、降矢敬義、宮崎秀樹。

(代理出席) 自見庄三郎、丹羽雄哉、浜田卓二郎、愛知和男、佐藤 隆(以上衆議院)

日病側出席役員

(日 病) 会長・諸橋芳夫、副会長・有澤源蔵、竹本吉夫、常任理事・北村行彦。

(政治連盟) 委員長・小野 肇、副委員長・大道 學、西能正一郎、会計責任者・柏戸正英、平野一彌。

11月11日(金) 自民党医療基本問題調査会(戸井田三郎会長)、医療保険一本化について、党本部に北村常任幹事(日病常任理事)が出席、一本化に対し基本的に了承、賛意を表した。

11月21日(月) 社会保険診療報酬問題について、厚生省保険局幹部との懇談会(東京・ダイヤモンドホテル)。日病幹部とともに小野委員長が同席して診療報酬問題として、①出来高払制、機能別診療報酬体制について等を中心に懇談を行った。当日は、10月7日に日本病院会顧問議員団に提出した要望事項と、現在病院側として不適正、不合理とされる問題項目(26項目)を新たに提起した。看護特3類の承認要件については、今回の変更通知が一步前進したものとして評価したが、本会としては重症者看護特別加算の復活が必要であ

ることを引き続き要望した。診療報酬問題では、このほか、入院患者の緊急手術にともなう時間外加算問題、再入院にかかわる解釈の問題、特定治療材料の拡大、総合病院以外の病院における複数科受診の再診料請求、検体検査判断料と生体検査・画像診断における不合理などをあげて意見の交換を行った。また4週6休制実施にともない、質を落さない医療対応のためには人件費増は欠かせない、早急な医療費の改定が必要であることを説明、要望した。消費税が導入された場合の課税分の転嫁については多くの要素があり、厚生省では総合的に検討中であるとの答えであった。

病院の類型化、機能別診療体制については、急性・慢性の区分、病院・病棟の区分をふくめ、まだ割切ったものでなく、今後の問題であることが厚生省側の見解として述べられた。

また薬価基準未収載品目（検査薬キセノンガス）等については、厚生省として最終的な実態調査がまともでない段階であるが、意見の交換の中で、日病としては、ルール違反に対しては公私の別なく適正な処分があろうが、当局も関与するメーカー、協会に対する指導、また長期未収載は怠慢のそしりを免れないのではないか等当会の考えを伝えた。

当日の懇談会出席者は次の通り（敬称略）。

（厚生省）保険局長・坂本龍彦、審議官・岡光序治、医療課企画官・高原亮治。

（日病）会長・諸橋芳夫、副会長・若月俊一、有澤源蔵、常任理事・北村行彦、西能正一郎、大道 學

（政治連盟）委員長・小野 肇

12月8日(木) 政治連盟ニュース 第11号発刊

- 主な内容 ① 「診療報酬、週休制、税制問題など問題項目について要望——10月7日・顧問議員団と朝食会」
- ② 「顧問議員団に対する要望（1）診療報酬改定について（2）四週六休制実施のための医療費改定についての要望（3）税制に関する要望」
- ③ 「医療保険の一本化で自民党医療基本問題調査会開く——北村常任理事が出席、意見陳述」
- ④ 「日本病院会顧問議員団名簿」（63.10.1現在）
- ⑤ 「明年改選（参議院）4氏——万全の支援体制の確立を」
- ⑥ 「健全経営の実現を目指して——政治連盟委員長 小野 肇」

12月16日(金) 諸橋日病会長と小野委員長が同道、国会議員会館、小沢事務所など顧問議員団議員を訪問、各議員毎に歳暮の挨拶と懇談を行った。

平成元年

- 1月20日(金) 自民党の全国組織委員会（山村新治郎委員長）、国民生活局（高橋辰夫局長）、社会部会（丹羽雄哉部会長）による来年度予算に対する要望（重点要望事項）聴取が行われた（自民党本部）。日病として①診療報酬の改定 ②老人保健施設の拡充対応 ③看護婦養成助成の充実などを骨子として要望書を提出した。
- 1月23日(月) 小野委員長が小泉純一郎厚生大臣（神奈川2区選出）を訪問、当面の諸問題につき陳情ならびに意見の交換を行った。
- 1月23日 津島雄二議員が衆議院社会労働委員長に就任。粟山（もみやま）明議員が厚生政務次官に就任。愛知和男議員が宮城県知事候補にあげられる（後日辞退）。

国会議員激励等への協力状況

- 4月18日(月) 宏池会と語る会（東京プリンスホテル）
- 4月25日(月) 清水かよこを励ます会（東京郵便貯金ホール）
- 4月26日(火) 小里貞利君の政治活動30年を祝い激励する会（ホテルニューオータニ）
浜田卓二郎外務政務次官就任を祝う会（東京プリンスホテル）
- 5月9日(月) 厚生問題研究会懇親会（小沢辰夫議員、ホテルニューオータニ）
- 5月10日(火) 藤本孝雄君の在職25年を祝う会（東京プリンスホテル）
- 5月13日 地方の時代を考える（谷川寛三地方行政常任委員長、赤坂プリンスホテル）
熊川次男君を励ます会（東京プリンスホテル）
- 5月17日(火) あすの日本を創る会（丹羽雄哉議員、キャピトル東急）
- 5月18日(水) 畑英次郎君を励ます会（ホテルニューオータニ）
- 5月19日(木) 郵政大臣中山正暉君と語る夕べ（東京プリンスホテル）
- 5月23日(月) 衆議院議員故森 美秀氏葬儀（尾崎記念館）
- 6月8日(水) 戸井田三郎君激励の夕べ（ホテルニューオータニ）
- 6月17日(金) 沢竜会総会（小沢辰男議員、ホテルニューオータニ）
- 6月23日(木) 葉梨信行と語る会（赤坂プリンスホテル）
- 7月6日(水) 友納武人国政への新たな決意を語る会（赤坂プリンスホテル）
- 7月7日(木) 上田 哲君の議員20年を祝うつどい（帝国ホテル）
- 7月12日(土) 大浜方栄支援活動打合せ会（日本医師会）
明日の日本を創る集い（清話会・降矢敬義議員、東京プリンスホテル）
- 9月14日(水) 国民連帯会議（福田赳夫元首相、全共連ビル）
- 9月20日(火) 戸沢政方君法務委員長就任祝賀会（東京プリンスホテル）
- 9月21日(水) 21世紀をめざした日本型長寿コミュニティ構想・稲垣実男君の衆院社労委員長就任を祝

い励ます会（ホテルニューオータニ）

9月22日(木) 長野祐也君の出版を祝う会（東京プリンスホテル）

9月30日(金) リゾートは、いま、日本を変える（野呂昭男議員、経団連ホール）

11月8日(火) 高令者社会問題研究会（大原 亨議員、全共連・松屋サロン）

平成元年

1月24日(火) 小沢辰男議員懇談会（ホテルニューオータニ博多）

3月8日(水) 曾根田郁夫君を囲む会（東京プリンスホテル）

第24

要 望 書



日病会発第375号

昭和63年12月7日

厚生大臣

藤本孝雄殿

社団法人 日本病院会

会 長 諸橋 芳邦



診療情報管理司書（診療録管理士）の資格法定化に関する要望について

標記について、別紙のとおり診療情報管理司書の資格を法定化し責任体制を
確立することを要望いたします。

添付書類：診療情報管理司書（診療録管理士）の資格に関する要望書



日病会発第375号

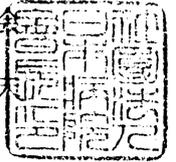
昭和63年12月7日

厚生省健康政策局長

仲村英一殿

社団法人 日本病院会

会長 諸橋 芳夫



診療情報管理司書（診療録管理士）の資格法定化に関する要望について

標記について、別紙のとおり診療情報管理司書の資格を法定化し責任体制を
確立することを要望いたします。

添付書類：診療情報管理司書（診療録管理士）の資格に関する要望書

診療情報管理司書（診療録管理士）の資格法定化に関する要望書

病院における診療録（カルテ）は医師法第24条によって医師にその記載と保存の業務を課しております。またこのカルテは病院医療の質の保障に直接関与する重要文書でありかつまた守秘を要する文書でもあります。現行法の下ではその保存と守秘の業務は医師のみが負っておりますが、医療技術の進歩にともない診療録は膨大な量になり医師のみでは管理できないところまで来ています。

診療録の管理はかなりの医療知識と技術能力を要するものであります。しかし、実際に病院でこのカルテの管理を行っておりますのは医療知識のない無資格の事務員であります。

このような状態では十分な管理がおこなわれず、またその責任の所在が非常に不明確となります。

このような状態を改善するためには病院の病歴管理室の責任者に資格を与え、その保存と利用について責任と義務を法定化する必要があります。

このためこの実務担当者の資格を法定化し責任体制を確立することを要望するものであります。

〔参考〕

<米国における事情>

米国では古くから制度として確立し、1935年から学校教育による養成が行われており、1965年以来は4年生大学で担当者が養成されております。この登録病歴管理者RRA（Registered medical Record Administrator）の養成大学は55校あり、まだこれでも要員が不足であるとして、高校卒業後2年の学校教育または3年の通信教育による認定病歴専門士ART（Accredited medical Record Technician）という者の養成校も82校あります。そして病歴室にはこれらの有資格者を置きませんと病院認定合同委員会（Joint Commission on Accreditation of Health Care Organization）の病院認定が受けられないことになっております。したがって、全米の病院の病歴室にはこれら有資格者が配置されまして、診療情報の利用体制が制度として確立しております。

<我が国における現状>

我が国では昭和39年より厚生省病院管理研究所が病歴管理事務専攻科という15日間の講習コースを開設し、カルテの実務を解説されたことが引き金となり、かなりの病院で病歴室が設置されるようになりました。しかし実務担当者の米園におけるような学校教育の制度がありませんでしたので、昭和47年7月以来本会（当時日本病院協会）は2年制の通信教育を開講し、現在までに2千名を越える受講者を迎え、通信教育終了後認定試験を行いました。その合格者1,218名に対しまして日本病院会認定診療録管理士といたしました。それらの者が現在全国の500以上の病院で診療情報の管理業務を行っております。

この実態から見ましても、心ある病院では診療情報の利用体制を確立することによって、効果的効率的医療の向上につとめていることが知られるのでございます。この時に当り、米園におけるこの部門の教育された有資格者の優秀さを見るにつけ、我が国でも是非ともこの種学校教育による養成と資格制度の法定化によりまして、資質の向上を図りたいと存じます。

診療録はその病院にとって重要であるばかりでなく、病院と診療所の連携、また他の医療機関との連携など今後の地域医療を行うための基礎情報としてますます重要性を加えてくるものであります。

昭和六十四年度予算に対する要望

一、社会保険診療報酬の改善に必要な経費について

本年四月一日の診療報酬改定は、実質平均0・5%（医科0・7%）のアップと称しながらも、現実的にはマイナス改訂となっている。今日まで長期にわたり大幅に上昇してきた物価・人件費と、更に今夏、人事院が国家公務員に対するベアスアップ二・三%を勧告する報道等を考え合わせると、病院経営はますます窮迫することとなります。

一方、労働基準法の改正による労働時間の短縮に伴い政府は公務員の四週六休を来年一月より本格的に実施することになっておりますが、医療機関においてこれを実施するためには、業務の性格上、職員増を図らなくてはならず、給与体系から職員数、給与額を試算すれば四・八%（医療費換算二・四%）の人件費の増額が必要となります。

このままでは、良心的かつ良質な医療を提供する病院の崩壊は避けがたく、さらに国立病院をはじめ、医療機関のみが週休二日制を実施できないのは甚だ不公平と思われまます。

したがって、病院経営の安定化、四週六休制度の実現のため、早急に診療報酬の再度改定が行われますよう、必要な経費を確保されるよう強く要望いたします。

二、看護婦等養成所に係る予算について

労働基準法改正による労働時間の短縮、老人保健施設の拡充、地域ケア活動に伴う訪問看護事業の推進などのため、看護職員の不足は一層激化することが予想され、増員対策は焦眉の急務と考えます。

看護婦等の養成については、国立及び公・私立の医療機関等が鋭意推進しているところでありますが、これら養成に要する経費は、一部貴重な診療報酬によって賄われ、健全な病院経営が損なわれている現状であります。

したがって、看護婦等養成に係る補助金を、更に拡充確保されるよう要望いたします。

昭和六十三年八月五日

社団法人 日本病院会
会長 諸橋芳夫

自由民主党

全国組織委員会

委員長 森喜朗 殿

国民生活局長 高橋辰夫 殿

政務調査会

社会部会長 丹羽雄哉 殿

平成元年度予算に対する要望

一、社会保険診療報酬の改善に必要な経費について

昨年四月一日の診療報酬改定は、実質平均0.5%（医科0.7%）のアップと称しながらも、現実的にはマイナス改訂となっており、今日まで長期にわたる大幅に上昇してきた物価・人件費と、更に今回実施された国家公務員に対するベースアップ二・三五%等を考え合わせると、病院経営はますます窮迫することとなります。

一方、労働基準法の改正による労働時間の短縮に伴い、政府は公務員の四週六休を本年一月より本格的に実施されており、医療機関においてこれを実施するためには、業務の性格上職員増を図らなくてはならず、給与体系から職員数、給与額を試算すれば四・八%（医療費換算二・四%）の人件費の増額が必要となります。このままの推移で国立病院をはじめ、医療機関のみが週休二日制を実施できないのは甚だ不公平と思われ、また、本年度より実施される消費税に伴い、社会保険の診療報酬分については一応価格転嫁が行われる予定ですが、診療報酬に吸収されない自由診療、人間ドック等の分野における負担の増加は大きく経営を圧迫することとなります。

したがって、ここに良心的かつ良質な医療を提供するため病院経営の安定化と、四週六休制度の実現のため、診療報酬の改定が行われる必要な経費を確保されるよう強く要望いたします。

二、老人保健施設について

老人保健施設を急増し、年間二万床、十五年間で三十万床を増床する計画と聞き及んでいますが、新設では多額の費用を要するので、医療資源の効率的運用から現在の病院病床を容易に老人保健施設に転用できるように、経済誘導政策をとれることが必要と勘考します。

そのためには、新設・転床とも施設の経営が成り立つよう、適正な施設療養費自己負担金のほか、整備補助金、融資（地方債、社会福祉・医療事業団融資）、及び税制面の優遇等、予算に確保されるよう要望いたします。

三、看護婦等養成所に係る予算について

労働基準法改正による労働時間の短縮、老人保健施設の拡充、地域ケア活動に伴う訪問看護事業の推進などのため、看護職員の不足は一層激化することが予想され、増員対策は魚眉の急務と考えます。

看護婦等の養成については、国立及び公・私立の医療機関等が鋭意推進しているところであり、これら養成に要する経費は、一部貴重な診療報酬によって賄われ、健全な病院経営が損なわれていない現状であります。

したがって、看護婦等養成に係る補助金を、更に拡充確保されるよう要望いたします。

平成元年一月二十日

社団法人 日本病院会
会長 諸橋 芳



自由民主党

全国組織委員会

委員長 山 村

国民生活局長 高 橋

政務調査会 丹 羽

新治郎 殿

殿

辰 夫 殿

殿

社会部会長 丹 羽

雄 哉 殿

殿

平成元年 2 月 1 5 日

厚生省健康政策局長
仲 村 英 一 殿

(社) 日 本 病 院 会
会 長 諸 橋 芳 夫

ミドリ十字事件の処分に就いての要望

今回の事件に関連して、大蔵省、税制第一課長に別紙の如く
要望しましたが、資料御判読の上善処されるよう要望します。

平成元年 2 月 15 日

大蔵省税制第一課長 殿

(社) 日本病院会
会 長 諸 橋 芳 夫

ミドリ十字事件の処分についての要望

ミドリ十字事件の処分に対する見解については昨年 12 月 27 日付けで厚生省保険局長、同薬務局長宛に当会を含む病院 4 団体で見解を発表し遺憾の意を表明した。

その後 8 県で 8 医療機関の保険医療機関の保険指定が 2 月 1 日から取り消された。

本会としては、2 月 15 日には未取載品目等の請求再発防止についての懇談会を開催した。

更に、別紙の如くミドリ十字違法放射線医薬品事件は何故起ったのか、今回の事件発生の背景と保険医療機関の不揃い、以上の 2 論説によりこの事件の真相を解明した。

今回保険医療機関の取り消し処分を受けた医療機関の中で特定医療法人があるが、この法人格をも取り消す動きが大蔵省にあるやに聞くが、架空請求、水増し請求による医道審議会の処分によるものではなく、上記の如く主因はミドリ十字の詐欺的行為による被害者であり、既に社会的制裁は十二分に受けていること故、又、国公立病院の処分との公平の点からみても特定医療法人取り消し処分は極めて酷であり、とり止めて頂くよう要望致すものであります。

ミドリ十字事件の問題点

ミドリ十字社の販売する放射性医薬品を使用した全国662の保険医療機関の内、85%にあたる562もの保険医療機関が「不正請求をした」ことにされ、保険医療機関や医師に対する信頼はがた落ちである。

然し、保険医療機関側は職員間のまとまり、保険医療機関としてのまとまりが無く、自分だけが責任を逃れようとしている。

まるで、ザルのなかの蚤のようだとばかにされている。

今回は保険局側の攻撃の手始めである。その後、保険医療機関側がキセノン-133 ガス100,200 mCi を申請して来ないので、そもそも必要が無かったのではないかとの声もある。今回の事件の問題点は要約すると以下のようになる。

ミドリ十字社の問題点

①昭和45年から昭和62年まで、空港税関を偽り、放射性医薬品を化学物質として密輸していた。

②品質、安全性について薬事法の承認を取らずに、28品目46項目、23億円以上もの放射性医薬品を全国に販売していた。

③薬価基準未収載表示をしないでこれらを販売していた。

④それらは保険請求できると保険医療機関をだまして販売していた。

⑤違法な放射性医薬品を販売し、納入伝票、請求伝票は合法的なもので振り替えて販売していたものもあった。

⑥昭和54年7月18日にキセノン-133 ガスを使用しての局所脳血流測定装置が医療用具として輸入承認されているにもかかわらず、必要なキセノン-133 ガスの薬事法にもとづく申請を昭和57年5月25日まで約3年間も怠り、医薬品販売会社としての社会的責任を果たさなかった。

⑦薬事法に基づく承認を受けていない放射性医薬品を、「承認品目」と偽って、社団法人日本アイソトープ協会に提出したため、同協会の承認品目価格表に掲載され、多くの誤解を招いた。

⑧ミドリ十字社発行の放射性医薬品価格表にも、未承認放射性医薬品を承認薬のように記載し、配付した。

⑨薬価収載に疑問を抱いて問い合わせた保険医療機関を、「製造は薬価基準に収載されている日本メジフィジックス社であり、販売がミドリ十字社である。」とかいうように騙した。

⑩昭和62年10月1日に50mCiのキセノン-133 ガスのみが薬価基準に収載された際に、今まで販売していたものが違法なものだとの説明をしなかった。

このように企業ぐるみの犯罪により、全国562もの保険医療機関が不正請求をしたことにされてしまった。

保険医療機関等の問題見直し点

- ①医師の間の結束が弱い。武見太郎元日医会長の様な強力なる傑物が居ない。武見会長亡きあと官僚にかき廻されている。
- ②開業医の平均年齢が高齢化し、病院団体及び高度先進的医療をやる病院と日本医師会との間の連携が必ずしもよくない。
- ③日本の医療保障、地域医療システムの将来像が確立されていない。
- ④政社団体が弱い。

行政の問題見直し点

- ①安心して、保険医療機関で医薬品を使用できるように、瓶のラベル、包装、能書などに薬事法承認番号、薬事法承認年月日、薬価基準収載年月日を記載することが義務づけられていない。
- ②薬価基準の掲載方法が単位あたりいくらとなっているので、規格違いのものが分からない。
- ③医療機器・医薬品の承認審査責任者に実際に使用する立場の臨床経験のある医師が加わっていない。
- ④医療機器・医薬品の承認審査期間が長すぎる。
- ⑤17年間も違法放射性医薬品を放置しておいた責任・・・軟弱な医薬品の監視体制
- ⑥正しい方法でエルマチック等を使用し、請求した保険医療機関を原因は行政にあるのに処分している。
- ⑦過失に対し、注意や指導なしに取り消しをしている。処分の行き過ぎではないか。
- ⑧製薬メーカーに異常に処分が甘すぎる。ミドリ十字社との癒着があるのではないか。責任は誰にあるのか。

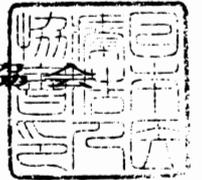
昭和63年 5月24日

殿

社団法人 全日本病院協



社団法人 日本医療法人協



社団法人 日本精神病院協



社団法人 日本病院



要望書

看護婦（士）准看護婦（士）（以下「看護婦等」という）の確保については、国公立・公的のみならず私的医療機関においても、大きな犠牲を払いつつ、その養成に力を注いでいるにもかかわらず、医療技術の高度化、地域医療計画による病床規制を見越しての増床、4月1日より施行された労働基準改正法による労働時間の短縮、加えて老人保健施設の拡充、地域ケア活動に伴う訪問看護事業の推進などのため、看護婦等の不足は解消されるどころか、一層激化することが予想される。

特に私的医療機関にあっては、乏しい診療報酬を割いて経費を捻出し、看護婦等養成施設の運営にあたりながら、その卒業生は必ずしも当該機関に定着する保証は、全く無く然も公的医療機関へ流出する者が多いのが現状の姿である。

先日発表された厚生白書においても指摘されているように、今後の医療・福祉政策を推進するうえで看護婦等の増員対策は焦眉の急務と考えられる。

厚生当局はこの事態を直視し、看護婦等の増員に対する緊急措置として次のことを実施されるよう強く要望する。

記

- 1 第3次看護婦需給計画を早急に策定されたい。
- 2 准看護婦（士）で実務経験5年以上あるもので、医療団体の行う認定講習を終了したものは、基準看護の看護婦の数に算定することができるようにされたい。
- 3 看護養成校の定員については、卒業時に定員数となるよう、ある程度までの定員オーバーを認められたい。
- 4 実習病院の指定基準の緩和をはかられたい。
- 5 国公立病院（公的を含む）、大学病院で300床以上のところは独自の看護婦養成校設置を義務づけられたい。
- 6 民間機関が独自で看護婦養成校を設置するところに対しては、補助金の増額を図られるよう措置されたい。

昭和63年8月12日

殿

社団法人 全日本病院協



社団法人 日本医療法人協



社団法人 日本精神病院協



社団法人 日本病院



今回の診療報酬に対する意見と今後の要望

四病院団体連絡協議会

社会保険診療報酬は診療行為の学術性を基礎とし、社会経済すなわち物価、人件費等の変動への対応及び再生産原資をふくむものでなければならない。

しかるに、4月1日に実施された今回の診療報酬改定では、疾病の実態並びに医療の学術性を無視した条件設定が見受けられる。このような方向づけは、我が国の医療の根幹をなす社会保険診療報酬のあり方を、学問的医療から財政主導型医療へ改悪せしめるものであり、憂慮に耐えないところである。

更に、改正点数の新旧比較では、トータルとして実質0.5%（医科0.7%）のアップと称しながらも、現実的にはマイナス改定となっている。医療機関殊に病院に対する心象的及び経済的打撃はまことに痛烈なものがある。

過日、大蔵省は62年度決算の純剰余金は過去最高の1兆9千億円、自治省は都道府県税の自然増収は史上最高の1兆2962億円と発表し、更に我が国のGNPは高成長で年率11.3%の上昇と云われているが、この経済情勢に対応し、速やかに再改定を求めらるものである。

以下各項目に分け、意見を述べ、再改定に対する要望を列記する。

記

1. 病院、診療所の医師技術料格差（再診療、慢性疾患指導料に差がある）をつけるべきでない。
2. 診療情報の提供料において、診療所・病院間のみならず、病院と病院間にも、また紹介受け入れ側の返信についても同等の取扱をするべきである。
3. 処方箋料は、院外処方箋に対し、院内処方箋も同等の扱いとし、調剤基本技術料の新設100点は、施設基準によらず全ての病院に適用すべきである。
4. 救急医療管理については、諸種の制約・格差（当番日、第2次救急医療施設、外来入院別、細かい病状上の区別等）を除くこと。
5. 入院中病状急変による緊急手術についても、初診又は再診に引き続いて行われた緊急手術と同様、時間外、休日、深夜の点数加算の対象とすること。
6. 検体検査判断料は、すくなくとも月2回は必要である。
7. 生体検査、画像診断において、当月2回以降10%減額は、学術性に於て不合理であり、撤廃すべきである。
8. 看護は基本看護が最も重要であることに鑑み、普通看護料の適正評価がなさ

れるべきである。

9. 特3類の基準看護新設に伴う重症者看護特別加算の廃止は実態を無視した制度改定であり、存続すべきである。
更に、特3類において入院平均20日間という期間設定は、重症者管理の実態からみて全く不合理である。
10. 給食料の1点のみ引上げは、経済変動に即応しない極めて不十分なものである。
11. 在宅療養指導管理料のうち、経管栄養指導管理料実態に即した適応が必要である。（対象者の拡大）
12. 長期入院患者（1年以上の場合）が老健施設よりも低額の診療点数は不合理である。
13. 医師、看護婦（士）、准看護婦（士）（以下看護婦という）が定められた基準を下回る場合にペナルティーを課すことになったが、今日の看護婦の需給関係の現状からみて性急な措置といわざるを得ない。
14. 差額病床は30%と一応拡大されたが、2人室・1人室に限るとある。これは地域性あるいは需給関係等を考慮して、上級室に限るとし具体的な制限を設けるべきでない。

以上が改定項目・点数に対する意見の主たるものである。前文にも指摘した通り、今後このような方向づけが強化されることを憂慮するものであり、取りあえず、次回改定には前期項目に加えて、次のことを要望する。

1. 大学附属病院の公的保険診療体制と、紹介外来性の再検討。（地域医療計画との関連も併せて）
2. 精神保健法の改正により、人権擁護の観点から種々の法改正が行われた。この際衆・参両院において、精神科医療につき特別の配慮の必要性を付帯決議が行われており、この決議の速やかな実施を要望する。
3. 労働時間短縮（4週6体制）を来年から官公署で完全実施されることになっているが、医療機関のこれの実施についても、24時間体制、救急医療への対応などの特殊性をふまえて、増員に見合う診療報酬の引上を行うべきである。なお特に看護婦を中心とした従業員の増員については切実な問題であるので、別添の要望を特に資料をそえて行う。

(別 表)

週休2日制実施による職員数・給与費増加試算

地方公営企業年鑑による

区 分	勤務時間 変化率 (注1)	勤務時間減少による 不足人員率(要増加人員率) (A)	62年3月末 職員数(B) (公営企業年鑑)	職員増加 見込数 (A×B)	62年度給与費 総額推計(C) (注2)	給与費増加 見込額 (A×C)	増 加 率
4週4休から 4週5休へ	0.977	$\frac{1}{0.977} - 1 = 0.02354$	175,825 ^(人)	(人) 4,139	(百万円) 1,131,495	(百万円) 26,635	(%) 2.4
4週4休から 4週6休へ	0.954	$\frac{1}{0.954} - 1 = 0.04822$	175,825	8,478	1,131,495	54,561	4.8
4週5休から 4週6休へ	0.976	$\frac{1}{0.976} - 1 = 0.02459$	175,825	4,324	1,131,495	27,823	2.5

注1. 勤務時間変化率 (4週4休・週44時間×4週=176時間であるので)

4週4休から4週5休へ・176時間-4時間(土曜1回)=172時間 $172 \div 176 = 0.977$

4週4休から4週6休へ・176時間-8時間(土曜2回)=168時間 $168 \div 176 = 0.954$

4週5休から4週6休へ・172時間-4時間(土曜1回増)=168時間 $168 \div 172 = 0.976$

注2. 昭和62年度給与費推計額

昭和61年度給与費総額 1,067,448 百万円 (公営企業年鑑) × 1.06 (全自病調) = 1,131,495 百万円

昭和63年8月12日

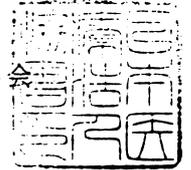
厚生省健康政策局
局長 仲村 英一 殿

要 望 書

社団法人 全日本病院協会



社団法人 日本医療法人協会



社団法人 日本精神病院協会



社団法人 日本病院



(五十音順)

医療法人試験研究費の租税特別措置法 (措置法42条4の1～4・措置令27条4の4・措規20)の適用について

従来より医療法人の研究費は損金として認められてきたところではありますが、一般に中小法人に於ける試験研究費と別個のものとして取り扱われてきました。

然るに医療に於いても医学技術の日進月歩の急速な進歩や、国民の医療に対する関心の高まりの中で、ますます試験研究の必要が医療担当者側にも生じてきています。

医師、看護婦等は技術の改良、開発は勿論、新しい技術を試験研究する必要に迫られています。従って病(医)院は院内、または院外(例えば大学病院)と連携して日夜試験研究に努めています。これが医事紛争の防止にもなり、より高度、効率的、質のよい医療を提供する基となるものです。

従って昭和63年の中小企業の研究費の特措法の拡大に伴い、医業にもこの制度の適用を賜りたく要望いたします。

なお、従来の研究研修費と区分して試験研究費は、下の如き要件を付する事が望ましいと思います。

- 1) その試験研究費が直ちに医療費の増加をもたらすものでない事。
(例えば病院の病理解剖)
- 2) 一定の予算計画をもって行なうもので、一般経費と区別できるもの。
- 3) 大学病院等に委託し、または大学病院等からの派遣医に病院内で行はしめる試験研究費。
- 4) 特に必要があって臨時に行う特別な学術研究、また新技術修練のため従業員を派遣して行う講座費用

昭和六十三年九月三十日

社団法人 全日本病院協



社団法人 日本医療法人協



社団法人 日本精神病院協



社団法人 日本病院



(五十音順)

税制に関する西女胡王書

医療界は、業務の基本的性格から高い社会性と公共性を要請されており、また、われわれ医療従事者もこれを自覚し、その社会的使命の達成に努力しております。

医療の原点とも言うべき救急医療または措置医療に関しても、これに積極的に取組みその責務を果たしているのは、民間医療機関であります。

しかしながら、税制面におきましては、公的医療機関と比較しても、その業務の同質性からみて著しく均衡に欠けるものがあります。

医療業の公益的側面に見合った税制の確立のため、別紙のとおり昭和六十四年度の税制改正要望事項の実現について格別のご高配の程要望申し上げます。

また、今般審議されている税制抜本改正において税の直間比率の見直しが議論されておりますが、保健・医療の担い手である医療機関として間接税の導入、課税対象取引の決定等につきましては慎重な審議を要望する次第であります。今後我国が直面する高齢化社会を想定いたしますと社会福祉を目的として間接税の導入は充分検討に値するものであり、国民の納得する社会保障費確保の政策として格別のご検討をお願い申し上げます。

昭和六十四年度税制改正要望事項

一 事業税関係

(一) 医療機関に対する事業税の特例措置、即ち

(1) 社会保険診療報酬にかかる事業税の非課税措置

(地方税法第七二条の一四及び第七二条の一七)

(2) 医療法人に対する事業税の軽減措置

(地方税法第七二条の二二)

を現行どおり存続されたい。

(理由)

従来から医療機関に対する事業税の見なおし論議があります。

(1) 社会保険診療は公共サービスの一種であり、診療拒否の許されない奉仕的業務であるので、事業税を課すことは不合理である。

(2) 医療法人は配当を禁止されており、且つ営利を目的としない極めて公共性の高いものであるので、事業税の軽減措置をされたい。

(3) 公的医療機関と異なり、税負担面で差のある私的医療機関に、更に税負担の加重を強いことは、経営の悪化を招き、医療事業の健全性を損ねることは明らかである。

(4) 収支の悪化から経営危機が叫ばれている私的医療機関の実情無視はその存在否定にもつながるとともに、医療法（昭和六十年十二月二十七日法律第一〇九号）付則第四条に定めた医療機関の経営基盤の安定措置を講ずるといふ医療法改正の主旨にも反するものである。

二 所得税、法人税関係

(一) 剰余金の配当の禁止と業務範囲が制限されている医療法人について、医療の非営利性を考慮して法人税率を引き下げること。

（法人税法第六六条第三項）

また、特定の医療法人は非課税法人とされたい。

（措置法第六七条の二）

（理由）

(1) 医療法人は、医療法に基づいて設立されている法人で、その事業内容も医療のほか医療関係者の養成等、公共性の高いものに限定されており、また剰余金の配当や営利追及が禁止される等、医療のもつ高い公共性を反映して、多くの規制を受けているにもかかわらず、営利法人並の税率を課せられるのは課税上不公平である。

(2) また特定の医療法人は、その組織運営及び最終財産の帰属が、社会福祉法人または厚生連医療機関と同一の条件にある以上、税法上も同等な非課税法人とされたい。

(二) (1) 病院用建物および建物附帯設備について、法定耐用年数を大巾に短縮すること。（耐年省令別表第一）

(2) 医療用機器の特別償却制度の特別措置を継続されたい。

(3) 医療法人等が開設する老人保健施設の建物及び建物附帯設備についても(1)と同様の措置を講ぜられたい。

（理由）

(1) 病院の施設基準は患者等の収容に適応した環境条件を要求している。老朽化した設備については、耐用年数未満でも改善命令による更新が義務づけられ、その耐用年数はより短縮されるべきである。建物鉄筋コンクリート造三十八年、建物附帯設備十二年等の耐用年数に短縮されたい。

(2) 医療用機器の特別償却制度の適用期限を、昭和六十四年四月一日以降も引き続き延長し、医療設備の近代化と、その整備充実の促進をはかられたい。（措置法第四五条の三②）

(3) 老人保健施設についても病院と同様の施設基準を要求されることが予想されるため。

(三) 中小企業新技術体化投資促進税制（メカトロ減税）の対象機器の範囲を拡大されたい。又医業に關しても事業基盤強化税制の対象とされたい。

（理由）

中小企業新技術体化投資促進税制（メカトロ税制）の対象機器の範囲を拡大し、医療設備の近

代化とその整備充実の促進をはかられるよう要望するとともに、同様の趣旨から医療についても昭和六十二年度税制改正により創設された事業基盤強化税制の対象業種とされたい。

(四) 医療法人の試験研究費を一般企業と同様、特別税額控除の対象とされたい。

(措置法第四二条四の一～四)

(理由)

一般中小企業法人では既にこの制度が実施され、本年度より更に拡大されている。医療法人でも試験研究費を必要とするので、同様の取扱いをはかられたい。

(五) 医療法人財団及び特定の医療法人については、交際費の損金算入限度額の計算に当たって期末純

資産額の一〇〇分の六〇を資本金とみなしておりますが、医療法人社団と同様、当初の寄附金ないしは出資金額を判定の基準としていただきたい。

(措置法施行令第三八条)

(理由)

医療法人は医療法第五四条により剰余金の配当を禁止されているため、設立後相当期間を経過した医療法人財団及び特定の医療法人では純資産額が累積的に増加しており、業務運営上最低限必要と思われる慶弔禍福費についても課税を受ける結果となっているため、限度額算定の基準を医療法人社団と同様の方式とするよう取りはかられたい。

三 相続税関係

(一) 医療法人出資持分に対する評価について、次のとおり改め、評価の適正化をはかられたい。

(1) 比準すべき類似業種区分を、現行の「No.一二五その他の産業」を改め、新たに医療法人の区分を設けるとともに、類似業種比準価額算定式に配当金額要素を加えること。

(2) 又は、定款による解散時までは出資に対する持分計算は行わないこととし、この間における出資の移転及び退社時の払戻金は、払込出資額を限度とした場合には相続税における出資の評価も払込出資金額とされたい。

(理由)

(1) 現在、医療法人の出資持分の評価は純資産価額方式に加え、事業承継税制の改正に伴い、比準すべき類似業種を「No.一二五その他の産業」とし、利益金額及び純資産価額の二要素を加味して算式を適用し、算出することとなった。しかしながら、比準すべき類似業種株価はその後急上昇し、昭和五十七年に比し昭和六十一年には二・三倍に達し、不合理なものとなっている。

また、医療法人は医療法第五四条により配当を禁止されているため、一般法人に比べ純資産価額の累積が著しく、類似業種比準価額計算に配当金額要素を加味しない場合、適正を欠く評価方式となる。

(2) 本来、類似業種株価は市場性を前提として形成されているが、医療法人の出資持分はその性格上公益性と配当禁止を前提としているため、類似業種と比準することは著しく実情に反するものであ

る。

(3) 医療法人の剰余金は医療法にもとづく法的留保分であって、事業が継続する限り固定留保されることを原則としております。

これら剰余金を含めての出資持分といっても、この間何等の経済的収益を伴うわけではなく、単なる抽象的財産株に過ぎないものであり、相続税の課税対象資産としてはなじまないものであります。

四 固定資産税、不動産取得税関係

(一) 医療法人が経営する病院、診療所及び看護学校等パラメディカル養成施設において、直接その用に供する固定資産または不動産について固定資産税または不動産取得税を非課税とされたい。

(理由)

(1) 現在、公的医療機関の経営する病院、診療所において直接その用に供する固定資産または不動産については、固定資産税または不動産取得税は非課税となっており、また、特定の医療法人についても、その設置する医療関係者の養成所において、直接教育の用に供する固定資産または不動産については、固定資産税または不動産取得税は非課税とされている。

(地方税法第七三条の四第一項三号及び同法第三四八条第二項九号)

(2) 殊に、特定の医療法人は、特に強い公益性を義務づけられた医療法人であり、その要件からみ

て、公的医療機関と何等変わることはない取り扱いをされてしかるべきである。

(3) 税制上協同組合等に位置づけられている特定の医療法人においては、協同組合経営の病院、診療所の不動産取得税及び固定資産税は非課税となっており、これと同様の措置をとられるよう要望する。

(地方税法第七三条の四第一項八及び同法第三四八条第二項一一号の三)

(4) その他の医療法人についても、社会保険診療機関及び救急医療機関の整備にからめて、全国一律に軽減措置を適用されるよう要望する。

(二) 医療法人等が開設する老人保健施設について、不動産取得税、固定資産税、都市計画税、事業所税、特別土地保有税の優遇措置を設けること。

(理由)

老人保健施設の普及を促進し、制度の円滑な確立を期するため、施設設置に際しては税制上の優遇措置が不可欠である。

五 高齢化社会に対応して

人口の高齢化、長寿化の急速な進行に対応した医療控除等の範囲の拡大をはかられたい。

(1) 所得税法上における生命保険料の所得控除限度額の引き上げ。(所得税法第七六条第二項)

(2) 所得税法上における医療費控除について医療費の範囲拡大及び医療費控除限度額の引上げ。(所

得税法第七三条)

- (3) ねたきり老人、痴呆性老人に対する所得控除制度の創設

(理由)

- (1) 疾病構造の変化、国民の健康に対する関心の高まり等により民間医療保険への加入率、払込保険料が拡大している現在、昭和四十九年以来改正されていない生命保険料控除限度額の引上げが必要である。

- (2) 健康保険法、老人保健法の改正により医療費の自己負担額が増加している背景を考慮すると医療費控除限度額の引上げが妥当である。

- (3) 高齢化、長寿化の進展による後期老年人口の増加とともに、ねたきりや痴呆の介護を要する老人は、今後とも増加することが予想されるため、これらの老人を扶養する家計に対して税法上の措置を講ずることが不可欠かつ急務である。

六 医療計画関連税制関係

〔国税〕

- (1) (都道府県医療計画における病床不足地域に病院を移転した場合の圧縮記帳の創設)
都道府県医療計画において、病床過剰とされた医療圏から、病床不足とされた医療圏に病院を買い替え・移転した場合に圧縮記帳を認めること(所得税・法人税)

(理由)

わが国の医療供給体制は量的にはかなりの水準に達しているが、医療機関の地域的偏在等の問題が指摘されている。このため、医療法に基づく都道府県医療計画において病床過剰とされた医療圏から、病床不足とされた医療圏へ病院を移転する場合には、税制面からも支援措置を講ずる必要がある。

- (2) (都道府県医療計画において特に病床が不足している地域に病院を開設した場合の病院用建物の特別償却制度の創設)

都道府県医療計画において、特に病床が不足とされた医療圏に病院を開設した場合に、病院用建物について特別償却を認めること(所得税・法人税)

(理由)

わが国の医療供給体制は量的にはかなりの水準に達しているが、医療機関の地域的偏在等の問題が指摘されている。このため、都道府県医療計画において特に病床が不足とされた医療圏に病院を開設する場合には、税制面からも支援措置を講ずる必要がある。

- (3) (共同利用の用に供する医療機器の特別償却制度の創設)

都道府県医療計画を踏まえ、共同利用の用に供される高額又は使用頻度が低い等一定の医療機器について、初年度一〇〇分の三〇の特別償却を認めること(所得税・法人税)

(理由)

医療資源の効率的な活用を図りつつ、国民にあまねく適切な医療を提供していくためには、都道府県医療計画の趣旨を踏まえ、高額又は使用頻度が低い等一定の医療機器の共同利用を積極的に推進していく必要がある。

〔地方税〕

(1) (都道府県医療計画における病床不足地域に病院を移転した場合の不動産取得税の軽減措置の創設)

都道府県医療計画において、病床過剰とされた医療圏から病床不足とされた医療圏に病院を移転した場合に、不動産取得税を軽減すること(不動産取得税)

(理由)

わが国の医療供給体制は量的にはかなりの水準に達しているが、医療機関の地域的偏在等の問題が指摘されている。このため、都道府県医療計画において病床過剰とされた医療圏から病床不足とされた医療圏に病院を移転する場合には、税制面からも支援措置を講ずる必要がある。

(2) (共同利用の用に供する医療機器に係る固定資産税の軽減措置の創設)

都道府県医療計画を踏まえ、共同利用の用に供される高額又は使用頻度が低い等一定の医療機器について、固定資産税を軽減すること(固定資産税)

(理由)

医療資源の効率的な活用を図りつつ、国民にあまねく適切な医療を提供していくためには、都道府県医療計画の趣旨を踏まえ、高額又は使用頻度が低い等一定の医療機器の共同利用を積極的に推進していく必要がある。

昭和63年8月20日

厚生省健康政策局指導課長

松村 明仁 殿

社団法人 全日本病院協会

社団法人 日本医療法人協会

社団法人 日本精神病院協会

社団法人 日本病院会

要望書

四病院団体連絡協議会病院給食業務委託研究会はかねてより、病院給食外注の在り方に関し検討を重ね、厚生省の指導のもとに、その質を確保し業者の認定、評価のための財団法人設立の準備を進めてきた所である。

しかし最近、病院給食を志す業者の動きが活発となり、給食の質の向上及び効率化を図り、国民医療に寄与することを目的とした団体が発足し、近く厚生省より社団法人への認可が予定されている様である。

国民に対し医療の一環としての病院給食の質の向上のため、業界が自主努力をされることは好ましいことではあるが、その評価認定を行う責任はあくまで委託者である病院（団体）にあるべきものである。

以上のことを十分ご認識の上、当該協会の運営について誤りなきようご配慮されると共に、厚生省当局の指導をつよく要望するものである。

昭和63年10月7日

日本医師会長

羽田春免 殿

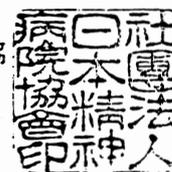
社団法人全日本病院協



社団法人日本医療法人協



社団法人日本精神病院協



社団法人日本病院



昭和63年度医療監視についてお願い

過日厚生省より通知されました「昭和63年度の医療監視・経営管理及び衛生検査所指導の実施について」につき、別紙の通り厚生省健康政策局長宛照会を致しましたのでご報告申し上げるとともに貴職のご高配をよろしくお願い申し上げます。

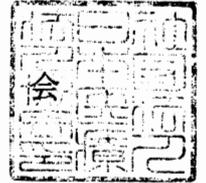
昭和63年10月7日

厚生省
健康政策局長殿

社団法人全日本病院協



社団法人日本医療法人協



社団法人日本精神病院協



社団法人日本病院



昭和63年度医療監視重点項目に関する件照会

昭和63年9月1日健政発第539号にて通知された「昭和63年度の医療監視・経営管理及び衛生検査所指導の実施について」の文中

2. 重点項目

(7) その他の注意事項

エ. 医療従事者の健康診断の実施

医療従事者のB型肝炎等感染事故、医療従事者と患者間での感染事故防止のため、医療機関で定期健康診断を実施するとともに、医療従事者が全員受診するよう指導すること

とありますが、次の各項につきご教示賜りたく照会します。

(1) 「医療従事者」とは次の何れを指すのですか

- ①病院勤務者全員
- ②患者に直接接触する職種の者
- ③患者に間接的に接触する職種（寝具、給食、その他）の者を含むときはその範囲

(2) 「全員受診するよう指導」とありますが、指導に従わず受診を拒否する者の取り扱い

(3) 受診結果は受診者のプライバシーに属するのでその取り扱い

(4) B型肝炎抗原保持者の処遇、特に配置転換その他労務管理上起り得る問題の処理

(5) B型肝炎抗体陰性者がワクチン等の接種を拒否した場合の取り扱い

(6) 血清学的検査及びワクチン接種の費用は誰が負担するのか

昭和63年10月29日

厚生大臣
藤本孝雄 殿

社団法人 全日本病院協



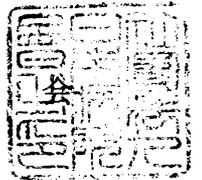
社団法人 日本医療法人協



社団法人 日本精神病院協



社団法人 日本病院



要 望 書

昭和63年度の医療監視について、去る9月1日、厚生省健康政策局長名をもって各都道府県知事あて通知がありましたが、本年度の重点項目（7-エ）に医療従事者の健康診断の実施が特に指示されております。

医療従事者に対する健康管理については、常に病院管理者として万全を期すことは当然のことではありますが、B型肝炎の血清学的検査及びワクチン接種は、多額の費用を要します。

国公立病院は、予算計上等の財政措置が行われますが、私的医療機関においては、貴重な診療報酬を財源として捻出せざるを得ない状況であります。

エイズ感染予防に要する費用については、国の財政措置が行われることと聞いております。

B型肝炎の医療従事者健康管理対策の費用についても、国公立病院と同様の財政措置がなされるよう、特にお願い申し上げます。

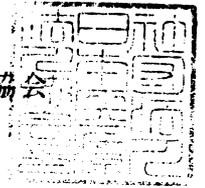
要望書

昭和63年12月8日

社団法人 全日本病院協



社団法人 日本医療法人協



社団法人 日本精神病院協



社団法人 日 本 病 院



(五十音順)

消費税法（案）の発足に伴い、病院に於ては医薬品、衛生材料、給食材料、消耗品、更に医療機器設備、建物、給排水等に課せられる3%の税額は相当額の金額となる。

しかもこの仕入れサイドの税額は、病院収入の大部分となっている社会保険等の売り上げサイドの税額が非課税となっているため転嫁ができない。したがって病院財政安定のため、速やかに下記の処置を講ぜられたい。

- 1) 税額相当に見合う社会保険等の医療費を、速やかに引き上げられたい。

- 2) 仕入れ分に課せられた税額分を、最終消費者である患者に転嫁できるような処置を社会保険法等の中で講ぜられたい。

昭和六十四年度税制改正に関する要望

(昭和六十二年十二月二十六日)

社団法人 全日本病院協会

社団法人 日本医療法人協会

社団法人 日本精神病院協会

社団法人 日本病院会

(五十音順)

昭和六十三年十二月二十四日に、税制改革関連法案が成立し、医師税制についても、いわゆる五段階経費率が見直されることとなつています。病院四団体としては、今回の見直しを契機として、引き続き医療経営の近代化、実額経費の正確な把握等を推進するため、医療機関の開業促進策の検討を進めていくことが緊急の課題であると考えております。左記のような格段の御配慮を要望いたします

記

一、一人医師医療法人等小規模な医療法人に対する合理的な税制の確立

一、個人が法人化する場合の税制上の軽減措置として、
「土地や建物を一人(又は二人)医師医療法人設立のために現物出資した場合に係る譲渡所得の軽減措置」を設けること。

二、法人成りした場合の税制上の軽減措置として、
①「医療施設構造改善準備金の創設」
及び

②「医療関係者が医療に関する高度の知識及び技能の研修のために要する費用の増額が増加した場合等の法人税額の特別控除措置」を設けること。

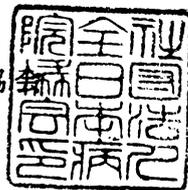
三、医療法人の承継時の軽減措置として、
「医療法人の出資の評価方法については、一般中小法人に適用されている類似業種比準方式をそのまま適用する」と

ミドリ十字事件の処分に対する見解

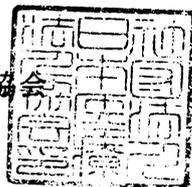
厚生省 保険局

局長 坂本 龍彦 殿

社団法人 全日本病院協



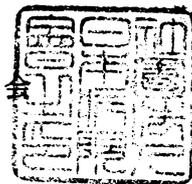
社団法人 日本医療法人協



社団法人 日本精神病院協



社団法人 日本病院



(五十音順)

ミドリ十字事件の処分に対する見解

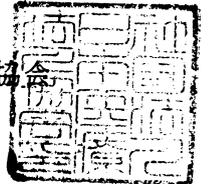
厚生省薬務局

局長 北郷 勲夫 殿

社団法人 全日本病院協



社団法人 日本医療法人協



社団法人 日本精神病院協



社団法人 日本病院 会



(五十音順)

ミドリ十字事件の 処分に対する見解

医薬品メーカー「ミドリ十字」が輸入、分割、販売した未承認の放射性検査薬をめぐる保険の不正（振り替え）請求事件で厚生省は去る12月23日、振り替え請求額が2,000万円以上の医療機関については保険医療機関取り消し及び直接関係者の保険医登録の取り消し、振り替え請求金額が100万円以上2,000万円未満のものは警告とし、100万円未満のものには注意、更に振り替え請求全金額の返還、と処分基準を発表した。

病院団体としては今回の事件は架空請求、水増し請求ではないが、保険診療としての「ルール違反」であり、この処分を謙虚に受けとめ今後この様なことのないよう、管理体制を一層強化するよう反省している。

然し乍ら医療機関の落ち度の他にメーカー、販売会社、行政側に落ち度はなかったであろうか。例えば脳局所血流検査にキセノンガスを使用して行なう機器は昭和55年末厚生省の承認を受けており、この検査は1,800点と定められている。日本脳神経外科学会では数年前からこのガスを使用して脳血流測定の有効性については大量のデータを発表しているのに、昭和62年10月迄は肺換気機能測定用のみ認可されており脳局所血流検査用としては認可されていなかったのは理解に苦しむ処である。一方この5年間近くに亘って国民保険及び社会保険支払基金の審査会でもキセノン-133・ガスをを用いた脳局所血流検査を認めていた。ミドリ十字にしてもキセノン-133・ガスを輸入販売する許可を59年8月に50mciだけとり、保険の薬価基準取載の承認をとらなかった処に誤りが生じたものである。

病院側もミドリ十字社長は元厚生省医務局次長・元業務局長であり、

又、販売購入先の日本アイソトープ協会は科学技術庁の外郭団体であり、公共性の強いものだけに安心して使用していた感がある。この協会は他の販売会社が全て薬価基準取載の有無を記載してあるのに何等このことを知らせなかった。厚生省にしても、審査の厳重を毎年重点項目に掲げ、各審査会に専任審査委員も大勢いるのに何故5年間近くも500病院余の誤った請求に気付かなかったのか。行政側の対応は果して誤りなかったかどうか。

今回の取り消し処分にしても従来は不当又は不正の疑いあるものに対しては医師会の担当役員立合の下に指導し、架空、水増しなどの悪質なものは、又は指導しても直らないものは監査、取り消し等の処分が慣習であった。今回は指導もなくただちに取り消しとなった。折角厚生省医療課に指導監査官が多数おるのに5年間一層の指導もなかったのは甚だ遺憾である。

ミドリ十字は社長の退陣、佐倉工場の35日間の業務停止処分を受けた。医療機関の処分は今回の発表で一応けりがついた様だが、行政側には何もなくてよろしいものであろうか。

当事者は反省すべきである。幸い患者側には何等の傷害、副作用のなかったことは不幸中の幸いである。何れにしても今後行政当局、医療機関、医薬品メーカー、販売会社は協力して事件再発防止に一層の努力をしなくてはならない。

昭和63年12月27日
社団法人 全日本病院協会
社団法人 日本医療法人協会
社団法人 日本精神病院協会
社団法人 日本病院会

老人保健施設実施（転床）に対する提言

社団法人 全日本病院協会



社団法人 日本医療法人協会



社団法人 日本精神病院協会



社団法人 日本病院



(五十音順)

老人保健施設実施（転床） に対する提言

急速に進む人口の高齢化を迎え65歳以上で6カ月以上の寝た切り等の要介護老人が、昭和61年現在で62万人おり、その内訳として病院に25万人、特別養護老人ホームに12万人、在宅25万人と言う。西暦2,000年にはこれが100万人に達するという。入院患者についても現在70歳以上の老人が全入院患者の30%を占めその内6カ月以上の入院患者が46.7%を占めている（表1）。この中には医療や看護の医学的管理は必要ではあるが、必ずしも病院に入院を要しない所謂寝た切り等の要介護老人で、受け皿がなく入院しているものが相当数含まれている。この現状を見れば老人保健施設の設置は急務である。

現在迄の設置状況を見ると、昭和61年度のモデルケースの8施設229床を含み昭和62・63年度迄で176カ所13,489床が国庫補助を受けている。他に厚生省の国庫補助とは無関係に単独で生まれた5施設がある。因に昨年12月8日現在で53施設（3,549床）が収容を開始している。

その詳細は表の如くで医療法人が35施設2,602床と全体の73.8%を占め、老人患者のベット占有に悩み、且地域医療計画によって増床が規制されていることを背景に老人保健施設に意欲的であることがうかがえる。（表2）

又、70%近くが病院併設型ではあるが、厚生省の推奨している転床型の施設は施設数にして10数%、病床数にして2%にも満たない。

医療資源の効率的活用からいってもまた、諸外国に比し多いといわれている一般病床約115万床（病床利用率83%程度）の一部をこの施設に転用を図ることは望ましいことである。

然し乍ら現実にはこの転床が遅々として進まないのは余りにも理想像を追った施設基準があるからである。即ち

<転床>

現在老人の入院比率は表3、表4にみるごとく、小病院、民間病院程高く。又、6カ月以上老人入院患者の比率は、一般病院は44.6%であるが、老人病院では70.0%と高い。従って転床は、老人病院、特に民間の中・小病院において多く図られるのが望ましい。

（1）一部転床の場合

病院と直結している利点が多い。この場合の面積は、モデル施設にもみられる如く22m²/1床程度であっても、病院と共用できる部分が多くあれば差し支えない。施設基準に関しては現在の病棟を容易に転換出来るものでなければ、現実には転床するものは極めて少ないであろう。従って、入居室は従来そのままし、附属施設（デイルーム、食堂など）に重点を置くよう改造したら良い。病院は医療法で一人当り床面積4.3m²以上となっている点も充分に考慮すること。この転床なくしては30万床の増設は不可能であろう。

既設では、廊下の巾拡張は困難であるが、現在の廊下でもすれ違には間に合う筈である。民間病院では、老人ホーム並の面積にすれば収容者は半減する処も出て来る。又、それに応じ職員数の減も図らなくてはならないので、収容人数減は精々1/4程度となるよう臨時の特例で処理するのが望ましい。

（2）病院全部の転床の場合

この場合は一部転床の場合よりは容易であろうが、老人患者の収容生活、社会復帰の場面にふさわしいよう改造することが必要である。この場合も、収容人数が余りにも多く減ることのないようにありたい。

以上の如く臨時の特例処置として当分の間基準を緩和し、転床を図らなくては26~30万床の整備は不可能であろう。

勿論、老人へのアプローチとしては病気だけではなく自然環境、家庭及び社会環境をも重視しなければならない。又、老人患者に対しては、心身両面から総合的に把握し、有効に又効率的にそして人格的に接することが必要である。

厚生省では地域医療計画にて、既に病床過剰地域に於ては、老人保健施設の新設は認めない方針とも聞くが、寝た切り等の要介護老人の急増に対し早急に転床を促進するよう臨時の特例処置を要望し、ここに提言する。

平成元年1月31日

（社）全日本病院協会
（社）日本医療法人協会
（社）日本精神病院協会
（社）日本病院会

表 1 入院期間・年齢階級別構成割合

昭和62年10月

(単位：%)

	総数	0~14日	15~30	1か月~	3か月~	6か月~	1年~	3年~	5年~	6か月~ (再掲)
総数	100.0	21.7	10.7	17.5	9.4	7.8	12.5	5.5	14.7	40.6
0~14歳	100.0	57.4	10.4	11.1	5.2	4.1	4.9	2.3	3.8	15.1
15~34	100.0	39.3	11.3	15.4	6.7	4.9	7.2	3.6	11.2	26.9
35~64	100.0	19.8	11.2	17.4	8.4	5.7	9.4	5.0	22.7	42.9
65歳以上	100.0	15.0	10.0	18.7	11.5	11.0	17.7	6.9	9.1	44.7
70歳以上(再掲)	100.0	14.0	9.4	18.2	11.7	11.8	19.0	7.4	8.6	48.7

注：総数には、入院期間・年齢不詳を含む。

表 2

設置主体別	施設数	定員(床)	設置形態別	施設数	定員(床)
医療法人	35	2,602(73.3)	独 立 設 置	6	496(14.0)
社会福祉法人	5	285(8.0)	病 院 併 設	38	2,439(68.7)
済生会	1	50(1.4)	診 療 所 併 設	4	329(9.3)
日赤連	1	22(0.6)	特 養 併 設	4	235(6.6)
厚生連	2	90(2.5)	病 院 ・ 特 養 併 設	1	50(1.4)
社団法人	1	50(1.4)			
財団法人	4	252(7.1)			
市 町 村	3	148(4.2)			
一部事務組合	1	50(1.4)			
合 計	53	3,549(100.0)	合 計	53	3,549(100.0)

表 3 一般病院における老人入院患者の分布 (%)

<病床規模別>

	総数	20~99	100~299	300~499	500床以上
0~64歳	58.6	48.6	50.7	66.5	74.6
65歳以上	41.4	51.4	49.3	33.5	25.4

<経営主体別>

	総数	国立	自治体・公的	社保団体	医療法人	個人	その他
0~64歳	58.6	75.6	64.8	67.7	56.0	47.6	49.2
65歳以上	41.4	24.4	35.2	32.3	44.0	52.4	50.8

(注) 厚生省患者調査(60年)から

表4 入院期間・精神一般病院の年齢階級別構成割合

(単位：%)

昭和62年10月

	総数	0~14日	15~30	1か月 ~	3か月 ~	6か月 ~	1年 ~	3年 ~	5年 ~	6か月~ (再掲)
精神病院										
総数	100.0	2.2	1.9	6.6	6.2	6.8	16.9	10.4	48.6	82.7
0~14歳	100.0	4.1	5.6	3.4	8.6	10.5	34.1	15.0	11.9	71.5
15~34	100.0	4.3	3.6	12.3	10.5	11.3	21.7	11.0	24.9	68.9
35~64	100.0	1.8	1.6	5.3	5.2	5.5	14.6	9.9	55.7	85.8
65歳以上	100.0	2.4	1.9	6.9	6.8	8.4	21.4	11.4	40.7	82.0
70歳以上(再掲)	100.0	2.4	1.8	7.0	7.5	9.4	23.4	12.2	36.1	81.1
一般病院										
総数	100.0	24.8	12.6	19.7	10.1	3.3	11.8	4.6	7.8	32.6
0~14歳	100.0	55.0	10.9	12.0	5.5	4.3	5.1	2.4	4.1	15.8
15~34	100.0	44.4	13.8	16.8	6.3	3.7	3.9	1.9	8.8	18.3
35~64	100.0	26.5	15.0	21.9	9.7	6.1	7.6	3.2	9.7	26.6
65歳以上	100.0	15.9	10.8	19.5	11.7	11.4	17.4	6.4	6.7	41.9
70歳以上(再掲)	100.0	14.6	10.0	18.8	11.8	12.0	18.7	7.0	6.9	44.6
老人病院(再掲)										
総数	100.0	5.6	4.1	11.1	11.6	15.2	29.5	11.0	11.8	67.5
0~14歳	100.0	61.9	13.5	15.2	1.5	2.4	3.9	1.6	-	8.0
15~34	100.0	27.8	11.7	17.2	7.5	5.5	12.8	5.0	11.4	34.6
35~64	100.0	10.3	5.5	12.6	11.3	11.6	20.8	8.0	19.8	60.1
65歳以上	100.0	4.2	3.7	10.7	11.7	18.1	31.5	11.8	10.3	69.6
70歳以上(再掲)	100.0	4.1	3.6	10.8	11.8	16.3	31.7	11.7	10.2	70.0

注：総数には、入院期間・年齢不詳を含む。

社団法人 日本病院会 役員名簿 (自昭和61年4月1日) (順不同)
至平成元年3月31日

顧問・参与

役職名	氏名	所属	〒	連絡先	電話
顧問	東陽一	中伊豆リハビリテーションセンター顧問	412	静岡県御殿場市二の岡1-17-26 (自宅)	0550-82-1837
〃	阿久津慎	名鉄病院名誉院長 自宅	451 457	愛知県名古屋市中区松前町3-45 愛知県名古屋市中区霞町78	052-551-6121 052-811-4005
〃	左奈田幸夫	病院システム開発研究所会長 自宅	107 155	東京都港区北青山2-5-8 ハザマビルジング内 東京都世田谷区代田4-10-16	03-470-6978 03-328-0830
〃	小野田敏郎	佼成病院名誉院長	176	東京都練馬区中村南3-24 (自宅)	03-990-9589
〃	内藤景岳	総合病院南大阪病院院長 自宅	559 558	大阪府大阪市住之江区東加賀屋 1-18-18 大阪府大阪市住吉区帝塚山中1-8-9	06-685-0221 06-673-4130
〃	遠山豪	遠山病院名誉院長 自宅	514 607	三重県津市南新町17-22 京都市山科区御陵封じ山町3-22	0592-27-6171 075-581-3327
〃	羽田春免	(株)日本医師会会長	101	東京都千代田区神田駿河台2-5	03-291-2121
〃	大浜方栄	参議院議員	100	東京都千代田区永田町2-1-1 参議院議員会館 733号室	03-581-3111 内5733
〃	宮崎秀樹	参議院議員	100	東京都千代田区永田町2-1-1 参議院議員会館 408号室	03-581-3111 内5408
〃	自見庄三郎	衆議院議員	100	東京都千代田区永田町2-1-2 衆議院第2議員会館 231号室	03-581-5111 内7231
〃	渡邊進	㈸日本病院共済会会長 自宅	102 336	東京都千代田区三番町7-2 -ヴァロロイヤル三番町-204 埼玉県浦和市前地2-11-8	03-264-3180 平成元年1.8没 0488-85-7633
〃	大屋拳吾	神戸市立中央市民病院顧問	600	京都府京都市下京区東中筋花屋町 下ル柳町 335 (自宅)	075-371-0078
〃	徳岡三郎	大分県立三重病院顧問 自宅	879-71 870	大分県大野郡三重町宮野3964-1 大分県大分市東春日町5-3 スカイメゾンクローバー80 601号室	09742-2-0357 0975-32-7801
参与	大池真澄	厚生省病院管理研究所所長 自宅	162 155	東京都新宿区戸山1-21-13 東京都世田谷区粕谷3-15-17-204	03-203-5327 03-309-7181
〃	織田敏次	国立病院医療センター院長 自宅	162 184	東京都新宿区戸山1-21-1 東京都小金井市本町6-9-14	03-202-7181 0423-81-0609
〃	行天良雄	N H K 解説委員 自宅	150 240	東京都渋谷区神南2-2-1 神奈川県横浜市保土ヶ谷区桜ヶ丘188	03-465-1111 045-331-2938
〃	内田卿子	聖路加国際病院総婦長 自宅	104 174	東京都中央区明石町10-1 東京都板橋区志村1-34-7-1004	03-541-5151 03-969-7933
〃	有田幸子	(株)日本看護協会会長	150	東京都渋谷区神宮前5-8-2	03-400-8331
〃	高橋則行	(株)日本病院薬剤師会会長	150	東京都渋谷区渋谷2-10-12	03-406-0485
〃	河北博文	河北総合病院理事長	166	東京都杉並区阿佐谷北1-7-3	03-339-2121

役員

役職名	都道府県名	氏名	病院名	経営主体	〒	病院所在地	電話
会長	千葉県	諸橋 芳夫	総合病院国保旭中央病院	市町村 自宅 東京宅	289-25	旭市イの1326	04796-3-8111
					289-25	旭市イの1863	04796-2-0368
					153	目黒区中目黒1-1-17 恵比寿苑211	03-711-6604
副会長	長野県	若月 俊一	厚生連佐久総合病院	厚生連 自宅	384-03	南佐久郡臼田町大字臼田197	0267-82-3131
					384-03	南佐久郡臼田町大字臼田 2,211-2	0267-82-2045
〃	東京都	河野 稔	北品川総合病院	公益法人 自宅	140 150	品川区北品川1-23-19 渋谷区南平台4-8 アジアマンション207	03-474-0028 03-463-2455 63.9.24 退任
〃	大阪府	有澤 源藏	有澤 総合病院	医療法人 自宅	573 573	枚方市中宮東之町12-14 枚方市大垣内町1-3-37	0720-47-2606 0720-43-8360
〃	秋田県	竹本 吉夫	秋田赤十字病院	日赤 自宅	010 010	秋田市中通1-4-36 秋田市高陽青柳町14-2	0188-34-3361 0188-24-4484
常任理事	茨城県	丹野 清喜	水戸済生会総合病院	済生会 自宅	311-41	水戸市双葉台3-3-10	0292-54-5151
					310	水戸市見和2-25-10	0292-53-0666
〃	〃	登内 真	総合病院土浦協同病院	厚生連 自宅	300 161	土浦市真鍋新町11-7 新宿区中落合3-29-6	0298-23-3111 03-951-1982
〃	栃木県	宮崎 柏	栃木県済生会宇都宮病院	済生会 自宅	320 320	宇都宮市中央本町4-17 宇都宮市本丸町1-41 第6チサンマンション308号	0286-34-2151 0286-33-6723
〃	神奈川県	平野 一彌	港北耳鼻咽喉科病院	個人 自宅	222 222	横浜市港北区菊名7-1-11 横浜市港北区菊名7-1-11	045-421-8944 045-421-8946
〃	富山県	西能 正一郎	西能 病院	医療法人 自宅	930 930	富山市五福1130 富山市五福2576-8	0764-41-2481 0764-32-3207
〃	静岡県	中山 耕作	総合病院聖隷浜松病院	社会福祉 法人 自宅	430 433	浜松市住吉2-12-12 浜松市幸2-17-1	0534-74-2222 0534-74-6867
〃	愛知県	岡山 義雄	岡山 病院	医療法人 自宅	460 461	名古屋市中区栄1-30-1 名古屋市東区泉1-17-3 第2オレンジビル8F-A	052-221-1851 052-951-2420
〃	三重県	岡崎 通	国立津病院	国 自宅	514-11 514	久居市新町1022 津市浪見町770-35	05925-5-3120 0592-25-4030
〃	京都府	岡本 隆一	岡本 病院	医療法人 自宅	612 612	京都市伏見区京町9-50 京都市伏見区京町9-36	075-611-1114 075-612-1313
〃	大阪府	二本杉 皎	大阪赤十字病院	日赤 自宅	543	大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-53	06-771-5131
558					大阪市住吉区帝塚山中2-8-15	06-671-2306	
〃	〃	大道 學	大道 病院	医療法人 自宅	536 659	大阪市城東区東中浜1-3-17 芦屋市三条町23-5	06-962-9621 0797-34-0126
〃	兵庫県	北村 行彦	優生 病院	個人 自宅	660 664	尼崎市杭瀬本町2-19-15 伊丹市鈴原町7-49-2	06-488-1851 0727-81-1785
〃	高知県	近藤 慶二	高知県立中央病院	都道府県 自宅	780 780	高知市桜井町2-7-33 高知市中万々字城跡292-32	0888-82-1211 0888-75-4200
〃	熊本県	廣田 耕三	熊本市民病院	市町村 自宅	862 862	熊本市湖東1-1-60 熊本市尾の上2丁目13-23	096-365-1711 096-381-5364

理事

役職名	都府道名	氏名	病院名	経営主体	〒	病院所在地	電話
理事	北海道	嘉戸達也	総合病院浦河赤十字病院	日赤 自宅	057 057	浦河郡浦河町東町ちのみ 1-2-1 浦河郡浦河町常盤町 97	01462-2-5111 01462-2-2079
〃	〃	上田 侃	札幌循環器クリニック	医療法人 自宅	060 060	札幌市中央区北 14条西 18丁目 札幌市中央区北 5条西 29丁目	011-747-5821 011-641-2166
〃	岩手県	金子保彦	岩手県立中央病院	都道府県 自宅	020 020	盛岡市上田 1-4-1 盛岡市天神町 13-20	0196-53-1151 0196-24-4852 平成元年 3.26 没
〃	福島県	遠藤良一	白河厚生総合病院	厚生連 自宅	961 961	白河市横町 114 白河市昭和町 249-3	0248-22-2211 0248-22-1659
〃	〃	星 源之助	総合会津中央病院	公益法人 自宅	965 965	会津若松市鶴賀町 1-1 会津若松市日新町 6-17	0242-25-1515 0242-27-9087
〃	茨城県	渡辺 晃	国立水戸病院	国 自宅	310 310	水戸市東原 3-2-1 水戸市東原 3-3-25	0292-31-5211 0292-26-2226
〃	群馬県	北原 次一郎	社保群馬中央総合病院	全社連 自宅	371 371	前橋市紅雲町 1-7-13 前橋市新前橋町 17-2	0272-21-8165 0272-53-5869
〃	埼玉県	井坂重長	小川赤十字病院	日赤 自宅	355-03 355-03	比企郡小川町小川 1525 東村山市大字高坂 1391-1	0493-72-2333 0493-34-5183
〃	千葉県	柏戸正英	柏戸病院	医療法人 自宅	280 280	千葉市長洲 2-21-8 千葉市長洲 2-21-16	0472-27-8366 0472-22-3759
〃	東京都	中川 三与三	九段坂病院	共済及 連合 自宅	102 185	千代田区九段南 2-1-39 国分寺市富士本 1-31-1	03-262-9191 0425-72-4687
〃	〃	牧野永城	聖路加国際病院	公益法人 自宅	104 104	中央区明石町 10-1 中央区明石町 8-31	03-541-5151 03-545-5939
〃	〃	高山 瑩	高山整形外科病院	医療法人 自宅	125 271	葛飾区金町 3-4-5 千葉県松戸市中矢切 488-28	03-607-3260 0473-62-0655
〃	〃	織本正慶	織本病院	医療法人 自宅	204 177	清瀬市旭が丘 1-261 練馬区東大泉 3-38-10	0424-91-2121 03-922-1271
〃	〃	深瀬邦雄	日比谷病院	医療法人 自宅	100 153	千代田区内幸町 1-3-2 目黒区上目黒 3-31-5	03-502-7231 03-713-2200
〃	神奈川県	樋口公明	国立療養所神奈川病院	国 自宅	257 221	秦野市落合 666-1 横浜市神奈川区片倉町 771-3	0463-81-1771 045-481-3088
〃	〃	崖 節也	秦野赤十字病院	日赤 自宅	257 251	秦野市桜町 1-4-5 藤沢市辻堂東海岸 4-14-4	0463-81-3721 0466-34-7269
〃	〃	小野 肇	大口東総合病院	医療法人 自宅	221 231	横浜市神奈川区入江 2-19-1 横浜市中区石川町 2-78	045-401-2411 045-641-4879
〃	新潟県	寺田 一郎	総合病院国保水原郷病院	市町村 自宅	959-21 959-21	北蒲原郡水原町岡山町 13-23 北蒲原郡水原町北本町 3-13	0250-62-2780 0250-62-2473
〃	〃	亀山宏平	新潟厚生連中央総合病院	厚生連 自宅	940 940	長岡市福住 2-1-5 長岡市柏町 2-11-1	0258-35-3700 0258-33-4475
〃	富山県	石田礼二	富山市立富山市民病院	市町村 自宅	939 939	富山市今泉 292 富山市高屋敷 855-4	0764-22-1112 0764-21-0015
〃	石川県	道下忠蔵	石川県立高松病院	都道府県 自宅	929-12 920	河北郡高松町字内高松ヤ 36 金沢市小立野 2-14-23	0762-81-1125 0762-31-7698
〃	福井県	藤沢正清	福井県済生会病院	済生会 自宅	910 910	福井市中央 2-8-6 福井市大宮 2-10-5	0776-23-1111 0776-21-2033
〃	山梨県	許山 隆	許山胃腸病院	医療法人 自宅	400 400	甲府市中央 1-12-6 甲府市中央 1-12-6	0552-33-5107 0552-33-5107

役職名	都府道 県名	氏名	病院名	経営主体	〒	病 院 所 在 地	電 話
理事	長野県	小口 源一郎	昭和伊南総合病院	市町村	399-41	駒ヶ根市赤穂 3230	02658-2-2121
				自宅	399-41	駒ヶ根市赤穂 4145	02658-3-8706
〃	岐阜県	須原 邦和	岐阜県立岐阜病院	都道府県	500	岐阜市野一色 4-6-1	0582-46-1111
〃	〃	藤掛 敏	藤掛第一病院	個人	501-31	岐阜市静が丘町 14	0582-42-0459
〃	〃	〃	〃	自宅	500	岐阜市一番町 1	0582-65-5255
〃	〃	〃	〃	自宅	500	岐阜市一番町 1	0582-65-5255
〃	静岡県	三好 秋馬	県西部浜松医療センター	市町村	432	浜松市富塚町 328	0534-53-7111
〃	〃	〃	〃	自宅	420	静岡市北安東 5-2-3	0542-45-4569
〃	愛知県	寺田 守	公立陶生病院	市町村	489	瀬戸市西追分町 160	0561-82-5101
〃	〃	〃	〃	自宅	489	瀬戸市南山町 3-38	0561-82-7031
〃	〃	伊藤 研	総合大雄会病院	医療法人	491	一宮市桜 1-9-9	0586-72-1211
〃	〃	〃	〃	自宅	491	一宮市東島町 2-40	0586-73-6110
〃	滋賀県	禰田 博	西大津病院	医療法人	520	大津市錦織 3-10-27	0775-22-5411
〃	〃	〃	〃	自宅	616	京都市右京区宇多野柴橋町 8	075-462-1156
〃	三重県	安保 喜久郎	山本総合病院	医療法人	511	桑名市寿町 3-11	0594-22-1211
〃	〃	〃	〃	自宅	511	桑名市船馬町 11	0594-22-5897
〃	大阪府	豊島 正忠	中津医療福祉センター	済生会	530	大阪市北区芝田 2-10-39	06-372-0333
〃	〃	〃	〃	自宅	565	吹田市古江台 1-20-10	06-872-0810
〃	〃	加納 繁美	総合加納病院	医療法人	531	大阪市淀区天神橋 7-5-26	06-351-5381
〃	〃	〃	〃	自宅	662	西宮市霞町 4-17	0798-36-6000
〃	〃	中後 勝	医療法人愛仁会本部	医療法人	530	大阪市北区兔我野町 4-12	06-315-0576
〃	〃	〃	〃	自宅	662	ニューナショナルビル 5 F 西宮市愛宕山 15-42	0798-73-7278
〃	兵庫県	後藤 保郎	兵庫県立尼崎病院	都道府県	660	尼崎市北城内 27	06-482-1521
〃	〃	〃	〃	自宅	659	芦屋市伊勢町 7-20	0797-22-5834
〃	〃	宮地 知男	宮地病院	医療法人	658	神戸市東灘区本山町 4-1-8	078-451-1221
〃	〃	〃	〃	自宅	658	神戸市東灘区岡本 6-1-26	078-431-1088
〃	〃	荒尾 素次	はりま病院	医療法人	675	加古川市尾上町長田 525	0794-23-2123
〃	〃	〃	〃	自宅	675	加古川市尾上町池田 769-1	0794-23-5619
〃	奈良県	南 益	秋津鴻池病院	医療法人	639-22	御所市大字池の内 1064	07456-2-2058
〃	〃	〃	〃	自宅	639-22	御所市大字柏原 1604	07456-2-2765
〃	和歌山県	中村 了生	中村病院	医療法人	640	和歌山市友田町 2-28	0734-31-0351
〃	〃	〃	〃	自宅	640	和歌山市新内 217	0734-22-5138
〃	〃	遠藤 香苗	和歌浦中央病院	医療法人	641	和歌山市塩屋 6-2-70	0734-44-1600
〃	〃	〃	〃	自宅	642	海南市日方 1188	07348-2-8035
〃	岡山県	山本 泰久	おおもと病院	個人	700	岡山市大元 1-1-5	0862-41-6888
〃	〃	〃	〃	自宅	700	岡山市厚生町 1-12-18	0862-23-0034
〃	広島県	伊藤 剛二	伊藤胃腸科病院	個人	734	広島市南区皆実町 6-15-7	082-254-0311
〃	〃	〃	〃	自宅	734	広島市南区皆実町 6-18-31	082-251-0633
〃	山口県	吉富 正一	総合病院山口赤十字病院	日赤	753	山口市八幡馬場 53-1	0839-23-0111
〃	〃	〃	〃	自宅	753	山口市後河原 33	0839-22-0270
〃	高知県	長崎 彬	高知赤十字病院	日赤	780	高知市新本町 2-13-51	0888-22-1201
〃	〃	〃	〃	自宅	780	高知市薊野 2018	0888-45-7284
〃	〃	岡村 一雄	岡村病院	医療法人	780	高知市入明町 1-5	0888-22-5155
〃	〃	〃	〃	自宅	780	高知市大川筋 2-7-3	0888-25-2626
〃	福岡県	鎌塚 登喜郎	福岡赤十字病院	日赤	815	福岡市南区大楠 3-1-1	092-521-1211
〃	〃	〃	〃	自宅	815	福岡市南区筑紫丘 2-18-26	092-541-4401

役職名	都府道 県名	氏名	病院名	経営主体	〒	病院所在地	電話
理事	長崎県	岩永光治	十善会病院	社会福祉法	850	長崎市籠町7-18	0958-21-1214
				自宅	852	長崎市平野町21-9	0958-44-1984
監事	東京都	村上義次	東京都立豊島病院	都道府県	173	板桥区栄町33-1	03-961-3281
				自宅	182	調布市調布ヶ丘3-28-6	0424-82-5873
"	神奈川県	青山松次	鳥海病院	医療法人	237	横須賀市追浜町3-7	0468-65-3033
				自宅	237	横須賀市追浜町3-7	0468-65-3133
代議員 議長	滋賀県	財津晃	長浜赤十字病院	日赤	526	長浜市宮前町14-7	07496-3-2111
				自宅	526	長浜市八幡東町大字下牛丸540	07496-2-2224
代議員 副議長	東京都	河井博	河井病院	個人	161	新宿区西落合1-27-10	03-951-9116
				自宅	170	豊島区駒込1-13-16	03-945-6068

代 議 員

役職名	都府道 県名	氏名	病院名	経営主体	〒	病 院 所 在 地	電 話
代議員	北海道	野田 潔	白石中央病院	医療法人	062	札幌市白石区平和通3丁目 北2-3	011-861-8171
"	青森県	末武保政	十和田市立中央病院	市町村	034	十和田市西12番町14-8	01762-3-5121
"	"	中村登喜雄	中村整形外科病院	個人	037	五所川原市宇一ッ谷160	0173-34-3315
"	岩手県	倉光 宏	北上済生会病院	済生会	024	北上市花園町1-6-8	0197-64-7722
"	"	遠山美知	遠山病院	医療法人	020	盛岡市下ノ橋町6-14	0196-51-2111
"	宮城県	的場直矢	仙台市立病院	市町村	980	仙台市清水小路3-1	0222-66-7111
"	秋田県	五十嵐 卓	仙北組合総合病院	厚生連	014	大曲市通町1-30	01876-3-2111
"	"	瀬戸泰士	中通病院	医療法人	010	秋田市南通みその町3-15	0188-33-1122
"	山形県	高橋浩一	長井市立総合病院	市町村	993	長井市宮378	02388-4-2161
"	"	篠田昭男	篠田総合病院	医療法人	990	山形市桜町2-68	0236-23-1711
"	福島県	本宿 尚	公立藤田総合病院	市町村	969-17	伊達郡国見町大字塚野目字 三本木14	024585-2121
"	"	渡辺正光	渡辺内科胃腸科病院	医療法人	960	福島市北町1-40	0245-22-9156
"	茨城県	三宅和夫	県西総合病院	市町村	309	西茨城郡若潮町大字畷田604	02967-5-3171
"	"	林 茂樹	水戸協同病院	厚生連	310	水戸市宮町3-2-7	0292-31-2371
"	"	会沢 孝	大洗海岸病院	医療法人	311	東茨城郡大洗町大貫町915	02926-7-2191
"	栃木県	斎藤達郎	大田原赤十字病院	日赤	324	大田原市住吉町2-7-3	02872-3-1121
"	"	佐藤文明	自治医科大学附属病院	学校法人	329	河内郡南河内町大字薬師寺 3311-1	0285-44-2111
"	群馬県	長 洋	前橋赤十字病院	日赤	371	前橋市朝日町3-21-36	0272-24-4585
"	"	山崎 学	慈光会病院	医療法人	370	高崎市上佐野町786-7	0273-47-1177
"	埼玉県	高木紹夫	深谷赤十字病院	日赤	366	深谷市大字上野台856-1	0485-71-1511
"	"	井上寿一	上福岡中央病院	個人	356	上福岡市上福岡1-14-7	0492-62-3131
"	千葉県	伊東和人	国立千葉病院	国立	260	千葉市椿森4-1-2	0472-51-5311
"	"	三橋 稔	習志野第一病院	医療法人	275	習志野市津田沼5-5-25	0474-54-1511
"	"	早田正敏	山之内病院	医療法人	297	茂原市町保3番地	0475-25-1131
"	東京都	川瀬貞臣	社保都南総合病院	全社連	140	品川区東大井5-8-12	03-474-2701
"	"	河村一太	社保蒲田総合病院	全社連	144	大田区南蒲田2-19-2	03-738-8221
"	"	野村益朗	第一病院	医療法人	125	葛飾区東金町4-2-10	03-607-0007
"	"	須藤祐司	嬉泉病院	医療法人	125	葛飾区東金町1-35-8	03-600-9001
"	"	井桁孝正	清瀬上宮病院	社会福祉 法人	204	清瀬市竹丘3-3-33	0424-93-6111
"	"	河井 博	河井病院	個人	161	新宿区西落合1-27-10	03-951-9116
"	"	金地嘉夫	金地病院	個人	114	北区中里1-5-6	03-821-6433
"	"	前沢伯彦	東京前沢整形外科病院	個人	166	杉並区阿佐ヶ谷南2-14-3	03-314-5429 平成元年3.25退任 0468-52-1182
"	神奈川県	山本 敬	総合病院衣笠病院	社会福祉 法人	238	横須賀市小矢部2-23-1	0427-54-2222
"	"	土屋 章	淵野辺病院	医療法人	229	相模原市淵野辺3-2-8	0427-54-2222
"	"	内海栄一郎	総合新川橋病院	医療法人	210	川崎市川崎区新川通1-15	044-222-2111
"	新潟県	青池 卓	信楽園病院	社会福祉 法人	950	新潟市西有明町1-27	0252-67-1251
"	富山県	吉崎 亨	富山県立中央病院	都道府県	930	富山市西長江220	0764-24-1531
"	"	川岸 一郎	万葉病院	医療法人	933	高岡市西海老坂字大坪362	0766-24-2163
"	石川県	能登 佐	石川県立中央病院	都道府県	920-02	金沢市南新保町又153	0762-37-8211

役職名	都府道 府県名	氏名	病院名	経営主体	〒	病院所 在 地	電 話
代議員	石川県	仲井信雄	辰口芳珠記念病院	医療法人	923-12	能美郡辰口町字下開発ル11-1	0761-51-5551
"	福井県	向野栄	福井赤十字病院	日赤	910	福井市月見2-4-1	0776-36-3630
"	山梨県	安田宏	大月市立中央病院	市町村	401	大月市大月町花咲1225	05542-2-1251
"	"	小野良蔵	小野病院	医療法人	400	甲府市若松町4-7	0552-33-4174
"	長野県	青木猛	長野赤十字病院	日赤	380	長野市大字若里1512-1	0262-26-4131
"	"	関守	城西病院	医療法人	390	松本市城西1-5-16	0263-33-6400
"	岐阜県	井戸豊彦	岐阜赤十字病院	日赤	502	岐阜市岩倉町3-36	0582-31-2266
"	"	木澤彰	木澤病院	医療法人	505	美濃加茂市古井町下古井2565	05742-5-2181
"	静岡県	野木村昭平	静岡市立静岡病院	市町村	420	静岡市追手町10-93	0542-53-3125
"	"	鈴木重世	厚生連遠州総合病院	厚生連	430	浜松市常盤町144-6	0534-53-1111
"	"	菊池貞徳	順天堂伊豆長岡病院	学校法人	410	田方郡伊豆長岡町長岡1129	05594-8-3111
"	愛知県	小田博	市立岡崎病院	市町村	444	岡崎市若宮町2-2	0564-21-8111
"	"	富永健二	名古屋第二赤十字病院	日赤	466	名古屋市昭和区妙見町2-9	052-832-1121
"	"	太田元次	名古屋掖済会病院	公益法人	454	名古屋市中区松年町4-66	052-652-7711
"	"	加藤健	三九朗病院	医療法人	471	豊田市小坂町7-80	0565-32-0282
"	"	青山鍵夫	青山病院	医療法人	489	瀬戸市南山町1-53	0561-82-1118
"	三重県	佐々木敬二	桑名市民病院	市町村	511	桑名市大字北別所435	0594-22-7111
"	"	柳瀬恒範	柳瀬病院	個人	514	津市乙部5-3	0592-27-5585
"	滋賀県	財津晃	長浜赤十字病院	日赤	526	長浜市宮前町14-7	07496-3-2111
"	"	加藤明	琵琶湖病院	医療法人	520	大津市坂本本町660	0775-78-2023
"	京都府	中野進	京都四条病院	医療法人	600	京都市下京区四条堀川下ル	075-361-5471
"	"	武田隆男	武田病院	医療法人	601-13	京都市伏見区石田森南町28-1	075-572-6331
"	大阪府	日置辰一朗	総合病院高槻赤十字病院	日赤	569	高槻市阿武野1-1-1	0726-96-0571
"	"	武田惇	大阪府済生会泉尾病院	済生会	551	大阪市大正区泉尾4-13-20	06-552-0091
"	"	岸口繁	府中病院	医療法人	594	和泉市肥子町1-10-17	0725-41-1646
"	"	中野博光	中野小児病院	医療法人	535	大阪市旭区新森4-13-17	06-952-4771
"	"	牧安孝	牧病院	医療法人	535	大阪市旭区清水3-28-17	06-953-0120
"	兵庫県	木村欣一	市立伊丹病院	市町村	664	伊丹市昆陽池1-100	0727-77-3773
"	"	岡田康男	姫路赤十字病院	日赤	670	姫路市龍野町5-30-1	0792-94-2251
"	"	多胡檜祐	城南多胡病院	医療法人	670	姫路市本町15	0792-25-2211
"	"	安田俊吉	廣野高原病院	医療法人	673-02	神戸市西区北山台3-1-1	078-994-1155
"	奈良県	久米道雄	済生会奈良病院	済生会	630	奈良市杉ヶ町24	0742-22-6881
"	"	沢井陽一	沢井病院	公益法人	630	奈良市船橋町8	0742-23-3086
"	和歌山県	前川暢夫	和歌山赤十字病院	日赤	640	和歌山市小松原通り4-1	0734-22-4171
"	"	濱正純	浜病院	医療法人	640	和歌山市吹上2-4-7	0734-36-2141
"	"	月山和男	月山病院	個人	640	和歌山市小松原通り1-3	0734-23-2300
"	鳥取県	岩宮緑	鳥取県立中央病院	都道府県	680	鳥取市江津730	0857-26-2271
"	"	野島鉄之助	野島病院	医療法人	682	倉吉市瀬崎町2714-1	08582-2-6231
"	島根県	杉浦純宦	島根県立中央病院	都道府県	693	出雲市今市町116	0853-22-5111

役職名	都府道 県名	氏名	病院名	経営主体	〒	病院所在地	電話
代議員	島根県	赤水一郎	永生病院	医療法人	699-18	仁多郡横田町大字横田1063-1	08545-2-0250
"	岡山県	木田恵三	新見中央病院	医療法人	718	新見市新見827-1	08677-2-2110
"	"	滝沢千之助	水島第一病院	医療法人	712	倉敷市神田2-3-33	0864-44-5333
"	広島県	岩森茂	広島市立安佐市民病院	市町村	731-02	広島市安左北区可部町大字中島 1770-1	08266-5-5211
"	"	斎藤紀	福島生協病院	その他 法人	733	広島市西区都町42-7	082-292-3171
"	山口県	伊藤穆	小野田市立病院	市町村	756	小野田市大字東高泊1863-1	08368-3-2355
"	"	村田寿太郎	村田博愛病院	医療法人	747	防府市三田尻1-1-24	0835-22-2310
"	徳島県	松森茂	小松島赤十字病院	日赤	773	小松島市中田町字新開28-1	08853-2-2555
"	"	中西修	中西病院	医療法人	770	徳島市中通町1-29	0886-26-3822
"	香川県	美馬恭一	香川県済生会病院	済生会	760	高松市桜町1-16-4	0878-33-1551
"	"	藤原憲和	総合病院回生病院	医療法人	762	坂出市室町3-5-28	08774-6-1011
"	愛媛県	土屋定敏	総合病院松山赤十字病院	日赤	790	松山市文京町1	0899-24-1111
"	"	宮田信濃	松山市民病院	公益法人	790	松山市大手町2-6-5	0899-43-1151
"	高知県	山本彰芳	高知市立市民病院	市町村	780	高知市丸の内1-7-45	0888-22-6111
"	"	田中稔正	田中整形外科病院	医療法人	780	高知市上町3-2-6	0888-22-7660
"	福岡県	兵働貞夫	浜の町病院	共済及 合連	810	福岡市中央区舞鶴3-5-27	092-721-0831
"	"	井手一郎	聖マリア病院	医療法人	830	久留米市津福本町422	0942-35-3322
"	"	佐々木勇之進	福岡病院	医療法人	811-32	宗像郡福岡町2310	0940-42-0145
"	佐賀県	井口潔	佐賀県立病院好生館	都道府県	840	佐賀市水ヶ江1-12-9	0952-24-2171
"	"	山口弾之	至誠会病院	医療法人	840	佐賀市田代2-7-24	0952-24-5325
"	長崎県	藤田長利	日赤長崎原爆病院	日赤	852	長崎市茂里町3-15	0958-26-4231
"	"	福井順	長崎記念病院	医療法人	851	長崎市深堀町1-11-54	0958-71-1515
"	熊本県	松金秀暢	熊本赤十字病院	日赤	862	熊本市長嶺町2255-209	0963-84-2111
"	"	田中民夫	田中病院	医療法人	860	熊本市新市街7-17	0963-54-0055
"	大分県	岡村幹雄	大分赤十字病院	日赤	870	大分市千代町3-2-37	0975-32-6181
"	宮崎県	本松研一	宮崎県立宮崎病院	都道府県	880	宮崎市北高松町5-30	0985-24-4181
"	"	黒木建	黒木病院	医療法人	882	延岡市祇園町2-3-10	0982-21-6381
"	鹿児島県	時任純孝	鹿児島市立病院	市町村	892	鹿児島市加治屋町20-17	0992-24-2101
"	沖縄県	比嘉實	沖縄赤十字病院	日赤	900	那覇市古波蔵113	0988-53-3134

各種委員会委員名簿

(自 昭和61年4月1日)
(至 平成元年3月31日)
(順不同)

1. 医療制度委員会 (担当副会長 若月俊一)

委員長	丹野清喜	水戸済生会総合病院	院長	茨城県	0292-54-5151
副委員長	小西宏	済生会神奈川県支部		神奈川県	045-662-4721
	左奈田幸夫	病院システム開発研究所	会長	東京都	03-470-6978
	井上昌彦	(前北里大学教授)		東京都	0466-36-8491 (自宅)
	原俊夫	(前公立昭和病院院長)		東京都	0593-51-0493 (自宅)
	星源之助	総合会津中央病院	院長	福島県	0242-25-1515
	牧野永城	聖路加国際病院	院長	東京都	03-541-5151
	伊賀六一	東京都済生会中央病院	院長	東京都	03-451-8211
	嶋崎佐智子	(株)日本看護協会	常任理事	東京都	03-400-8331
	荒井蝶子	聖路加看護大学	教授	東京都	03-543-6391
	池上直己	慶應義塾大学医学部	助教授	東京都	03-353-1211
	河北博文	河北総合病院	副理事長	東京都	03-339-2121
	天本宏	天本病院	院長	東京都	0423-75-9581

2. 病院管理運営委員会

1) 統計調査部会 (担当副会長 河野 稔)

部会長	大道學	医療法人大道会	理事長	大阪府	06-962-9621
	伊藤研	総合大雄会病院	院長	愛知県	0586-72-1211
	中後勝	高槻病院	院長	大阪府	06-315-0576
	中野進	京都四条病院	院長	京都府	075-361-5471
	宮崎柏	済生会宇都宮病院	院長	栃木県	0286-34-2151
	三宅浩之	関東通信病院	部長	東京都	03-448-6537
	関田康慶	東北大学医学部	助手	宮城県	022-274-1111
	田中博	浜松医科大学附属病院医療情報部	助教授	静岡県	0534-35-2111
	梅里良正	日本大学医学部	助手	東京都	03-972-8111
	飯田信吾	北品川総合病院健康医学センター	部長	東京都	03-474-1351

2) 医療事故対策部会 (担当副会長 河野 稔)

部会長代行	遠藤 良一	白河厚生総合病院	院長	福島県	0248-22-2211
委員	藤森 暢路	藤森病院	院長	兵庫県	0792-24-1357
	亀田 俊忠	亀田総合病院	院長	千葉県	04709-2-2211
	竹内 實	北広島病院	院長	北海道	01137-3-5811
	前田 マスヨ	東海大学病院	看護部長	神奈川県	0463-93-1121
	松澤 孝子	東京都済生会中央病院	看護科長	東京都	03-451-8211

3) 防災対策部会 (担当副会長 若月俊一)

部会長	岡山 義雄	岡山病院	院長	愛知県	052-221-1851
副部会長	小原 知次郎	小原病院	院長	兵庫県	078-521-1222
	上林 三郎	聖路加国際病院	事務長	東京都	03-541-5151
	倉持 一雄	自治医科大学	技監	栃木県	0285-44-2111
	岸上 香	岡山病院	理事	愛知県	052-221-1851
	石田 貞治	大口東総合病院	事務長	神奈川県	045-401-2411

4) 労務・福利厚生・用度部会 (担当副会長 若月俊一)

部会長	近藤 慶二	高知県立中央病院	院長	高知県	0888-82-1211
副部会長	加納 繁美	総合加納病院	院長	大阪府	06-351-5381
	中野 進	京都四条病院	院長	京都府	075-361-5471
	本宿 尚	公立藤田総合病院	院長	福島県	0245-85-2121
	星 源之助	総合会津中央病院	院長	福島県	0242-25-1515
	大倉 富美雄	岩井総合病院	本部長	東京都	03-658-2111
	大塚 暢	聖隷福祉事業団	専務理事	静岡県	0534-73-2150
	梅津 勝男	日比谷病院	庶務課長	東京都	03-502-7231
	緒方 廣市	武蔵野赤十字病院	医事課長	東京都	0422-32-3111

3. 給食委員会 (担当副会長 竹本吉夫)

委員長	中山 耕作	聖隷浜松病院	院長	静岡県	0534-74-2222
副委員長	財津 晃	長浜赤十字病院	院長	滋賀県	07496-3-2111
	新村 明	篠ノ井病院	名誉院長	長野県	0262-92-2261
	中村 了生	中村病院	院長	和歌山県	0734-31-0351
	山本 辰芳	(元国立病院医療センター栄養管理室長)		東京都	03-202-7181

宇井美代子	聖路加国際病院	栄養科長	東京都	03-541-5151
米山貞治	東京衛生病院	栄養科長	東京都	03-392-6151
吉野節子	吉祥院病院	給食部長	京都府	075-672-1331

4. 勤務医対策委員会 (担当副会長 有澤源藏)

委員長	宮崎 柏	済生会宇都宮病院	院長	栃木県	0286-34-2151
	安東 三郎	(前神戸市立西市民病院)	前院長	兵庫県	078-576-5251
	石井 昭郎	相模原協同病院	院長	神奈川県	0427-72-4291
	鍬塚 登喜郎	福岡赤十字病院	院長	福岡県	092-521-1211
	笹森 典雄	牧田総合病院	副院長	東京都	03-762-4671
	佐々 英達	佐々病院	院長	東京都	0424-61-1535
	有賀 徹	公立昭和病院	医師	東京都	0424-61-0052
	岡本 重禮	聖路加国際病院	医師	東京都	03-541-5151

5. 教育委員会 (担当副会長 竹本吉夫)

委員長	登内 真	土浦協同病院	院長	茨城県	0298-23-3111
副委員長	渡辺 晃	国立水戸病院	院長	茨城県	0292-31-5211
	太田 元次	名古屋掖済会病院	院長	愛知県	052-652-7711
	川北 祐幸	順天堂医院	副院長	東京都	03-813-3111
	三宅 浩之	関東逋信病院	部長	東京都	03-448-6537
	三宅 史郎	日本大学医学部	部長	東京都	03-972-8111
	米田 啓二	全国自治体病院協議会	事務局長	東京都	03-261-8555
	益田 啓作	横浜赤十字病院	事務部長	神奈川県	045-622-0101
	加藤 正弘	江戸川病院	院長	東京都	03-673-1221
	内田 卿子	聖路加国際病院	総婦長	東京都	03-541-5151
	松林 恵子	(社)日本看護協会	卒後教育部長	東京都	03-400-8331

6. 通信教育委員会 (担当副会長 竹本吉夫)

委員長	高橋 政祺	杏林大学医学部	教授	東京都	0422-47-5511
副委員長	竹村 喬	大阪府立母子保健 総合医療センター	センター長	大阪府	0725-56-1220
	犬塚 貞光	福岡大学医学部	教授	福岡県	092-801-1011
	一条 勝夫	自治医科大学	教授	栃木県	02854-4-2111
	岡山 政義	岡山病院	副院長	愛知県	052-221-1851

栗田静枝	(元聖路加国際病院診療録管理室室長)	東京都	03-402-5613 (自宅)
酒井隆子	大津市民病院	滋賀県	0775-22-4607
大町文子	(元日本バプテスト病院医事記録主任)	京都府	075-701-8016 (自宅)
笠井良一	(元日本バプテスト病院事務部長補佐)	京都府	075-451-7035 (自宅)

7. 臨床予防医学委員会 (担当副会長 河野 稔)

委員長	二本杉 皎	大阪赤十字病院 院長	大阪府	06-771-5131
副委員長	鈴木豊明	東京警察病院 内科部長	東京都	03-263-1371
副委員長	藤間弘行	藤間病院 院長	埼玉県	0485-22-0600
	安藤幸夫	聖路加国際病院 内科部長	東京都	03-541-5151
	大川日出夫	日本鋼管病院 副院長	神奈川県	044-333-5591
	清瀬 闊	三井記念病院 副院長	東京都	03-862-9111
	笹森典雄	牧田総合病院 副院長	東京都	03-762-4671
	田中剛二	南台病院 院長	東京都	0423-41-7111
	金澤鉄男	青森県立中央病院 副院長	青森県	0177-26-8302
	丹野三男	仙台市立病院 元院長	宮城県	022-266-7111
	小関忠尚	京都第二赤十字病院 副院長	京都府	075-231-5171
	寺田由紀夫	大阪赤十字病院 検査部長	大阪府	06-771-5131
	宇津典彦	国立久留米病院 院長	福岡県	0942-21-4571
	松岡 研	P L 病院 副院長	大阪府	07212-4-3100
	三木 徹	丸山病院 院長	兵庫県	078-642-1031

8. 社会保険・老人保健委員会 (担当副会長 若月俊一)

委員長	北村行彦	優生病院 院長	兵庫県	06-488-1851
副委員長	竹内正也	(前いわき市立常磐病院院長)	福島県	0246-43-4175
	宮地知男	宮地病院 院長	兵庫県	078-451-1221
	中橋彌光	西陣病院 院長	京都府	075-461-8800
	山川 真	白鷺病院 院長	大阪府	06-714-1661
	寺田一郎	水原郷病院 院長	新潟県	02506-2-2780
	鈴木武雄	足利赤十字病院 院長	栃木県	0284-21-0121
	三上 晃	三井記念病院 顧問	東京都	03-866-8432 (和泉クリニック)
	千葉兼三	千葉病院 院長	東京都	03-471-7578

9. 医療経済委員会(担当副会長 有澤源藏)

委員長	岡本隆一	岡本病院	院長	京都府	075-611-1114
副委員長	土屋章	渕野辺病院	院長	神奈川県	0427-54-2222
	岩井宏方	岩井総合病院	院長	東京都	03-658-2111
	児玉博行	大原記念病院	院長	京都府	075-744-3121
	吉牟田勲	日本大学国際関係学部	教授	東京都	0559-86-5500
	蘭部雅一	(前兵庫医科大学理事)		兵庫県	0798-45-6500
	石井孝宜	森公認会計士共同事務所	公認会計士	東京都	03-230-3808
	伊藤寛	伊藤会計事務所	公認会計士	愛知県	052-541-0166
	長隆	長隆公認会計事務所	公認会計士	東京都	03-583-0053
	酒泉春雄	河北総合病院	顧問	東京都	03-339-2121

10. 国際委員会(担当副会長 河野稔)

委員長	牧野永城	聖路加国際病院	院長	東京都	03-541-5151
副委員長	紀伊國献三	筑波大学	教授	茨城県	0298-53-2111
	高橋勝三	武蔵野赤十字病院	副院長	東京都	0422-32-3111
	竹内正也	(前いわき市立常磐病院院長)		福島県	0246-43-4175
	高橋政祺	杏林大学医学部	教授	東京都	0422-47-5511
	三宅浩之	関東逋信病院	部長	東京都	03-448-6537
	波多野誠	九段坂病院	部長	東京都	03-262-9191
	関武矩	聖路加国際病院	庶外部長	東京都	03-541-5151
	長澤泰	病院管理研究所	主任	東京都	03-203-5327
	河北博文	河北総合病院	副理事長	東京都	03-330-8500
	池上直己	慶応義塾大学医学部	助教授	東京都	03-353-1211
	高橋淑郎	杏林大学医学部	助手	東京都	0422-47-5511

11. 組織委員会(担当副会長 有澤源藏)

委員長	伊藤研	総合大雄会病院	院長	愛知県	0586-72-1211
	南溢	秋津鴻池病院	院長	奈良県	07456-2-2058
	廣田耕三	熊本市立熊本市市民病院	院長	熊本県	096-365-1711
	財津晃	長浜赤十字病院	院長	滋賀県	07496-3-2111
	登内真	土浦協同病院	院長	茨城県	0298-23-3111
	星源之助	総合会津中央病院	院長	福島県	0242-25-1515

西能正一郎	西能病院	理事長	富山県	0764-41-2481
北村行彦	優生病院	院長	兵庫県	06-488-1851
岩永光治	十善会病院	理事長	長崎県	0958-21-1214
須藤祐司	嬉泉病院	院長	東京都	03-600-9001
早川大府	葛西中央病院	院長	東京都	03-680-8121

12. 学術委員会 (担当副会長 竹本吉夫)

委員長	岡崎通	国立津病院	院長	三重県	05925-5-3120
副委員長	中山耕作	聖隷浜松病院	院長	静岡県	0534-74-2222
	北原哲夫	(元東京通信病院)	院長	東京都	03-328-5610 (自宅)
	一条勝夫	自治医科大学	教授	栃木県	02854-4-2111
	高橋政祺	杏林大学医学部	教授	東京都	0422-47-5511
	三宅浩之	関東通信病院	部長	東京都	03-448-6537
	山本修	(元都立大塚病院)	院長	東京都	03-941-9321 (自宅)
	岩淵勉	下谷病院	院長	東京都	03-872-8181
(相談役)	渡邊進	成田赤十字病院	名誉院長	千葉県	0488-85-7633 (自宅)

13. 広報委員会 (担当副会長 河野 稔)

委員長	西能正一郎	西能病院	理事長	富山県	0764-41-2481
副委員長	岸口繁	府中病院	理事長	大阪府	0725-41-1646
	井坂重長	小川赤十字病院	院長	埼玉県	0493-72-2333
	須藤祐司	嬉泉病院	院長	東京都	03-600-9001
	河北博文	河北総合病院	副理事長	東京都	03-339-2121
	大田浩右	大田記念病院	院長	広島県	0849-31-8650
	宇井美代子	聖路加国際病院	栄養科長	東京都	03-541-5151
	木村千枝子	東京日立病院	総婦長	東京都	03-831-2181
	佐々木和男	河北総合病院	事務長	東京都	03-339-2121
	設楽正登	佼成病院	臨床検査部副技師長	東京都	03-383-1281
	平和夫	東京都済生会中央病院	放射線科技師長	東京都	03-451-8211
	三上晃	三井記念病院	医事課顧問	東京都	03-866-8432 (和泉クリニック)
	三竹年世子	杏林大学医学部付属病院	病歴室	東京都	0422-47-5511
	八木下将也	同愛記念病院	薬剤科長	東京都	03-625-6381
(参与)	行天良雄	日本放送協会	解説委員	東京都	03-465-1111

14. 諸規程検討委員会(担当副会長 竹本吉夫)

委員長	廣田 耕三	熊本市市民病院	院長	熊本県	096-365-1711
副委員長	大道 學	医療法人大道会	理事長	大阪府	06-962-9621
	平野 一彌	港北耳鼻咽喉科病院	院長	神奈川県	045-421-8944
	登内 真	土浦協同病院	院長	茨城県	0298-23-3111
	小野 肇	大口東総合病院	理事長	神奈川県	045-401-2411
	財津 晃	長浜赤十字病院	院長	滋賀県	07496-3-2111
	河井 博	河井病院	院長	東京都	03-951-9116
	斎藤 正夫	石和温泉病院	事務長	山梨県	05526-3-0111
	石山 稔	聖路加国際病院	総務次長	東京都	03-541-5151
	高橋 彦太郎	(株)日本病院会	事務局長	東京都	03-265-0077

15. 中小病院委員会(担当副会長 有澤源藏)

委員長	西能 正一郎	西能病院	理事長	富山県	0764-41-2481
副委員長	牧 安孝	牧病院	院長	大阪府	06-953-0120
	鎌田 剛	函館赤十字病院	院長	北海道	0138-51-5315
	渡辺 正光	渡辺内科胃腸科病院	院長	福島県	0245-22-9156
	柏戸 正英	柏戸病院	院長	千葉県	0472-27-8366
	青山 鍵夫	青山病院	院長	愛知県	0561-82-1118
	荒尾 素次	はりま病院	院長	兵庫県	0794-23-2123
	山本 泰久	おおもと病院	院長	岡山県	0862-41-6888
	梅田 政吉	済生会今治病院	院長	愛媛県	0898-47-2500
	遠藤 博志	松戸市立病院	院長	千葉県	0473-63-2171
	星 源之助	総合会津中央病院	院長	福島県	0242-25-1515
	河北 博文	河北総合病院	副理事長	東京都	03-330-8500
	古畑 正	古畑病院	院長	東京都	03-424-0705
	石山 紘	大和病院	院長	東京都	0425-62-1411
	岡田 玲一郎	社会医療研究所	所長	東京都	03-914-5565

[特別委員会]

1. 病院情報センター委員会

委員長	三宅浩之	関東通信病院	部長	東京都	03-448-6537
	青木禧和	北町病院	事務長	東京都	03-931-0011
	飯田信吾	北品川総合病院健康医学センター	部長	東京都	03-474-1351
	池田博	東海大学・東京病院	事務部	東京都	03-370-2321
	一条勝夫	自治医科大学	教授	栃木県	02854-4-2111
	大道久	日本大学医学部	助教授	東京都	03-972-8111
	岡田行雄	(前) N J K 技術顧問		東京都	03-499-2895
	河北博文	河北総合病院	副理事長	東京都	03-330-8500
	里村洋一	千葉大学附属病院	部長	千葉県	0472-22-7171
	土井義行	舞子台病院	事務長	兵庫県	078-782-0055

2. 国際モダンホスピタルショウ

担当副会長	河野稔	北品川総合病院	院長	東京都	03-474-0023
研究研修 委員長	登内真	土浦協同病院	院長	茨城県	0298-23-3111
企画委員長	三宅浩之	関東通信病院	部長	東京都	03-448-6537

3. 老人保健施設対策特別委員会

委員長	諸橋芳夫	国保旭中央病院	院長	千葉県	04796-3-8111
	北村行彦	優生病院	院長	兵庫県	06-488-1851
	竹内正也	(前) いわき市立常磐病院	院長	福島県	0246-43-4175
	西能正一郎	西能病院	理事長	富山県	0764-41-2481
	牧安孝	牧病院	院長	大阪府	06-953-0120
	伊藤研	総合大雄会病院	院長	愛知県	0586-72-1211
	南溢	秋津鴻池病院	院長	奈良県	07456-2-2058

4. 国民医療総合対策特別委員会 (62.6.27 決定)

委員長	諸橋芳夫	国保旭中央病院	院長	千葉県	04796-3-8111
	有澤源藏	有澤総合病院	院長	大阪府	0720-47-2606
	丹野清喜	水戸済生会総合病院	院長	茨城県	0292-54-5151

登内 真	土浦協同病院	院長	茨城県	0298-23-3111
西能 正一郎	西能病院	理事長	富山県	0764-41-2481
中山 耕作	聖隷浜松病院	院長	静岡県	0534-74-2222
大道 學	医療法人大道会	理事長	大阪府	06-962-9621
北村 行彦	優生病院	院長	兵庫県	06-488-1851
財津 晃	長浜赤十字病院	院長	滋賀県	07496-3-2111
河北 博文	河北総合病院	副理事長	東京都	03-339-2121

〔他団体との連携委員〕

1. 病院診療報酬適正化推進会議

代表委員	諸橋 芳夫	国保旭中央病院	院長	千葉県	04796-3-8111
	有澤 源藏	有澤総合病院	院長	大阪府	0720-47-2606
	竹本 吉夫	秋田赤十字病院	院長	秋田県	0188-34-3361
	登内 真	土浦協同病院	院長	茨城県	0298-23-3111
	北村 行彦	優生病院	院長	兵庫県	06-488-1851
	牧野 永城	聖路加国際病院	院長	東京都	03-541-5151
	柏戸 正英	柏戸病院	院長	千葉県	0472-27-8366
	三宅 浩之	関東通信病院	部長	東京都	03-448-6537

2. 四病院団体連絡協議会(代表委員 諸橋芳夫)

<総合部会>

河野 稔	北品川総合病院	院長	東京都	03-474-0023
有澤 源藏	有澤総合病院	院長	大阪府	0720-47-2606

<税制委員会>

有澤 源藏	有澤総合病院	院長	大阪府	0720-47-2606
石井 孝宜	森公認会計士共同事務所	公認会計士	東京都	03-230-3808

<医療制度委員会>

廣田耕三	熊本市立熊本市市民病院	院長	熊本県	096-365-1711
大道學	医療法人大道会	理事長	大阪府	06-962-9621
藤掛敏	藤掛第一病院	院長	岐阜県	0582-65-5255

<医療経済委員会>

岡本隆一	岡本病院	理事長	京都府	075-611-1114
北村行彦	優生病院	院長	兵庫県	06-488-1851
伊藤研	総合大雄会病院	院長	愛知県	0586-72-1211

<看護小委員会>

諸橋芳夫	国保旭中央病院	院長	千葉県	04796-3-8111
河野稔	北品川総合病院	院長	東京都	03-474-0023
廣田耕三	熊本市立熊本市市民病院	院長	熊本県	096-365-1711

<給食委託研究会>

中山耕作	聖隷浜松病院	院長	静岡県	0534-74-2222
財津晃	長浜赤十字病院	院長	滋賀県	07496-3-2111

会 員 状 況

平成元年 3月31日現在

都道府県名	会 員 数	都道府県名	会 員 数	都道府県名	会 員 数
北 海 道	55	石 川	20	岡 山	71
青 森	22	福 井	16	広 島	47
岩 手	18	山 梨	27	山 口	32
宮 城	24	長 野	30	徳 島	6
秋 田	27	岐 阜	31	香 川	15
山 形	14	静 岡	68	愛 媛	32
福 島	35	愛 知	133	高 知	44
茨 城	45	三 重	44	福 岡	81
栃 木	20	滋 賀	25	佐 賀	9
群 馬	37	京 都	65	長 崎	41
埼 玉	53	大 阪	175	熊 本	25
千 葉	106	兵 庫	153	大 分	10
東 京	256	奈 良	40	宮 崎	14
神 奈 川	114	和 歌 山	72	鹿 児 島	15
新 潟	64	鳥 取	14	沖 縄	9
富 山	24	島 根	13	合 計	2, 291

会 員 種 別	昭和63年 3月31日	平成元年 3月31日	増 減
正 会 員	2, 232	2, 291	59
賛 助 会 員 A	147	145	△ 2
〃 B	161	170	9
〃 C	0	0	0
〃 D	88	84	△ 4
〃 計	396	399	3
合 計	2, 628	2, 690	62